# 読書科学

第2巻第1号〈通巻第3号〉昭和32年4月25日発行（年4回1，4，7，10月各月25日発行）
昭和31年12月27日国鉄特別扱雑誌　第3373号

読書生活の目的……中田邦造
青年と漱石の作品……岡本奎六
「読書世論調査」の報告……日本読書学会社会調査部会
児童雑誌の実態とその評価……成蹊小学校教育研究所
児童雑誌の性格……阪本一郎
児童の読書生活とAccessibilityの問題について……飯田公一

日本読書学会編集

3

牧書店発行

# 目　次


**原　著**

| | | |
|---|---|---|
| 読書生活の目的 | 中田邦造 | 1 |
| 青年と漱石の作品 | 岡本奎六 | 6 |
| 読書世論調査の報告 | 日本読書学会第4研究部会 | 11 |
| 児童雑誌の実態とその評価 | 成瞬小学校教育研究所 | 17 |
| 児童雑誌の性格 | 阪本一郎 | 24 |
| 児童の読書生活と Accessibility の問題について | 飯田公一 | 33 |

**時の話題**　41

**資　料**

| | | |
|---|---|---|
| 基準読書研究資料 (三) | 深川恒喜 | 43 |
| The great Books Foundation の歴史と活動 | 廿日出逸暁 | 45 |
| 本校生徒の読書興味傾向の調査について | 荒井積 | 50 |
| 読書実態の推移 (II) | 佐々木磧哉 | 55 |
| 読書に関する欧文参考文献 (II) | 室伏武 | 61 |

**会　報**　63


## 日本読書学会役員名簿

会　長 (理事長)　石山脩平
副会長　阪本一郎
理　事　石山脩平　裏田武夫　大内茂男　岡本奎六　勝田守一
阪本一郎　佐藤泰正　島崎敏樹　長島貞夫　波多野完治
花田哲幸　平沢薫　深川恒喜　松村康平　村石昭三
村上俊亮　室伏武　望月久貴　森田宗一　(19名)
常任理事　石山脩平　阪本一郎　島崎敏樹　長島貞夫　波多野完治
平沢薫　深川恒喜　(7名)
監　事　大内茂男　村石昭三　(2名)
「読書科学」編集委員　石山脩平　岡本奎六　阪本一郎　平沢薫
波多野完治　深川恒喜　村石昭三　望月久貴　(8名)

# 読書生活の目的*

中田邦造**

以下の一文は，中田邦造氏の遺稿の一部である。氏は明治30年，滋賀県に生れ，第八高等学校を経て，京都大学文学部哲学科を卒業され，昭和2年石川県立図書館長事務取扱を振り出しに，図書館界に入り，終生を図書館事業に尽された。すなわち，昭和6年石川県立図書館長となり，15年東大図書館に転じ，19年，日比谷図書館長に補せられ，24年同館長を退任された。退職後は，読書についての学問的な研究の集大成に努力され，その他，雑誌文献目録の作成業にも力を尽され，31年11月15日逝去された。石川県立図書館長時代に創唱された読書学級の構想は，今日読書会等の形となって発達してきており，その他，氏の提唱や研究になる数多くの業績がある。氏の遺稿は，日本図書館協会において整理出版の予定であるが，ここには，氏の読書学の大著の原稿の中から，一部を掲載し，故人の業績を公けにする一助としようとするものである。（石田清一記）

## 1　読書目的についての反省

### (イ)　読書活動における目的の有無

読書現象はそれが概念的にどのように分析されようとも，現実には必らず何等かの目的をもった一つの生活活動であると見られる。読書が必らず何等かの目的をもっているということについては疑問をさしはさむ人々がなくはない。調子の高い読書放談などして独りで楽しんでいる人々の中には，読書の目的を問題とするようなことを，何か低級な功利主義の仕草のようにけなしている人もある。そうした読書観にも一つの立場はあろう。気のあった親しい友達と解放された立場で，自由な会話をとりかわすような感興にも似た叙情詩的な読書の思い出から，余りにも実用的功利主義的読書観に反対することは根拠がなくはない。しかしそうした根拠から否定せねばならぬものは，読書に目的があるということ自体ではなくて，余りにも狭く実用的に限られた目的を押し立てることにあるのであるまいか。実用的な目的をもった読書もそれとして行われてならぬ理由はなく，さればとて読書の目的を，常に実利的なものでなければならぬかの如く限ることは適当でない。特殊目的をもつことの可否適否は別としても読書といったような人間の精神的行為に目的があると見ることは一応当然のことであろう。

### (ロ)　読書目的と目的意識の有無

読書が何等かの目的をもった生活活動であるとしても，勿論我々の読書に常にハっキリと何等かの目的意識をもっているとばかりは言えないであろう。我々は明らかに目的意識のない読書をする場合のあることを認め得る。しかしそうした読書に果して全然目的がないと言い得るであろうか。全然目的なしと見られるような読書は，我々の生活において，どういう意味をもつであろうか。一見して無目的に見えるような，目的意識のない読書があるとすれば，読書において目的意識をもつということは，どういう意味をもつことであろうか。こういう諸問題を明らかにするために，我々は読書の目的という

* Fundamental Objectives in Reading

** By Kunizo Nakata

言葉にどのような意味が含まれているかを吟味してみる必要があると思う。

## 2 読書目的の語意

### (イ) 目的・目標・理想・対象の語意

日常用いられている読書目的なる言葉の意味は至極あいまいである。それには二つの面があるようである。その一つは目的なる語意のあいまいさであり，他は読書目的の実質のあいまいさである。従って読書目的について明確なる理解を得るためには，第一に目的の語意を明らかにする必要がある。

目的とは意志が実現しようとして目ざす的である。しかしそれには少くとも二義を区別しなければならない。そしてそのためには目標や理想や対象との関係を明らかにする必要があろう。我々は何事かを意志する場合，外に何等かの標的を定めてそれに到達しようとする。その標的を目標という。その目標を立てる場合にそれを立てる意志の側にあってその場を動機づける根拠となるものが目的である。一々の意志活動には目的がある。その目的の完全な姿として一連の目的活動を動機づけ統一させるものが理想である。従って理想とは連結する生命の目的的活動に対して一貫した目的となるものということができる。真善美聖などという価値が人生の理想と呼ばれるのもそうした最終的に追求せらるべきものとしての意味があるからである。一切の生命活動に対しては何等かその働きを受けるものがある。視る働きには色があり，聴く働きを受けるものとしては音がある。食欲には食べ物があり，美的鑑賞作用には芸術品がある。それらを夫々の働きの対象という。意志活動においてはその目的や理想の姿を含められたものが対象である。

### (ロ) 読書における対象・理想・目標・目的

それらの概念を読書という働きについてみるに，読書活動の対象となるものは言うまでもなく図書である。図書には読書活動の目的とする知識・真理が含まれている。我々の読書活動は図書を対象として知識を知識の形におさめられた自然・社会・人生のあらゆる内容をめざして働くのである。図書は著者によって読む者に対して何事かを伝える意図をもって書かれたものである。読者はそれを知ってその内容を伝えうけることによって何等かの生命の満足を得ることを目的として読む。即ち完全なる読書は著者の意図を充分に満足させることによって読者自らの目的が充分に達成せられるところにあると言えよう。そういう読書が行われることが一冊の図書にとっては理想であろう。しかし著者の目的は一書に託されているが，読者の読書目的は広汎である。一書の次にはこれに続くものが予想される。そして短い生涯によって最も良き内容づけをするにはどうしたらよいかといった読書生活の理想が描かれ得るのである。そうした読書理想を実現するために具体的な読書計画を立てるならば，我々は年々歳々に或は全体として或は部門毎に何等かの目標を立てて読むことの必要を感ずるのである。

## 3 読書目的の多様性

### (イ) 読書目的の多様性の原因

読書は我々の生活における目的的活動であるという場合，その目的とはどういう内容をもつものであろうか。言うまでもなく，図書がその内容としてもつ事柄は，我々の生活面の一切に及ぶほど多岐多様のものであるから，これを読むということにおいて，我々のもつ目的も決して単純なものではない筈である。読書の目的については一応その言葉がもつ意味について述べた。ところで図書なるものが，単に読者の目的のために利用されればよい，といった利用価値からのみ見られる商品的存在でなく，読者に何事かを理解させ，伝達し承認させようとする，或は著者の要求に従わぬものにはその読書を拒否するといった著述者自身の目的を含んだものであって，しかもその内容が多岐多端にわたり，時に著者相互の間に全然相容れない意見も含まれているばかりか，同一著者が自己の前著を否定するとかいったこともあることを思えば，これを読むという目的も亦自ら複雑なる姿を示すことは当然と見られる。それ以上に読書主体のもつ目的が，個人個人において，又同一人においても読む図書毎に，又

読む時毎に，特に人間としての成長発達に伴って，著しい変化のあることを考えると，読書目的について記述することの困難さを想わないわけにはいかないのである。それにも拘らず，否，それ故にこそその事情を明らかにして，読書の目的についての理解を明確にする必要が痛感されるのである。

### (ロ) 読書目的の種々相

(1) 読書目的分類の着眼点

読書目的を単に一々の読書活動において有るか無いかといった問題に限定せず，現実の読書活動においてどのような目的が立てられているかを反省しそれを秩序立ててみて，読書目的なるものが如何なる種類をもち性質をもっているかを明らかにするにはどのような着眼を必要とするであろうか。

読書が如何なる目的をもっているかを明かにするには先ず，我々が読書によって如何なる生命の欲求を満足させているかを明かにする必要があろう。その場合読書を手段方法とすることによって多方面の要求が満足され又満足されようとしていることは，我々が日常に経験しているところである。そしてその場合生命の要求が人間生活の全面に関係していることは，現在活用されている図書の世界の広がりを見ることによって明らかである。それは今日世界各国で図書館の蔵書目録を作る場合の必須の道具として用いられている各種の図書分類表が幾万幾十万の細目をもっても尚充分とされていないことによって察することができよう。

こゝに問題になることは図書の分類ではなく，読書目的の分類である。そしてそのためには知識の分類を知りそれを生産する生命活動の内容を区別することによって少くとも一つ手がかりを得ることができると信ずる。即

**読書に関する生命活動の目的の分類**

一 読書を手段と方法として達しようとする目的

1. 個我的生命の目的
   - (イ) 感興的目的
     - 第一 好奇的関心の満足のための一方法として (感興)
     - 第二 情意的関心の満足のための一方法として
   - (ロ) 生命充実の目的
     - 第三 現実生活充実の実用知目的を達する一方法として (求知実用)
     - 第四 社会生活への適応のための学習修養の一方法として (学習)
     - 第五 英知的生命への覚醒のための学習修養鑑賞教養研究の方法として (習熟)
     - (学術的学習，道徳的修養，芸道的修養，宗教的求道目的の読書) (教養)
   - (ハ) 精神的休養の目的
     - 第六 苦悩回避，慰安目的のための一方法として (慰安)
     - 第七 休養安静目的のための一方法として (休養) (研究技術)
2. 社会的生命の目的
   - (イ) 社会生活へ個人を覚醒適応させるための教育訓練の目的
     - 第八 教育方法の研究工夫の補助的方法として
     - 第九 実地訓練の実践工夫の補助的方法として
   - (ロ) 社会生活の現状保持充実のための目的
     - 第十 社会的自覚をもち又公職の立場にあるものの立場から秩序維持改善充実をはかるため立法的行政的方法的経営的諸施設的に行う一切の情報収集調査研究等のための補助的方法として (情報) (調査) (社会研究)
   - (ハ) 社会生活に理想を実現する目的
     - 第十一 社会理想の研究実現のための調査研究計画の補助手段として
3. 英知的生命の目的
   - (イ) 学術的研究目的
     - 第12 自然科学的社会科学的研究の補助として
     - 第13 文化科学的研究の主要方法として (学術研究)
     - 第14 哲学的先験科学的研究の主要方法として
   - (ロ) 文学的研究目的 第15 文学的研究の主要手段として (文学鑑賞)
   - (ハ) 芸道的生活目的
     - 第16 芸道的創作実践の工夫研究の補助方法として
     - 第17 芸道的鑑賞の補助方法として (芸道修練修業)
   - (ニ) 道徳的生活目的 第18 道徳的精神練磨の主要方法として (修行)
   - (ホ) 宗教的生活目的
     - 第19 求道的精進工夫の補助方法として
     - 第20 信生活享受の主要方法として (求信)
   - (ヘ) 個我的社会的生命を英知的生命に覚醒させるための啓蒙運動目的

二 生命の直接欲求目的としての読書

4. 読書すること自体に生命の満足を見出す目的としての読書
   - 英知的生命
     - 文学的鑑賞読書
     - 学術的教養読書
     - 道徳的修養読書
     - 宗教的求道読書
   - 個我生命
     - 感興読書
     - 休養読書
5. 読書力涵養のための読書実践

ち個我的に低い生命の欲求，社会的立場に立って働く生命の欲求，英知的立場に立って働く生命の欲求に応じてそれぞれの内容を分析してみれば，そこに何等かの目的の類型的なものが見出されるかと見られる。

## 4 無目的の読書

読書することに何等の目的がないならば，敢て読書をする必要もなければ，仮にそうい読書をしたにしても，それの価値について論議などするまでもないことで単なる偶然的現象として見過しておけばよいことである。しかし無目的の読書ということには，そういう偶然的現象としてのものの外に，高い価値を問題にし得ているものがある。その意味の無目的読書は，読書生活における所謂功利実効を目指してはいない。そのような読書の価値を主張するものにあっては，読書を単に日常生活に実利的に役立つといった観点からばかり評価することは適当でないとするのである。読書は一冊の図書を読んだから一冊分の利益が伴うというような考え方をしないでも，自らの効果は充分にあり，仕甲斐のあるものであるというように読書の広い文化的意義を支持しているのである。

事実我々の読書には目的は勿論あるが，功利的な意味では目的意識のないことが，ハッキリしない場合が多い。このような場合にはともすると無批判的に読書の価値を過信して，読みさえすれば何か役に立つだろうといった意識をひそませていることもある。無目的読書の用を認めている人々の中には，著者に信頼し，その思想情操にふれること自体に満足や悦びを感じ，読書そのことに興味を感じている人があるのである。

意識的計画的に，このような所謂無目的読書の立場に立つ人は，読書目的は読書そのことの中にあるとしているのであって，読書すれば結果として何か獲物があるであろうと期待しているのではない。そういう考え方はその実単なる無目的読書ではなく，読書の刹那刹那に著者と交歓し，図書の内容を機縁として自由自在に思慮し感情し気を晴らしているといったことに満足し，そういう目的を尊重しているのである。

かような読書は言うまでもなく単なる無目的読書というべきものではない。目前の効果にとらわれず，最も大きく基本的に，読書主体の人格形成的効果を信じて，自由な読書を営んでいるに外ならないであろう。

## 5 目的としての読書

### (イ) 手段としての読書の目的化

読書が目的をもつということは，それがその目的を達成するための手段方法たるにすぎないということにならないであろうか。確かに目的の立て方によっては，読書がその手段方法にすぎないこともあり，しかもその手段方法たることが，読書によらねばならぬということでなく，他の実地に見るとか直接聴くとか実験するとかいう幾つかの方法の一にすぎないこともある。それに反して方法なり手段ではあるが，読書によることが唯一の方法であり，少くとも最も正確であり或は最も簡便でありうるという場合もある。そうした場合に，ある目的を達するためには唯一資料たる図書を読む方法によらねばならず，そのための一定量の読書が困難なる作業であるため容易ではないが，基本目的を達するため唯一の方法としてどうしても追求し実現せねばならぬ中間目的ともなるといったこともある。キリストの信仰に生きるためにバイブルを読むことは最終的意味においての目的ではないが，実際にはバイブルを如何に読みこなし得るかということは基本的な問題である。その場合にバイブルを読みこなすことはそれ自体が一つの目的となる。かような意味において手段方法として行われるべき読書がそれ自身に独特の価値をもつことにより，それを読むこと自体を独立の目的と化することが少くない。

### (ロ) 目的自体としての読書

読書に目的が認められるということには，それを別目的のための手段方法として役立てるという目的が認められるということでなく，読書そのことに目的見出すという場合もあるのである。

例えば文学書と文学的に読む文学読書の如きは明らかにそれ自体を目的と認めることができる。文学的創作は

それ自体が読書することを目的として生み出されたものであり，これを読むものも読むことによってどうするといった附帯的目的を立てることはあるにしても，基本目的は読んで鑑賞すること自体にあるのである。文学として鑑賞するそのことは人間の生活において独立の価値ある行為の一種であって，他の目的のためにすることではない。哲学読書においても同様で，哲学書を他の目的のために読むこと哲学書として読まないことである。哲学書を読むということは，著者の著述の秩序に従って追思索することであり，哲学思索に追体験することはやがて読書を通じて自己自身の移り行くもので，哲学的読書はそれ自体目的行為である。

道徳は実践の問題であって，道徳に関する読書はそれ自身が目的であるとは言い得ない。しかし我々が道徳読書に沈潜してその徳性を涵養することは生活意志を浄化して道徳意志化することであって如何なる善行為も善意志にまさる善はないと言われる如く，それ自身が道徳的実践性を培うものである。国民の生活問題，思想問題，経済問題，国際問題等について，社会的正義，国際的道義を明らかにし，読む者をしてその道において自得せしめるような図書を読むことは，それとして独立の価値をもつ道徳読書ということができる。如何なる目的をもって読書にとりかかったにせよ，そうした価値に気がついた時はそこに当初の目的以上の目的を見出し得るのである。科学にせよ，芸道にせよ，宗教にせよ，それの研究的創造的一面においては，読書はその補助的一手段というにとゞまるでもあろうが，科学精神を培い，芸道精神，宗教心を涵養するといったことは読書によって実現されることであり，教養的読書の直接の目的として取立てられるだけの独立の価値をもつものである。

このように目的そのものとしての読書について考える際，そういう目的に適するものとして著述せられた図書が，如何なるものであるかと言えば英知的立場において著わされたるものは学識書にせよ情意識書にせよ，すべてそういう意義をもつということができよう。もちろんそのような図書がそれとしてどの程度に成功しておるかということ，従ってそのような目的そのものとしての読書の効果がどの程度にあげられるかといったことは別の問題として考えられねばならないことであろう。

# 青年と漱石の作品*

## 青年期における文学作品への接近と理解（第2報告）

日本読書学会第二研究部会

岡　本　奎　六**

### I　研究方法のあらまし

われわれは，夏目漱石の「坊っちゃん」について11項目からなる接近調査を行ない，その結果をすでに前号で報告した。この研究報告は，これに引き続いて行なわれたもので，研究方法のあらましはつぎのとうりである。

(1) 調査を行なった作品は，漱石のつぎの6作品である。

1．わが輩は猫である（この報告では今後「猫」と書く）
2．三四郎
3．草枕
4．虞美人草
5．それから
6．門

(2) 調査項目は，各作品共通で，つぎの5項目である。

1．内容を知っているかどうか
2．どうして内容を知ったか
3．読んだものは，いつ頃読んだか
4．読んだものは，どんな読み方をしたか
5．読んだものは，どんな読後感をもったか

なお，調査形式は客観的テストにより，該当する選択肢に印をつけさせた。

(3) 調査期日は昭和31年12月，被験者は東京の優秀な中学・高校2校，郡部の普通の中学・高校2校で，各学年8学級ほぼ400名ずつである。このうち，男女の比率はほぼ等しい。（この点は前号の調査と同じである）

(4) 調査資料は，つぎの三つの観点から集計を行なった。

1．学年別に，どのような変化が見られるか
2．地域差はどのようであるか
3．男女差はどのようであるか

### II　接近の学年差はどのようであるか

(1) 内容を知っているものの学年差

第1表　内容を知っているものの割合（学年別）

| 学校＼学年＼作品 | 中学 | | | | 高校 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 平均 | 1年 | 2年 | 3年 | 平均 |
| 1. 猫 | 87 | 94 | 94 | 91 | 91 | 93 | 89 | 91 |
| 2. 三四郎 | 23 | 51 | 72 | 47 | 56 | 56 | 64 | 58 |
| 3. 草枕 | 7 | 13 | 36 | 18 | 37 | 38 | 75 | 50 |
| 4. 虞美人草 | 3 | 11 | 15 | 9 | 37 | 23 | 29 | 26 |
| 5. それから | 3 | 7 | 12 | 7 | 16 | 20 | 24 | 20 |
| 6. 門 | 2 | 10 | 7 | 6 | 9 | 11 | 11 | 10 |

第1表に見られるように，作品の内容を知っているものの割合(%)は，どの作品についても，上級学年になるほど増加している。ただ，作品により，増加の比率や傾向に型がある。

第1の型は「猫」(わが輩は猫である)の型で，これは中学の始めから，内容を知っているものが多い。前号で報告した「坊っちゃん」は，中学生は平均62%のものが，高校生は平均84%のものが知っており，これもほぼ「猫」

---

* Study on the Approach and Appreciation of the Literature by the Secondary Pupils. (the 2nd Report)

** By Keiroku Okamoto (the 2nd Study Group, JSSR)

の型といえよう。

第2の型は「草枕」がその代表的なものである。これは，中学一年生では，ほとんど知っていないが，上級学年に進むにつれて，知ってもいるのの割合が直線的に増加し，高校三年では大部分のものが知っているものである。「三四郎」も，ほぼこの型に属するといえよう。

最後に「門」の型で，これは高校三年になっても，中学一年と同様に，ほとんどすべての生徒が知っていない型である。「それから」「虞美人草」も，ほぼこの型に入るといえよう。同一の作者の作品に，このような三つの型があるということは，おもしろい現象である。これは，作品の持つ思想内容の水準と，これを受け入れる生徒の能力水準との関係によって現われたものと思われる。この点は読書指導の上に，一つの参考資料となろう。

(2) 作品内容を知った理由

第2表 作品内容を知った理由

| 理由 / 学校別 / 作品 | 読書 | 漫画 | 映画 | 放送 | お話 | 無答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) |
| 1. 猫 | 84(89) | 7(1) | 1(0) | 8(4) | 4(6) | 9(13) |
| 2. 三四郎 | 24(44) | 8(2) | 10(13) | 4(4) | 3(4) | 57(47) |
| 3. 草枕 | 17(43) | 1(0) | 0(0) | 1(0) | 1(4) | 82(54) |
| 4. 虞美人草 | 86(16) | 0(0) | 1(0) | 3(4) | 1(3) | 88(74) |
| 5. それから | 7(18) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(1) | 95(81) |
| 6. 門 | 6(9) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(1) | 94(90) |

いかなるコミュニケーションの回路を通して，作品内容を知るに至ったか。その知るに至った理由は，表に見られるように，読書が圧倒的に多い。これは，6作品全体を通じていえることである。この他に，二三の作品については，漫画・映画・放送・お話など，さまざまなコミュケーションの回路を通して知るようになっている。中学生と高校生の比較を行なうと，読書によるものは高校生がはるかに多いが，漫画によるものは中学生の方が多い。他のコミュニケーションの回路については，はっきりした傾向が見られないといってよかろう。

(3)作品を読んだ学年

第3表 読んだ学年（高校三年生について）

| 学年別 / 作品名 | 小学校 | 中1 | 中2 | 中3 | 高1 | 高2 | 高3 | 無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 猫 | 8 | 12 | 25 | 25 | 10 | 7 | 2 | 24 |
| 2. 三四郎 | 1 | 7 | 10 | 9 | 17 | 11 | 2 | 46 |
| 3. 草枕 | 1 | 2 | 5 | 3 | 9 | 38 | 16 | 29 |
| 4. 虞美人草 | 0 | 3 | 2 | 3 | 9 | 7 | 2 | 75 |
| 5. それから | 0 | 0 | 3 | 5 | 5 | 5 | 3 | 78 |
| 6. 門 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 3 | 2 | 89 |

これらの作品を読んだ時期についての調査結果は，表に見られるとうりである。この表をみると，すでに述べた調査(1)の三つの型に対応した関係が見られる。

第1の猫の型の作品はすでに若干のものは小学校時代に読んでいる。そして，最も多く読むのは中学2年であるから，この型の作品は，中学生向きといえよう。

第2の草枕の型は，上級学年ほど多く読まれる傾向があり，高校2年が最高となっている。したがってこれは，少くとも高校生向きということができよう。

第3の門の型は，中学・高校の各学年を通して，読まれる事が極めて低い。したがって，これは一般的には中学・高校向きということはできないであろう。

ここで注意すべき点は，この6作品のうち5作品については，最も多く読まれている学年は，高校の1・2年である。この点から考えると，漱石の作品に対して，集中的に接近が行なわれるのは，高校1・2年のころであると，推定することができよう。

(4) 作品の読み方

第4表 作品の読み方（中学・高校別）

| 読み方 / 学校 / 作品 | 一部読む | とばし読み | 普通に読む | 繰返し読む | 無答 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) | 中学(高校) |
| 1. 猫 | 38(25) | 8(12) | 34(41) | 12(8) | 14(15) |
| 2. 三四郎 | 4(8) | 6(5) | 17(30) | 2(4) | 66(53) |
| 3. 草枕 | 46(17) | 5(8) | 6(17) | 1(3) | 83(58) |
| 4. 虞美人草 | 3(7) | 2(2) | 4(11) | 0(9) | 90(53) |
| 5. それから | 3(5) | 1(2) | 3(11) | 0(1) | 92(82) |
| 6. 門 | 2(3) | 1(2) | 4(9) | 0(1) | 93(88) |

作品の読み方の相違を，中学・高校別に集計したのが

上の第4表である。これによると，中学生では作品の一部を読む場合が多い。これは教科書，参考書のようなものに一部が掲げてあり，それを読むということであろう。とくに一部を読む読み方が，「猫」「草枕」それに前号で紹介した「坊っちゃん」に多いことから，そのように推定できる。しかしながら，IIの(1)であげた第3の「門」の型の作品については，終りまで普通に読むものが多い。これは，中学生で門型の作品を読む生徒は，極く限られた読書家に限定されているので，いきおい単行本で全部読み通すのであろう。

高校生の読み方では，全作品を通じて，終りまで普通に読み通すものが最も多く，中学生に比べると，一部を読むものの割合が著しく減少している。中学生と比べて，著しいも一つの特色は，二度以上繰り返し読むものの割合が増加している点である。これらの点から考えると，中学生に比べ，高校生の読み方ははるかに足が地についたものとなることがわかる。少くとも，この作品に関する限り，読んだ生徒の過半数は，着実な読み方をしていることがわかる。

(5) 作品の読後感

第5表 作品の読後感（中学・高校別）

| 読後感 / 作品＼学校 | 為になった 中学 | 為になった (高校) | おもしろかった 中学 | おもしろかった (高校) | 難しかった 中学 | 難しかった (高校) | つまらなかった 中学 | つまらなかった (高校) | 無答 中学 | 無答 (高校) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 猫 | 8 | (6) | 67 | (61) | 3 | (4) | 6 | (8) | 10 | (29) |
| 2. 三四郎 | 3 | (8) | 28 | (30) | 6 | (4) | 8 | (3) | 65 | (60) |
| 3. 草枕 | 4 | (12) | 4 | (10) | 5 | (12) | 5 | (7) | 84 | (58) |
| 4. 虞美人草 | 0 | (3) | 2 | (8) | 4 | (4) | 2 | (6) | 91 | (48) |
| 5. それから | 0 | (3) | 2 | (5) | 2 | (3) | 3 | (5) | 93 | (84) |
| 6. 門 | 1 | (2) | 1 | (3) | 2 | (2) | 4 | (2) | 98 | (91) |

第5表は読後感の調査結果である。読後感といっても，表の各項目のうち，自分の該当する欄に印をつけさせたのであって，自由に感想文を書かせたものではない。したがって，読後感としては，極めて不充分なものである。

表によると，「猫」，「三四郎」，それに前号で報告した「坊っちゃん」については，「おもしろかった」という読後感が，中学・高校を通じて，圧倒的に多い。それ以外の作品については，中学生では「為になった」「おもしろかった」という満足感を伴なう読後感より，「つまらなかった」「難かしかった」という不満足感を伴なう読後感の方が多い。とくに，「門」型の作品にこの傾向は著しく現われている。この点からみると，中学生では，極く限られたすぐれた読み手でも，後者を読むには，かなり抵抗が強いといえよう。

高校生については，「草枕」以下の作品については，「為になった」「おもしろかった」という満足感を伴なう読後感と，反対に不満足感を伴なう読後感とが，ほぼ相半ばしている。ここからみると，これらの作品を読む，読書家の高校生にとっては，これらの作品もかなり積極的な意味を持っているように思われる。

以上は，漱石の6作品への接近を，学年別，ないし学校別という発達的な観点から眺めたものである。

## III 接近の地域差男女差はどのようであるか

(1) 作品内容を知っているものの地域差・男女差

第6表 作品内容を知っているものの割合（地域別と男女別）

| 地域別 / 作品＼学校 | 市部 中学 | 市部 (高校) | 郡部 中学 | 郡部 (高校) | 男子 中学 | 男子 (高校) | 女子 中学 | 女子 (高校) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 猫 | 90 | (95) | 93 | (87) | 89 | (88) | 94 | (94) |
| 2. 三四郎 | 56 | (72) | 39 | (44) | 43 | (53) | 52 | (65) |
| 3. 草枕 | 26 | (61) | 11 | (39) | 17 | (22) | 48 | (53) |
| 4. 虞美人草 | 14 | (39) | 5 | (15) | 6 | (19) | 19 | (30) |
| 5. それから | 12 | (29) | 3 | (11) | 6 | (15) | 44 | (26) |
| 6. 門 | 9 | (15) | 7 | (7) | 7 | (7) | 9 | (13) |

表にみられるように，作品内容を知っているものの割合は，地域別，男女別によりかなり差が見られる。すなわち，地域別では，市部の方が郡部よりも，全作品を通じて内容を知っているものの割合がはるかに多い。これは市部の方が，読書環境にめぐまれており，盛んに自由読書を行なっていることを示すものであろう。市部の生徒は，東京都でもすぐれた中学校・高校の生徒を選んだと

いう，見本選択にも一つの原因があろう。

男女別についていえば，男子よりも女子の方が，はるかによく内容を知っている。この事は，6作品全部についていえることであり，しかも中学生・高校生の別なくいえることである。この結果からみると，中学・高校においては，男子よりも女子が漱石の作品により多く接近しているのではないかと考えられる。

(2) 作品内容を知った理由の地域差・男女差

第7表 作品内容を知った理由の地域差・男女差(高校)

| 作品＼理由 | 読 | | 書 | | 漫画 | | 映画 | | 放送 | | お話 | | 無答 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域別 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 |
| 1. 猫 | 90 | 75 | 2 | 0 | 0 | 1 | 6 | 1 | 3 | 9 | 8 | 17 | | |
| 2. 三四郎 | 64 | 24 | 1 | 3 | 7 | 18 | 5 | 2 | 4 | 3 | 30 | 53 | | |
| 3. 草枕 | 51 | 34 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 3 | 44 | 64 | | |
| 4. 虞美人草 | 27 | 12 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 | 2 | 4 | 3 | 66 | 84 | | |
| 5. それから | 25 | 11 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 78 | 67 | | |
| 6. 門 | 14 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 81 | 89 | | |
| 性別＼作品 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | |
| 1. 猫 | 76 | 89 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 4 | 7 | 4 | 17 | 8 | | |
| 2. 三四郎 | 39 | 50 | 2 | 2 | 15 | 10 | 2 | 5 | 2 | 4 | 47 | 36 | | |
| 3. 草枕 | 39 | 46 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 3 | 56 | 52 | | |
| 4. 虞美人草 | 11 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 3 | 4 | 81 | 72 | | |
| 5. それから | 12 | 24 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 86 | 75 | | |
| 6. 門 | 8 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 91 | 77 | | |

高校生について，作品内容を知ったコミュニケーションの回路を集計したのが，上の表である。この表の読書を通して知ったものについては，市部は郡部の生徒より，女子は男子よりも多い。その他のコミュニケーションの回路については，このような一義的な関係が見られない。

なお，読書が盛んに行なわれる作品は，他のコミュニケーションの回路（映画や放送やお話）を通しても，内容を知ったものがいる。このことは，映画や放送に組まれるような作品は，広く読まれるような一般性を持っているということを裏書きしているといえよう。

(3) 作品を読んだ時期の地域差，男女差

第8表 作品を読んだ時期の地域別，男女別（高校生について）

| 作品＼読んだ時期 | 小学校のとき | | 中学のとき | | 高校のとき | | 無答 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域別 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 |
| 1. 猫 | 13 | 5 | 75 | 66 | 11 | 9 | 11 | 21 |
| 2. 三四郎 | 3 | 2 | 41 | 19 | 28 | 13 | 30 | 67 |
| 3. 草枕 | 2 | 0 | 29 | 8 | 27 | 24 | 38 | 64 |
| 4. 虞美人草 | 0 | 0 | 17 | 5 | 14 | 8 | 79 | 87 |
| 5. それから | 0 | 0 | 16 | 4 | 10 | 5 | 73 | 90 |
| 6. 門 | 0 | 0 | 7 | 3 | 7 | 3 | 86 | 94 |
| 男女別＼作品 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 1. 猫 | 8 | 11 | 65 | 76 | 7 | 13 | 21 | 10 |
| 2. 三四郎 | 2 | 2 | 26 | 34 | 19 | 23 | 54 | 43 |
| 3. 草枕 | 2 | 0 | 18 | 18 | 24 | 30 | 49 | 52 |
| 4. 虞美人草 | 0 | 0 | 8 | 16 | 9 | 16 | 83 | 76 |
| 5. それから | 0 | 0 | 8 | 12 | 6 | 10 | 86 | 78 |
| 6. 門 | 0 | 0 | 4 | 6 | 4 | 5 | 92 | 88 |

読んだ時期を小学校のとき，中学校のとき，高校のときに三大別してみると，市部の生徒は，郡部の生徒より，各時期とも，多くのものが読んでいる。市部・郡部別の読んだものの比率が最も異るのは，中学の時である。このことは，市部の生徒は，中学の時期に，これらの作品に盛んに接近し始めるが，郡部ではそれほどでもないということになろう。

男女別については，各時期を通じて，女子の方が男子より，より多く読んでいる。しかもこの傾向は，小学校より中学，中学より高校の方が著しいことがわかる。

(4) 作品の読み方の地域差，男女差

第9表 作品の読み方の地域差，男女差（高校生について）

| 作品＼読み方 | 一部読む | | とばし読み | | 普通に読む | | 繰返し読む | | 無答 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域別 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 |
| 1. 猫 | 23 | 28 | 9 | 14 | 49 | 34 | 11 | 5 | 10 | 20 |
| 2. 三四郎 | 12 | 4 | 6 | 5 | 43 | 16 | 5 | 3 | 34 | 73 |
| 3. 草枕 | 24 | 15 | 7 | 8 | 21 | 13 | 4 | 2 | 44 | 65 |
| 4. 虞美人草 | 9 | 5 | 3 | 1 | 17 | 6 | 18 | 1 | 70 | 97 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5. それから | 6 | 3 | 3 | 1 | 17 | 4 | 1 | 1 | 4 | 91 |
| 6. 門 | 3 | 3 | 2 | 3 | 9 | 6 | 1 | 2 | 85 | 86 |

| 作品＼男女別 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 猫 | 27 | 23 | 12 | 11 | 36 | 47 | 5 | 12 | 19 | 10 |
| 2. 三四郎 | 6 | 10 | 4 | 6 | 27 | 33 | 3 | 41 | 59 | 47 |
| 3. 草枕 | 17 | 21 | 8 | 7 | 13 | 17 | 2 | 4 | 59 | 51 |
| 4. 虞美人草 | 3 | 12 | 1 | 3 | 8 | 17 | 0 | 2 | 88 | 74 |
| 5. それから | 3 | 6 | 1 | 3 | 8 | 14 | 1 | 1 | 87 | 76 |
| 6. 門 | 3 | 3 | 3 | 3 | 6 | 9 | 1 | 2 | 88 | 83 |

先ず読み方をみると，市部，郡部をとわず，高校生は一部だけ読んだり，とばし読みをしたものは少なく，終りまで普通に読むものが多い。そして，比率からみて市部，郡部の読み方の相異が大きいのは，終りまで普通に読む読み方と，繰り返し読む読み方である。これは，市部高校生の方が，郡部の高校生よりも，より深い読み方をしていることを物語るものといえよう。

比率から見た読み方の相異は，男女の間にもみられる。表によれば，一部読んだり，走り読みをすることの男女の比率にくらべると，終りまで普通に読んだり，繰り返し読んだりすることの男女の比率の方が，はるかに差が大きい。そしてこれは，男子にくらべ，女子の方が，より熱心におちついて読んでいるということであろう。

(5) 作品の読後感の地域差，男女差

**第10表** 作品の読後感の地域差，男女差 (高校生について)

| 作品＼読後感＼地域別 | 為になった | | おもしろかった | | 難かしかった | | つまらなかった | | 無答 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 | 市 | 郡 |
| 1. 猫 | 4 | 9 | 60 | 62 | 6 | 3 | 11 | 5 | 36 | 22 |
| 2. 三四郎 | 6 | 10 | 44 | 16 | 6 | 2 | 1 | 4 | 35 | 85 |
| 3. 草枕 | 12 | 13 | 16 | 3 | 12 | 13 | 10 | 4 | 48 | 67 |
| 4. 虞美人草 | 2 | 4 | 13 | 3 | 4 | 4 | 9 | 2 | 81 | 87 |
| 5. それから | 3 | 3 | 9 | 1 | 5 | 2 | 7 | 2 | 76 | 91 |
| 6. 門 | 1 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 88 | 94 |

| 作品＼男女別 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 猫 | 7 | 6 | 55 | 67 | 3 | 6 | 11 | 5 | 31 | 26 |
| 2. 三四郎 | 9 | 7 | 23 | 37 | 4 | 1 | 8 | 6 | 58 | 62 |
| 3. 草枕 | 12 | 13 | 9 | 10 | 11 | 14 | 8 | 6 | 62 | 54 |
| 4. 虞美人草 | 2 | 4 | 7 | 10 | 2 | 6 | 3 | 9 | 86 | 78 |
| 5. それから | 3 | 3 | 3 | 7 | 3 | 4 | 4 | 6 | 88 | 79 |
| 6. 門 | 1 | 3 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 | 3 | 93 | 89 |

読後感の地域差が最も多く現われているのは，「おもしろかった」という項目と「つまらなかった」という項目である。一般に市部の高校性の方が，おもしろかった，つまらなかったといういずれの解答も多い。これに対して郡部の高校生は，相対的には為になるかどうかという観点から，読後感を持つ傾向が強いようである。もちろん，絶対値からいえば，郡部の高校生でも，おもしろいかどうかという点に読後感の中心をおくものが多い。なお，「難かしかった」という読後感が市部の高校生に多い。これは，市部高校生は多くのものが読んでいるので，そのためにこういう読後感の絶対数が多くなったのではなかろうか。

男女差については，為になったかどうかという読後感は，相対的には男子に多い。女子の方は，おもしろかったかどうかという観点からする読後感が，相対的にはおおい。これは，男女の読む態度やパーソナリティの相違を反映するものではなかろうか。作品別にみると，「猫」「三四郎」「草枕」のようなポピュラーな作品には，男子の方は相対的につまらないといっており，女子はおもしろいといっている。そして，それほどポピュラーでない作品については，これと反対の傾向が，相対的にはみられる。この点は，男子が女子より「為になったかどうか」という価値観から，多く読後感を述べている点と符号している。

〔付記〕 この研究報告には，かなり独断的な資料解釈が行なってあります。この点は，目下集計中の理解調査や，人格的諸要因調査の集計をまって，今後検討しかえす予定であります。

# 「読書世論調査」の報告*

日本読書学会第4部会読書社会調査部会**
平沢　薫　城戸浩太郎　裏田武夫
桶本正夫　室伏　武　(執筆順)

## 一　調査の目的

日本読書学会の第4部会は，主として，読書の社会学的・社会心理学的な研究のための部会であり，「読書社会調査部会とよばれているが，本部会は，去る12月14日，15日の両日にわたって，「読書世論調査」をおこない，その調査結果の一部を，「読書科学」第2号で報告しておいた。

そこで今回は，右の調査における，その目的・設計・実施・方法・集計・問題点などについて，報告しようと思う。

この調査では，本と購買者の実態をさぐるために，店頭調査の方法をとることにした。このような調査は，実際をゆがみなくとらえるために，サンプリング法によっておこなわれるのが普通であるが，この場合，科学的な精密性を保証するために，一定以上のサンプル数が要求される。

ところで，単行本の読者は，日用品の消費者などとちがって，一般人の中では比較的少数に限られていると考えられるから，家庭訪問の面接調査では，必要なサンプル数を集めることが，大変むつかしいとされている。

この点，店頭調査では，実際に本を買った人を現場でとらえることができるから，この悩みがないばかりでなく，いま買ったその本を眼で見ながら質問をすることができるなど，大きな利点がある。

そこで，この調査では，店頭調査のもつ利点を，最大限に利用することを基本方針とし，売れた本を中心に，読者の階層的構造や経済事情など，読書生活の実態を調査することを目的とした。この方針と目的とによって，その調査対象や調査方法をつぎのように定めた。

## 二　調査の方法

### §1　調査の対象

今回の調査の母集団は，1956年12月中旬のある一日に，東京都23区内に存在するすべての小売書店で売れるすべての新刊書（ただし定期刊行物，洋書，漫画，絵を除く）と定義されている。ここで一言注意しておかなければならないことは，調査の抽出単位が本を買った人ではなく，売れた本となっていることである。もちろん，調査は買った人にたいして行なわれたし，買われた本だけではなく，買った人の読書行動についての調査もされたのであるが，標本調査のばあい，抽出単位が本であるか人であるかは，かなり重大な意味がある。本を抽出単位とするばあいには，抽出される本には同一の確率が与えられているが，買った人にはウエイトがかけられている。二冊買う人は，一冊買う人にくらべて，抽出される割合が倍となるという関係がある。このような母集団についての考え方をとった最大の理由は，今回の調査が読書調査とどうじに出版市場調査をも兼ねていたからである。市場調査のばあいには，本を沢山買う人の特性はウエイトを与えられる必要がある。なお，小学生以下の子

---

* A Report of the Social Survey of Reading

** The 4th Study Group, JSSR.
Kaoru Hirasawa, Kōtaro Kido, Takeo Urata, Masao Okemoto, Takeshi Murobushi

供が買ったばあいには，質問は全部とりやめて，〔非該当〕とした。他人から頼まれて買いに来たばあいで，その本の選択に関係をもたなかった人にも，不必要な質問はとりやめて，〔一部非該当〕として扱ってある。また，調査実施上の条件から，調査時間は午前9時から午後9時までの12時間とし，それ以前以後の売り上げは無視した。

§ 2 サンプリングの方法

サンプリングの方法は，副次抽出法をとった。つまり第一次抽出単位として，23区内の書店からいくつかの書店を抽出し，その書店で売れる本を第二次抽出単位として，店頭で調査員が自らサンプリングをしながらインタヴューを行なうという方法を採用した。この方法は，母集団のリストが存在しないばあいの標本調査としては，唯一の可能な方法であろう。

第一次抽出単位としての小売店は，都内に1,012店もある。しかし，このうち雑誌だけを売っている店，新刊書をほとんど売っていない店をのぞいて，445店を母集団と考えた。そして，これらの小売店を店の規模に従って一日の売り上げ冊数に従って，A，B，C，Dの四つの層に層化した。はじめの売り上げの予想では，A層では300～1500，B層では100～300，C層では50～100，D層では20～50であった。これでみると，A層内での分散が最大，D層内では最小となっているので，第一次抽出比はA層内で最大，D層内で最小，B，C層ではその中間になるようにとればよい。第一次抽出比をあまり小さくすることは感心しないが，派遣する調査員の数に限度があったし，集計の便宜上各層の最終抽出比を一定にしておきたかったので，第一表のような抽出法を決めた。

| 層 / 抽出比 | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 第一次抽出比 ($r_1$) | 1 | $1/10$ | $1/10$ | $1/20$ |
| 第二次抽出比 ($r_2$) | $1/40$ | $1/4$ | $1/4$ | $1/2$ |
| $r_1 \times r_2$ | $1/40$ | $1/40$ | $1/40$ | $1/40$ |

調査にあたっては，抽出された各々の店につき，開店，閉店時刻，最も混雑する時間，カウンター数，平均一日の売上げ冊数などをたしかめ，その資料にもとづいて，各店に派遣すべき調査員の人数，携行すべき調査表の数を決めた。

§ 3 調査の実施

以上の準備に従って，12月14，15日の両日被調査店の半数づつを調査した。調査に当った調査員はのべ168名であった。調査に当って，第一次抽出単位(店)での拒否は，調査結果に重大な歪みを与えるので，依頼に慎重を期したため，全店調査ができた。抽出された本は741冊であった。そのうち，通勤，通学の途中などで余裕がないといって調査を拒否した人が72人(9.7%)あり，調査中，あるいは食事中に調査をすべきサンプルが通り過ぎてしまったり，混雑していて被調査者に面接できなかった人が13人(1.8%)あった。それに非該当が13人あったので，結局調査可能の本は643冊(人)であった。抽出比が $1/40$ で，サンプルになった本が741冊であったから，これを40倍した29,640冊が12月中旬における東京都区内の小売店の店頭で売れた本の数の推定値となる。

§ 4 調査方法の特長

前にもふれたように，単行本読者は他の日用品消費者と違って，比較的少数特異の消費層であると考えられるため，科学的精度を保証するに足るサンプル数を集めることは，通常の家庭訪問の調査ではかなり困難である。この調査は小売書店の店頭でサンプリングし，被調査者を捉えることによって，先の困難を解決するとともに，本という一種の文化商品の配給現場に立ち会い，消費者とその商品を確認しながら調査するという利点がある。

また，通常のサンプリング法では，たとえば本を一年に一冊買う人も，50冊買う人もサンプルに選ばれる確率がひとしいが，この調査では後者が選ばれる確率は前者の50倍になる。このことは，後者一人当りの行為や意見は前者一人当りの行為や意見に対して，50倍のウェイトを与えられたのと同一結果になる。

また，この調査は購買時の調査に終ったが，読後調査に発展させ得るかどうかの見透しを得るために記念品

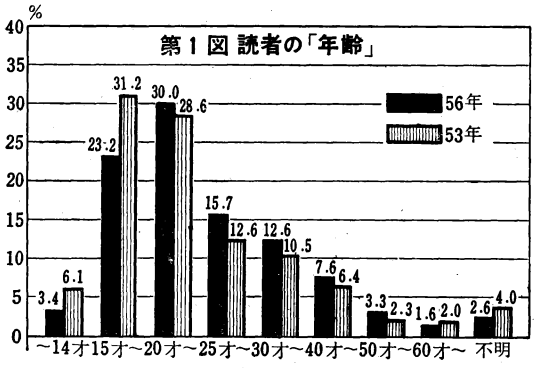
を送るという名目で被調査者の住所・氏名を記録した。実際に記念品を送った結果，郵便が返って来たのは2％位であったから，費用と時間をかければ，読後調査もできることを確めることができた。

## 三　調査内容の分析と解釈

### § 1　読者像の一般的理解

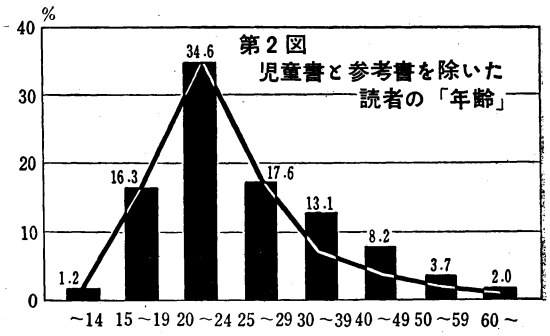
常識的な分けかたではあるが，読書材への接触程度にしたがって，読者（readers），潜在的読者（potential readers）読書能力をもちながら，なんらかの事情によってはばまれているもの，および非読者（non-readers）まったく読書能力をもたず，したがって読書をおこなわぬもの，およびかってはある程度の読書能力をもちながら，その維持・発展がはかられないままに読書能力のないもの同然とみなされるもの）に分けられるとすれば，このたびの調査は，第一にあげた readers の一般的な特性を理解するため，基礎的なデータを提供したということができよう。

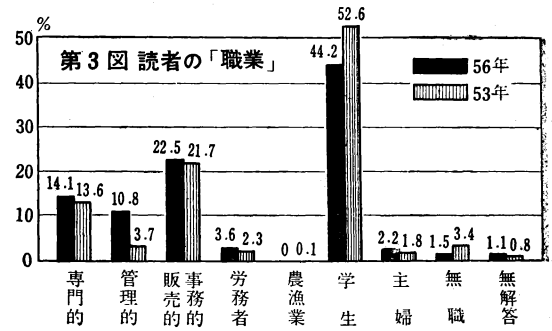
まず読者の年令別の構成は第1図，および児童書と参考書を除いた読者の年令別の構成は第2図にしめされているとおりである。

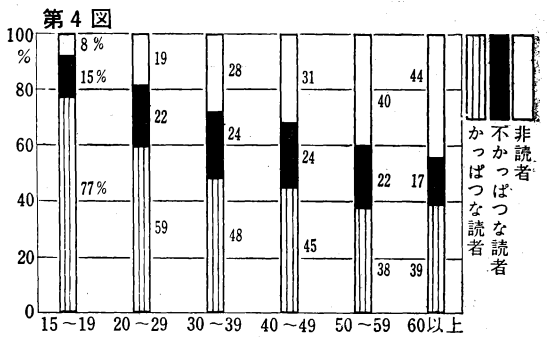



また，本を買った職業構成をみれば第3図のごとくで，学生が半数をしめている。ただし学生のうち，その相当部分は高校生以下が使うと思われる学習参考書の購入者である。

これらのデータから理解できることは，読者は圧倒的にティーンエイジャーズおよび20代に集中していることである。これは日本独特の現象でないことは，アメリカの Book Industry Committee のおこなった調査(Link H. C. & Hopf, H. A.: People and Books; A Study of Reading and Book-buying Habits, 1946.) とほぼ同一のカーブをなしていることによってもうかがわれる(図4)



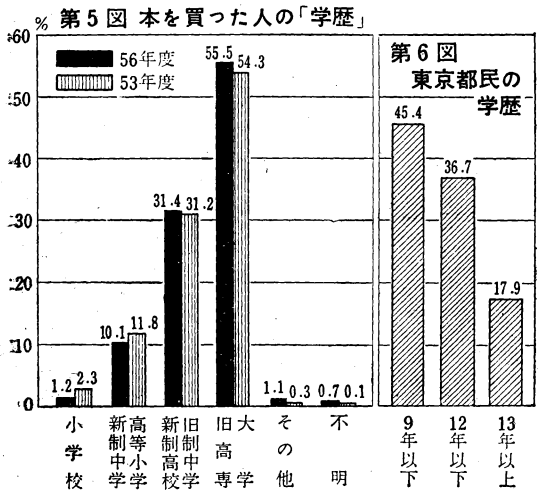




ただしアメリカのばあい60以上ではカーブが少し上昇しているのは興味ぶかい。これは老後の社会保障や生活様式などと読書が大いに関係があるものと考えられる。

また図2にみるごとく，20~24才の区間ではかなり尖

鋭なカーブを画く。つまり，単行書の読者が20～24才の間に集中しているわけであるが，この年令区間の職業構成をみると学生が61%，販売的・事務的被傭者24.4%，労務者6.7%，専門的5.2%（以下略）であるから，単行書の読書の中核は大学生であるとみられる。アメリカのばあいだと，古典の読者は大部分大学生ではあるが，日本ほど単行書の読者が在学中の学生に集中していない。これは別の表現をすれば，日本人は大学を卒業すれば急激に読書から遠ざかることを意味しているとも考えられる。これは大学というものに対する考え方や大学における教授・学習の型態が彼我大いに異っていることによるものであろう。

学歴と読書との関係は，図5にしめされている。これは当然予想もされ，また他のいくつかの調査の結果ともほとんど差異はないのは，読書と教育がいかに重要な関係にあるかを再確認させられる。しかし，義務教育である新制中学以下の卒業生が急激に下降しているのは，教育内容と読書力および読書習慣の問題として大いに考慮さるべき問題をふくんでいる。

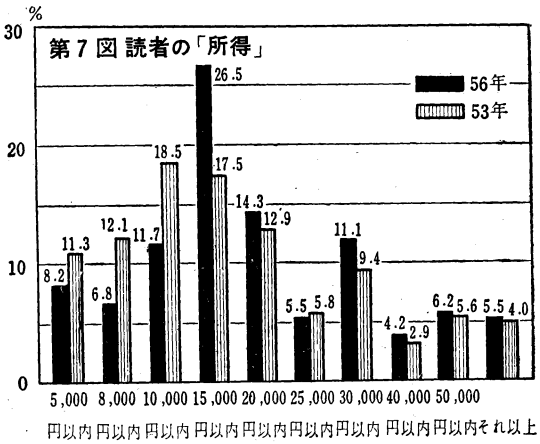






読者の所得については回答の信頼性がどの程度か疑問であるけれども，15,000円前後の所得層がもっとも多いことはやはり興味ぶかい（図6参照）

アメリカの調査では，中産階級の上をピークとして，下層はとくに落ち，上層はやや落ちるという結果がでているが，まだ早急な比較はできないものと考えられる。




この調査はもともと rnarket research としておこなったものであるので，読者像の解明には多少データ不足の面はあるが，異った角度からも従来の調査結果の裏づけができたのは大きな収獲であった。

§ 2 reading public の解明

アメリカのいくつかの調査でも，たびたびマス・メディアの利用の重なり（Concentration of use）が指摘されている。こんどの調査では，新聞・雑誌以外のメディアについては無視されている。しかし，わが国でとくに顕著な現象と思われるものは，メディア中の特定なものと読書との関連がつよいということがはっきりしたことである。つまり，「朝日の読者」と日本の「読書層」（reading public）とのあいだにきわめて重要な相互関係があることが予想されるにいたったことである。朝日の読者の性格を分析することがそのまま日本の reading public の解明になるといいきることはできないにしても，日本の reading public 解明の上に，方法上の貴重な示唆をあたえたものということができよう。

以上これらの readers の解明を手づるとして，potential readers および non-readers の解明にむかいたいと思うが，これは今後の問題である

## 四　結果の分析(その二)

### § 1　読者にたいするマス・メディアの影響

どんなよい本でも，それが読者の手に渡り読まれるためには，その本の存在がなんらかの通路を通じて読者に知らされねばならない。出版年鑑の報ずるところでは，昨年度に出版された新刊書の発行点数は，

発行点数に関する限り，日本は世界的水準に達している。しかし，これを読者の側からみると，なんら組織的で教育的な公報活動が行なわれていない現在，読者は新刊書の洪水のなかにほうりだされたようなものであり，結局は商業ジャーナリズムを通じる広告にたよらざるをえないのが現状であろう。しかし，広告によって出版が公示される点数は，全発行点数からみれば，ごく限られている。この意味で，読者が発売を何によって知ったかという契機を知ることは，社会心理学的に興味深い問題である。

よくいわれているように，この契機は第一次的接触を通じるばあいと第二次的接触を通じるばあいとの二種類の通路がある。第二次的接触とは，新聞・ラジオ・雑誌などのマス・メディアを通じて発売を知る通路であり，第一次的接触とは，イ）友人・教師などの第一次的社会関係を通じて発売を知るという，いわゆる personal influene によるばあいと，ロ）本屋の店頭や図書館などで直接に現物に触れて知るばあいである。調査結果は，つぎのようになる。ここで53年とは，その年に同じ方法で行なわれた調査（Books の会の読書世論調査）の結果である。

| | マス・メディア | | | 個人的影響 | 現物との接触 | その他不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 広告 | 紹介 | | | | | |
| 56年 | 26.4 | 6.3 | 32.7 | 11.9 | 47.5 | 7.9 | 100.0 |
| 53年 | 32.1 | 5.2 | 37.3 | 20.9 | 37.5 | 4.4 | 100.0 |

これでわかることは，マス・メディアの影響力は，53年～56年を通じてほとんど変化せず，全体の1/3を占めていることである。マス・メディアの影響力は，職業別にみると，あまり外出せず孤立している家庭の主婦でもっとも強く，ホワイト・カラー層でやや高く，学生にたいして最も弱い。メディアとしてのラジオ・テレビの影響力はほとんどなく，大部分が新聞広告に集中しているのが現状である。53年に比べて，著しく変化したのは，現物との接触が増加したことである。この一つの原因は，53年に比べて，昨年度の発行点数が著しく増加していることがあげられるであろう。また，個人的影響が減少している理由の一つは，12月中旬という時期的特殊性のため，このカテゴリーが比較的高い学生層の比率が相対的に減少していることが考えられる。

### § 2　個人的影強力

調査にあたって，読書にたいする opinion leader の性格を明らかにするために，個人的影響によって発売を知ったと答えたものにたいして，influencer の住所と氏名をきき，判明したものにたいして直接に訪問してインタヴュを行った。この第二次調査は，57年1月より行なったが，40人の調査票をえた。influencer の職業構成は次表の如くであり，大部分が専門的職業(教師)と学生である。

| 専門的 | 管理的 | 販売的事務的 | 学生 | 無職 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 32.5 | 2.5 | 12.5 | 47.5 | 5.0 | % 100.0 |

また学歴構成をみると，70%大学・高専卒以上である。したがって，読書に関しては，personal influence はかなり特殊な階層に限られていることがわかる。

影響者と被影響者の社会関係は，つぎのように分析できる。性別でいえば，つぎのようになる。

| | | 影響者 | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | |
| 被影響者 | 男 | 28 | 1 | 29 |
| | 女 | 5 | 6 | 11 |
| 計 | | 33 | 7 | 40 |

事例が少ないために統計的な検定はできないが，男性にたいしては，ほとんど男性が影響するが，女性にたいしては，男性・女性の区別なく影響力が加わる。

職業別にみると，被影響者の80%が学生である。この80%うちわけは，25%が専門的職業→学生という垂直

的な影響であり，45%が学生→学生という水平的な影響である。全体的にみて，水平的影響（同一職業層内部での相互的影響）は55%であり，垂直的影響（異った職業層どうしの影響）は45%である。これを年令別にみると，全く同じ傾向がみられる。

影響者と被影響者との社会関係をみると，<勉強のことを話す>と答えたものが最も多く，全体の68%を占める。しかし，全体を通じて，勉強や仕事というような専門的に分化された領域だけに限られた接触を通じての影響は38%で，あとの62%は，より拡散的 diffuse な社会関係を結んでいる。

なお，これは当然のことであるが，影響者が，どういう理由で被影響者にその本のことを話したかは，1，学習の参考になる 53.7%，2，内容が面白い 15.4% 3，仕事参考になる，内容がその人の生き方に役立つと思ったから，夫々 10.3% という順であった。

影響者が一般よりも読書習慣が高いかどうかは，ある程度常識的に予測されることであるが，これを調査結果についていえばつぎのようになる。

| | 第一次調査の平均 | 影響者の平均 |
|---|---|---|
| 一カ月に買う書籍数 | 4.25 冊 | 4.23 冊 |
| 一カ月の書籍代 | 826 円 | 1146 円 |

すなわち，買う書籍数は変わらないが，書籍代にはかなりの差異がある。

また，影響者のマス・メディアへの接触度も，第一次調査の対象とおれている。それは72.5%が朝日を精読（第一次調査対象では56.3%）していることである。

## 五 調査上の留意点

われわれにとって調査場所であり，また被調査者であっても，本来，小売店にとってはサービスの場であり顧客である。最も迷惑を感ずるのは小売店である。また，被調査者も楽しい買物の気持をこわされて，めんどうな質問攻めにあうのであるから，これも迷惑な話であろう。したがって．調査の企画と調査票の設計にあたって．特別の考慮をしたことはもちろんであるが，そのほかにとくに気を配ったのは現場を担当する調査員の問題である。

調査員には熟練と真面目さが要求されるが，百数十名の熟練者を一時には到底集め得ない現状であるので，熟練性を犠牲にして真面目な調査員を求めることにした。慶応大学図書館学科と文部省図書館職員養成所の学生がそれぞれ学校当局の好意により調査員として派遣されてきたが，これらの学生は「本」ないしは読書社会に関係ある学科を専攻し，興味を持っている学生たちであったことは，社会調査の経験はなかったが，調査を成功させた一因をなしたと思われる。

調査員にはとくに小売店の店主・店員と友好的な雰囲気を作るように，服装や応待のしかたなどを細かく指示した。その結果，概して店の人たちからは好遇され，いろいろと便宜をはかってもらえたようである。店の人のなかには，サンプリングの意味がわからないために，きちんと数える必要はなかろうなどという人もあったりしたが，調査員が説明して理解してもらったという報告が二，三ある。

店によってはインタビューのために小部屋を用意してくれたところもかなりあったが，特別にそのような設備を設けようのない店が多かった。そういう所は店の片隅みや街頭でインタビューしたが，拒否率は7・3%であり，社会調査としてはむしろ成績はよい方であろう。

被調査者に対して謝意をあらわすため，単純集計のレポートと記念品を送ったが，これは一つには小売店のお客さんである被調査者からその店が忌避されることがないようにするためでもあった。

## おわりに

かぎられた紙上で，本調査について十分な報告と説明ができないことは，はなはだ遺憾であるが，本調査に関するお問合せは，本部会でいつもお答えしたい思います。

なお，別冊として「読書世論調査の集計表」を印刷しておきましたから，ご希望の方には実費でおわけいたします。

# 児童雑誌の実態とその評価*

成蹊小学校教育研究所**

## 1　この調査をおこなった動機

わたしたち有志11名は，昨年の夏休みを利用して，児童雑誌（31冊）9月号の実態調査をおこなった。わたしたちがこの調査を思いたつに至るまでには，実はかなり長い苦悶期があったのである。その苦悶というのは，児童雑誌の実態を知らないところからくる指導力欠如の意識と，それに伴う教育者としての自責の念であった。だからそれまでは，子どもたちが俗悪な雑誌に読みふけっていても，適確な助言を与えることも出来なかったし，どんな雑誌がよいのか，という母親の質問に対しても，そくざに答えることなどできなかった。

ところが，一方，わたしたちの間には，雑誌を初めとする放送・映画・テレビなどの，マス・コミに本気に立ち向うことなしには，子どもたちを守ることも，生長させることもできないのだ，という認識が強まっていた。

この実態調査は，いわば，このようなわたしたちの認識と苦悶の深まりの極点において誕生したのである。

## 2　本誌の内容

本誌の内容を記事種別で分析したのが第一表である。かって付録競争が，手きびしい批判を受けてから本誌の内容は，かなり充実してきた。けれども依然読む頁が減少し，絵物語（マンガと判別するのに困難を感ずるほどの。）・マンガ・グラビヤ・写真映画物語など，見る頁が増大してきているのが，一つの大きな特徴だといえる。

このことは，そのまま雑誌の判型にも影響して，普通判（A5）は次々に姿を消して，大判（B6）に移っていることが明らかに物語っている。

読みとり，味わい，考える作品を与えることによって，子どもの心情をより豊かに育てようとするよりも，ぱっと視覚を刺戟することで，読者を摑もうとする安易な商魂がむき出しになっている。

時代小説（それも少年講談的な。），人気スターデビューの記，冒険探偵物語など俗悪な興味本位の読みものの増加も，そのことを裏書きしている。

美術・音楽に関する頁が全く閉されてしまっているばかりでなく，まじめな伝記や，健康な少年少女小説などもつぎつぎに姿を消してきている。

また読み切りものは学習雑誌をのぞいてはほとんどなく，本誌から二三ケ月後の付録に続くものがとび出したり，付録から来月の本誌に続くというようなとっぴなものまで出来ている。

また母親の読む頁などがあらわれたのも一つの現象だが，粗悪な紙面をさいての掲載は，ただ体裁を繕うごまかしに過ぎない。

更に児童作品のとりあげ方もひどいもので，トイレットペーパー程度のものに，ごしゃごしゃつめこんでいるのが普通で，投書として扱っているのかどうか，判別に苦しむほどである。

なお1%以下は，きりすててある。（谷川）

---

* The Real Aspects of Juvenile Magazine and their Evaluation

** The Educational Research Institute, Seikei Primary School

第1表　本誌の内容は種類別に見てどんな

| 種別／誌名 | 口絵グラビヤ | マンガ | 絵物語 | 映画・写真物語 | 童話（物語） | 事実物語 | 伝記 | 運動・芸能人 | 美術 | 母親のページ | 生活物語（少女ユーモア） | 冒険探検物語 | 活劇物語 | 時代小説（歴史小講談） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学一年生 | 4 | 20 | | | 26 | | | | | 9 | | | | |
| 小学二年生 | 3 | 18 | 9 | 2 | 9 | | 4 | 1 | | 3 | 3 | | | |
| 小学三年生 | 4 | 16 | 10 | 5 | 4 | 2 | | | | 1 | 4 | 4 | | 4 |
| 小学四年生 | 3 | 16 | 15 | 4 | 4 | 2 | 4 | 2 | | | 6 | 2 | | 4 |
| 小学五年生 | 3 | 13 | 4 | 6 | | 2 | 11 | 0 | | | 15 | 5 | | 4 |
| 小学六年生 | 3 | 16 | 2 | 2 | | 1 | 2 | 1 | | | 9 | 6 | | 8 |
| 一年の学習 | | 8 | | | 18 | | | | | | | | | |
| 二年の学習 | | 5 | | 2 | 7 | | | | | | | | | |
| 三年の学習 | 2 | 4 | 2 | 4 | 20 | 2 | 7 | | | | 9 | 12 | | |
| 四年の学習 | 2 | 4 | | 1 | 10 | | | 4 | | | 15 | 10 | | |
| 五年の学習 | 2 | 5 | | 3 | | | | | | | 4 | 11 | | 6 |
| 六年の学習 | 3 | 4 | | 3 | 15 | | | | | | 6 | 6 | | 6 |
| たのしい一年生 | 3 | 23 | 23 | | 12 | 2 | 4 | | | | | | | |
| 日本のこども | | 2 | | 6 | 21 | | | | | 8 | 10 | | | 10 |
| あさの笛 | 2 | | 5 | 2 | 13 | | 6 | | | | 33 | | | 11 |
| 幼年クラブ | 4 | 31 | 20 | 5 | 6 | | 1 | 3 | | 1 | | | | 8 |
| 少年クラブ | 2 | 30 | 19 | | | | 1 | 4 | | | 8 | 10 | | |
| 少女クラブ | 7 | 27 | 4 | 5 | | | | 7 | | | 15 | | | 4 |
| ぼくら | 1 | 33 | 25 | 2 | | 2 | | 5 | | | | 5 | | 5 |
| なかよし | 4 | 30 | 15 | 12 | 4 | | | 6 | | | 9 | | | |
| 幼年ブック | 7 | 37 | 29 | 4 | | 1 | | 4 | | | | | | 4 |
| 少女ブック | 11 | 16 | 17 | 9 | | 4 | | 12 | | | 10 | | 5 | |
| 面白ブック | 3 | 30 | 20 | 2 | | 3 | | 7 | | | 4 | | 4 | 1 |
| 痛快ブック | | 28 | 32 | 2 | | 2 | | 1 | | | | | 13 | |
| 少年 | 3 | 37 | 21 | | | 3 | | 2 | | | 4 | | | 4 |
| 少女 | 5 | 28 | 12 | 3 | | 6 | | 6 | | | 19 | | | |
| 野球少年 | 9 | 43 | 20 | | | 3 | | 4 | | | | | | 6 |
| 少年画報 | 3 | 22 | 30 | 1 | | 1 | | 4 | | | | | 8 | 6 |
| 冒険王 | 1 | 27 | 33 | 1 | | 1 | 5 | 1 | | | 4 | | 5 | |
| 漫画王 | | 34 | 35 | 2 | | | | 5 | | | | | | 9 |
| リボン | 7 | 30 | 12 | 7 | | 3 | | | | | 13 | | | |

割合いになっているか（パーセント）

| 怪奇探偵物語 | 学習関係記事ニュース | 動物物語 | クイズ懸賞娯楽類 | 児童作品(作文・絵) | 民話 | 童謡・詩 | 投書 | 目次 | 広告 | 表紙・その他 | 見るページ | 読むページ | 娯楽のページ | 教養のページ | 読み切りもの篇数 | 連載もの篇数 | 判型 | 総頁 | 定価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 19 | | 4 | 2 | | 2 | 4 | 1 | 2 | 7 | 78% | 22% | 28% | 63% | 3篇 | 6篇 | A 5 | 198 | 100 |
| | 17 | 9 | 1 | 7 | 2 | 3 | 2 | 0 | 3 | 4 | 65 | 35 | 37 | 57 | 3 | 9 | A 5 | 196 | 110 |
| | 15 | 6 | 3 | 0 | 2 | 2 | 12 | 1 | 4 | 1 | 61 | 39 | 54 | 39 | 6 | 10 | A 5 | 282 | 110 |
| | 16 | | 3 | 4 | 1 | 2 | 5 | 1 | 4 | 2 | 62 | 38 | 53 | 41 | 11 | 15 | A 5 | 330 | 110 |
| | 15 | | 2 | 0 | 2 | 1 | 11 | 2 | 4 | 1 | 65 | 35 | 48 | 40 | 7 | 12 | A 5 | 336 | 110 |
| 8 | 24 | | 6 | 3 | | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 | 40 | 60 | 52 | 39 | 3 | 11 | A 5 | 332 | 110 |
| | 57 | | 13 | | | | | | 2 | 2 | 75 | 25 | 27 | 70 | 32 | 2 | B 5 | 60 | 70 |
| | 67 | | 5 | 3 | 5 | | 1 | | 2 | 3 | 57 | 43 | 18 | 74 | 1 | 3 | A 5 | 88 | 60 |
| | 18 | 5 | 7 | 4 | | 1 | | | 1 | 2 | 41 | 59 | 31 | 62 | 11 | 3 | A 5 | 162 | 60 |
| | 45 | | 3 | 2 | | 2 | | | 1 | 1 | 27 | 73 | 29 | 68 | 3 | 4 | B 5 | 136 | 70 |
| | 53 | | 1 | 3 | 3 | 4 | 2 | | 3 | 3 | 54 | 46 | 19 | 70 | 4 | 2 | B 5 | 142 | 80 |
| | 44 | | 1 | 5 | | 3 | | 1 | 1 | 2 | 21 | 79 | 25 | 72 | 3 | 4 | B 5 | 140 | 80 |
| | 9 | | 3 | | | 5 | 4 | | 2 | 12 | 69 | 31 | 23 | 61 | 4 | 11 | B 5 | 94 | 100 |
| | 20 | | | 5 | 15 | 1 | | 1 | | 1 | 19 | 81 | 2 | 98 | 3 | 0 | A 5 | 78 | 50 |
| | 3 | | | 4 | 6 | 4 | | 1 | 3 | 7 | 13 | 87 | 90 | 5 | 10 | 4 | A 5 | 136 | 70 |
| | 3 | | 4 | 1 | | | 6 | | 2 | 4 | 77 | 23 | 74 | 14 | 5 | 11 | B 5 | 190 | 110 |
| 5 | 2 | | 6 | | 0 | | 4 | 0 | 6 | 3 | 74 | 26 | 85 | 16 | 2 | 17 | B 5 | 228 | 110 |
| 5 | 7 | | 3 | 2 | | | 6 | 0 | 7 | 1 | 64 | 36 | 80 | 10 | 1 | 16 | B 5 | 212 | 110 |
| | 4 | | 2 | | | | 8 | 1 | 5 | 2 | 75 | 25 | 81 | 12 | 4 | 17 | B 5 | 204 | 110 |
| | 3 | | 3 | 1 | | | 6 | 1 | 4 | 2 | 75 | 25 | 60 | 10 | 5 | 15 | B 5 | 202 | 110 |
| 4 | | | 1 | | | | 3 | 1 | | 5 | 79 | 21 | 93 | 1 | 2 | 17 | B 5 | 188 | 110 |
| 4 | 4 | | 1 | | | | 3 | 1 | 2 | 1 | 68 | 32 | 74 | 18 | 2 | 15 | B 5 | 234 | 110 |
| 9 | 4 | | 4 | | | | 3 | 1 | 4 | 1 | 72 | 28 | 78 | 14 | 0 | 22 | B 5 | 244 | 110 |
| 5 | 1 | | 3 | | | | 5 | 1 | 6 | 1 | 78 | 22 | 84 | 5 | 6 | 16 | B 5 | 208 | 100 |
| 8 | 1 | | 2 | | | | 6 | | 8 | 1 | 82 | 18 | 78 | 10 | 4 | 18 | B 5 | 218 | 100 |
| | 3 | | 5 | | | | 4 | | 8 | 1 | 70 | 30 | 83 | 7 | 0 | 19 | B 5 | 224 | 110 |
| | 2 | | 4 | | | | 3 | 1 | 2 | 3 | 86 | 14 | 84 | 6 | 1 | 16 | B 5 | 188 | 110 |
| 8 | 1 | | 4 | | | | 6 | 1 | 3 | 2 | 66 | 34 | 88 | 4 | 2 | 18 | B 5 | 242 | 100 |
| 4 | 0 | | 2 | | | | 6 | 1 | 8 | 1 | 74 | 26 | 74 | 14 | 0 | 20 | B 5 | 214 | 100 |
| | 2 | | 1 | | | | 4 | 1 | 1 | 6 | 78 | 22 | 89 | 2 | 1 | 19 | B 5 | 172 | 100 |
| | 8 | | 6 | 2 | | | 2 | 1 | 3 | 1 | 79 | 21 | 82 | 11 | 7 | 15 | B 5 | 204 | 110 |

### 3 本誌の評価

学年別に編集された学習雑誌はとにかくとして，いわゆるクラブもの，ブックものは，読者を年令的に幅広くおさえようとするために，内容が，ひどく幼稚なものから，きわどいエロ・グロものまで含んでいて，とても安心して子どもに与えられない。

表紙も一時ほど人気スターや覆面剣士などどぎついものが描かれなくなったが，少女や少女クラブには，あいかわらず肺病を患っているような少女の顔のクローズアップが，そして，小学館は，十年一日のごとく，マンネリズムに堕した，男の子と女の子のひらべったい顔を描いている。

今ここで本誌の内容を評価するために，第2表にあるような10項目の観点を定めた。そして，各観点ごとに5段階法で評価した。この結果から見ると，①比較的良いと判断されるものは，小学館の二年生，四年生，学習研究社の二年生，三年生，五年生，六年生，講談社のたのしい一年生，講学館の日本のこども，それに朝の笛社の朝の笛などがあげられる。

②粗悪で，とても子どもに読ませられないと思われるものに，秋田書店の漫画王，冒険王，少年画報社の少年画報・芳文社の痛快ブック・集英社の面白ブックがあげられる。

③かなり子どもたちに有害ではあるが，①②の中間的なものに，クラブものやその他のブックものがある。

採点の上から見ると，学習雑誌は比較的良い方にあるが，しかし中に盛りこまれた作品は，ただ無難であるというだけで，新鮮なものはなく，名作も筋書きだけをたどったような乾いた文体のものが多く，その作品から，しみじみとした感動を受けとるようなものはない。

ところが，学習雑誌以外のものになると，平気で家出する娘，ピストルをいつもハンドバッグに入れている娘など，社会悪を知らずに身につけるような意識を育てあげる作品や，正義と称して殺人，虐待などをする場面を殊更に誇張するようなものが充満している。

そこへいくと，日本のこども，朝の笛などの文芸雑誌は，良心的な作品が多いが，どれもこどもの心にじかに訴えていく迫力と，つっこみに乏しいうらみがある。

(谷川)

第2表 本 誌 の 評 価

| 評価の観点＼出版社・誌名 | 小学館 | | | | | | 学習研究社 | | | | | | 講談社 | | | | | | 集英社 | | 芳文社 | 光文社 | | 芳文社 | 少年画報社 | 秋田書店 | | 集英社 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 小学一年生 | 小学二年生 | 小学三年生 | 小学四年生 | 小学五年生 | 小学六年生 | 一年の学習 | 二年の学習 | 三年の学習 | 四年の学習 | 五年の学習 | 六年の学習 | たのしい一年生 | 日本のこども | あさの笛 | 幼年クラブ | 少年クラブ | 少女クラブ | ぼくら | なかよし | 幼年ブック | 少女ブック | 面白ブック | 痛快ブック | 少年 | 少女 | 野球少年 | 少年画報 | 冒険王 | 漫画王 | リボン |
| 健康なユーモアを持っているか | 4 | 4 | 2 | 3 | 3 | 4 | 2 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 望ましい空想性を盛っているか | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 望ましい冒険性を盛っているか | 2 | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 民主的方向に沿っているか | 3 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 4 | 4 | 5 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3 | 8 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| 児童の発達程度に適しているか | 3 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 |
| 正しい日本語で表記されているか | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 |
| 編集上の創意工夫が見られるか | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 2 | 2 | 3 |
| 表紙・さし絵・口絵の効果 | 3 | 3 | 2 | 4 | 2 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 紙質印刷の効果 | 4 | 4 | 3 | 4 | 3 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 2 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 3 |
| 良心的企画性がある | 3 | 3 | 3 | 4 | 2 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 3 |
| 表点の合計 | 32 | 37 | 30 | 35 | 29 | 32 | 32 | 35 | 33 | 32 | 34 | 37 | 34 | 37 | 35 | 26 | 28 | 21 | 20 | 26 | 24 | 18 | 16 | 13 | 18 | 21 | 18 | 13 | 14 | 16 | 26 |
| 評価 | 6 | 7 | 6 | 7 | 6 | 6 | 6 | 7 | 7 | 6 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 5 | 6 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 5 |

## 4　付録の分析と評価

子どもが付録の数の多い雑誌ほど喜ぶのを，編集者は知っていても，以前，付録に幻燈機械等の目方の重いものをつけて，郵政省を驚かし『付録の重量は本誌のそれを越えぬよう。また金属製品はお断り』の通達をうけているので，大分自粛はしているが，数多くの付録をつけることだけは前と同じである。31種の雑誌のうち，付録のないのは，『日本のこども』『朝の笛』の二誌だけで，あとは平均して四点の付録をだしている。これを内容から分類すると，マンガが65点（57%）で圧倒的に多い。あとはおもちゃ，学習参考書，学習用具の順で，かって首位をほこっていた絵物語は4点（3%）第5位という凋落ぶり。マンガを付録につけないのは前記二誌と，小学校上級と中学の女子を対象とした『少女』及び市販せずに学校という販売網をもっている『○年の学習』だけである。あとはみなマンガをのせ『幼ブ』は8冊とも全部マンガ。5冊以上マンガをつけているのは『冒険王』『少年』『漫画王』『少年画報』等である。本誌と付録の頁数の合計の70%をマンガで占めている雑誌がある。これに対して学習関係雑誌には，学習参考書をはじめとして実用向きなのがついており，殊に一年向きの三誌には母親ハンドブックがあって，夏休みの指導と二学期の準備を指示しているのは『将を射んとせば先ず馬を射よ』の感を深くさせられる。

評価にあたっては，非実用性（不正確，教育的無価値粗悪，使用または製作不可能），ギマン性（表紙，表題と中味の相違）児童に害悪を及ぼす程度（非科学生，非合理性，エロ・グロ，暴力，その他）の度合を考慮し，付録一つ一つを関係の深い項目について5品等段階法による位置づけをし，各雑誌ごとにそれを累積して十点法に換算したのが，表の最下欄にある『評価』である。その結果，本誌の誌価と付録の評価との間には強い相関関係があることがわかった。他の月の号はわからぬが，九月号だけでいうなら，マンガを多く付録につけている雑誌は，付録としても本誌としても内容が低調であるといえる。（星野）

第3表　付　録　の　種　類（点数）と　評　価

| 種類 ＼ 雑誌名（点数） | | 小学一年生 5 | 小学二年生 4 | 小学三年生 4 | 小学四年生 4 | 小学五年生 2 | 小学六年生 3 | 一年の学習 2 | 二年の学習 1 | 三年の学習 1 | 四年の学習 1 | 五年の学習 1 | 六年の学習 1 | たのしい一年生 6 | 日本の子ども • | 朝の笛 • | 幼年クラブ 5 | 少年クラブ 5 | 少女クラブ 6 | ぼくら 6 | なかよし 4 | 幼年ブック 8 | 少女ブック 3 | おもしろブック 7 | 痛快ブック 3 | 少年 6 | 少女 3 | 野球少年 2 | 少年画報 6 | 冒険王 7 | 漫画王 5 | リボン 4 | 合計 115 | 百分率 100 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | マンガ | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | • | • | • | • | • | • | 1 | • | • | 2 | 4 | 4 | 3 | 1 | 8 | 1 | 4 | 2 | 6 | • | 2 | 5 | 6 | 5 | 2 | 65 | 57 |
| | 絵物語 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | • | • | 1 | • | • | 1 | • | • | • | • | 1 | • | • | • | 4 | 3 |
| | 物語小説 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | 3 | 1 |
| B | 愛唱歌集 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | 1 |
| | 学習参考書 | • | • | 1 | 1 | 1 | 1 | • | • | • | 1 | 1 | 1 | 1 | • | • | 1 | • | • | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | 11 | 9 |
| | ワークブック | 1 | 1 | • | • | • | 1 | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 4 | 3 |
| | 母親ハンドブック | 1 | • | • | • | • | • | 1 | • | • | • | • | • | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 3 | 3 |
| | 学習用具 | 1 | 1 | • | • | • | • | • | 1 | 1 | • | • | • | • | • | • | 1 | • | • | 1 | • | • | • | • | • | 3 | • | • | • | • | • | • | 9 | 8 |
| C | おもちゃ | 1 | • | 1 | 1 | • | • | • | • | • | • | • | • | 2 | • | • | 1 | • | 1 | 1 | 2 | • | 1 | 2 | • | • | • | • | • | 1 | 1 | 14 | 12 |
| | クイズ | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 | • | • | 1 | 1 |
| 評価 | | 5 | 3 | 4 | 4 | 5 | 5 | 7 | 5 | 7 | 5 | 5 | 6 | 7 | • | • | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 | 7 | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | | |

Aについては主として児童への悪影響の有無を評価の観点とした。

★注　BCについては主としてその実用性について評価した。
なおABCのそれぞれについて，ギマン性，時流便乗，マンネリズムの三点についても併せて考慮しながら評価した。

第4表　子どもたちは児童雑誌（9月号）をこのように読んでいる

| 学年 | 雑誌名 | 小学一年生 | 小学二年生 | 小学三年生 | 小学四年生 | 小学五年生 | 小学六年生 | 一年の学習 | 二年の学習 | 三年の学習 | 四年の学習 | 五年の学習 | 六年の学習 | たのしい一年生 | 日本の子ども | 朝の笛 | 幼年クラブ | 少年クラブ | 少女クラブ | ぼくら | なかよし | 幼年ブック | 少女ブック | おもしろブック | 痛快ブック | 少年 | 少女 | 野球少年 | 少年画報 | 冒険王 | 漫画王 | リボン | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一年 | 買って読む | 47 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 81 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 13 | 2 | 0 | 5 | 0 | 5 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 2 | 4 | 0 | 3 | 2 | 200 |
| | 借りて読む | 18 | 25 | 25 | 20 | 12 | 8 | 4 | 14 | 20 | 17 | 7 | 1 | 18 | 2 | 1 | 31 | 21 | 14 | 21 | 17 | 14 | 17 | 19 | 12 | 16 | 15 | 12 | 11 | 16 | 14 | 18 | 460 |
| | 計 | 65 | 32 | 25 | 20 | 12 | 8 | 85 | 14 | 20 | 17 | 7 | 1 | 38 | 2 | 1 | 44 | 23 | 14 | 26 | 17 | 19 | 18 | 20 | 13 | 19 | 18 | 14 | 15 | 16 | 17 | 28 | 660 |
| 二年 | 買って読む | 0 | 42 | 21 | 0 | 0 | 0 | 0 | 91 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 31 | 16 | 4 | 11 | 3 | 12 | 1 | 5 | 1 | 6 | 2 | 0 | 3 | 3 | 3 | 2 | 258 |
| | 借りて読む | 14 | 9 | 12 | 13 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 2 | 3 | 2 | 0 | 3 | 22 | 10 | 13 | 7 | 7 | 11 | 7 | 11 | 6 | 13 | 12 | 11 | 4 | 3 | 8 | 10 | 233 |
| | 計 | 14 | 51 | 33 | 13 | 4 | 3 | 3 | 94 | 4 | 3 | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 | 53 | 26 | 17 | 18 | 10 | 23 | 8 | 16 | 7 | 19 | 14 | 11 | 7 | 6 | 11 | 12 | 491 |
| 三年 | 買って読む | 0 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 1 | 108 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 12 | 3 | 2 | 5 | 1 | 8 | 1 | 11 | 1 | 11 | 3 | 1 | 3 | 6 | 1 | 1 | 227 |
| | 借りて読む | 11 | 9 | 9 | 10 | 10 | 12 | 7 | 9 | 7 | 12 | 14 | 12 | 2 | 0 | 2 | 17 | 7 | 12 | 5 | 11 | 12 | 6 | 11 | 0 | 9 | 6 | 9 | 4 | 9 | 4 | 4 | 253 |
| | 計 | 11 | 11 | 9 | 16 | 10 | 12 | 7 | 10 | 115 | 13 | 14 | 12 | 3 | 0 | 3 | 29 | 10 | 14 | 10 | 12 | 20 | 7 | 22 | 1 | 20 | 9 | 10 | 7 | 15 | 5 | 5 | 480 |
| 四年 | 買って読む | 0 | 0 | 0 | 24 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 110 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 8 | 14 | 11 | 7 | 6 | 6 | 7 | 8 | 2 | 21 | 11 | 4 | 5 | 2 | 2 | 6 | 265 |
| | 借りて読む | 19 | 16 | 9 | 18 | 11 | 17 | 17 | 17 | 5 | 2 | 5 | 23 | 21 | 3 | 7 | 28 | 26 | 31 | 15 | 22 | 16 | 31 | 13 | 4 | 16 | 29 | 12 | 11 | 14 | 13 | 16 | 487 |
| | 計 | 19 | 16 | 9 | 42 | 16 | 17 | 17 | 17 | 5 | 112 | 5 | 23 | 21 | 5 | 11 | 36 | 40 | 42 | 22 | 28 | 22 | 38 | 21 | 6 | 37 | 40 | 16 | 16 | 16 | 15 | 22 | 752 |
| 五年 | 買って読む | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 3 | 3 | 0 | 0 | 4 | 9 | 1 | 17 | 4 | 6 | 5 | 6 | 0 | 0 | 113 |
| | 借りて読む | 7 | 10 | 11 | 5 | 18 | 18 | 2 | 7 | 13 | 4 | 7 | 6 | 2 | 0 | 0 | 20 | 13 | 7 | 6 | 7 | 6 | 5 | 14 | 4 | 23 | 8 | 11 | 9 | 14 | 3 | 11 | 271 |
| | 計 | 7 | 10 | 11 | 5 | 38 | 22 | 2 | 7 | 13 | 4 | 27 | 6 | 2 | 0 | 0 | 20 | 24 | 10 | 9 | 7 | 6 | 9 | 23 | 5 | 40 | 12 | 17 | 14 | 20 | 3 | 11 | 384 |
| 六年 | 買って読む | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 57 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 10 | 1 | 2 | 0 | 8 | 7 | 0 | 13 | 2 | 1 | 7 | 8 | 2 | 0 | 136 |
| | 借りて読む | 8 | 8 | 18 | 11 | 9 | 41 | 2 | 6 | 17 | 18 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 15 | 26 | 34 | 4 | 17 | 3 | 34 | 14 | 1 | 34 | 32 | 9 | 16 | 8 | 4 | 3 | 399 |
| | 計 | 8 | 8 | 18 | 11 | 9 | 56 | 2 | 6 | 17 | 18 | 1 | 59 | 3 | 0 | 1 | 15 | 34 | 44 | 5 | 19 | 3 | 42 | 21 | 1 | 47 | 34 | 10 | 23 | 11 | 6 | 3 | 535 |
| 学校全体 | 買って読む | 47 | 51 | 58 | 30 | 25 | 19 | 81 | 92 | 108 | 111 | 20 | 57 | 21 | 3 | 5 | 64 | 54 | 30 | 32 | 12 | 31 | 22 | 41 | 6 | 71 | 25 | 14 | 27 | 20 | 11 | 11 | 1.199 |
| | 借りて読む | 77 | 77 | 85 | 77 | 64 | 99 | 35 | 56 | 66 | 56 | 36 | 47 | 48 | 5 | 14 | 133 | 103 | 111 | 58 | 81 | 62 | 100 | 82 | 27 | 111 | 102 | 64 | 55 | 64 | 46 | 62 | 2.103 |
| | 計 | 124 | 128 | 143 | 107 | 89 | 118 | 116 | 148 | 174 | 167 | 56 | 104 | 69 | 8 | 19 | 197 | 157 | 141 | 90 | 93 | 93 | 122 | 123 | 33 | 182 | 127 | 78 | 82 | 84 | 57 | 73 | 3.302 |

調査児童数　一年 130　二年 134　三年 137　四年 127　五年 127　六年 132　学校全体 787

## 5　児童雑誌が読まれている実態

第4表は「本校児童が児童雑誌（本年9月号）をどのくらい読んでいたか。」について統計したものである。調査の対象となった人数は787名，うち230名が女児である。

この表の統計から問題点と考えられるところをつぎに概観してみたい。

まず，学年を追ってみると，1，2，3，4年の児童が買って読んだ雑誌の数は，5，6年におけるそれとくらべるとほとんど2倍になっている。この5，6年の雑誌数の特長には種々の原因が考えられる。5，6年の児

童にみられる家庭における学習時間の増大であるとか，また単行本を読む意欲と機会が多くなってくることなどもその原因の一つであろうが，本表の調査にあたって実際にあらわれた原因として興味深いのは，5，6年になると，いわゆる専門雑誌の比較的親しみ易いもの，例えば，「子供の科学」，「模型とラジオ」，「ベースボール・マガジン」，「野球界」あるいは「相撲」などが児童雑誌にかわって読まれていることである。

買って読んだ数の平均が，1人当り1．5冊であるのに対して，借りて読んだ数の平均は1人当り2，6冊となっている。これは，家庭における兄弟を読む機会も多くあろうし，友人間の借り読み，貸本屋からのそれも含まれているものである。とくに児童1人1人，個人的には読んだ雑誌の数に大きな差がみられている。多いものは1人で8冊の雑誌をみている例もある。買って読んだ数，借りて読んだ数の総数を平均すると，1人当り4，2冊に及んでいる。

少女雑誌についてみると，本校では女児が先述の通り総数の3分の1に満たないにもかかわらず，読んだ者の数は他誌とほとんど大差がみられていない。これは比率によって換算すれば，少女雑誌が読まれている率が非常に大きいこととなる。すなわち「少女クラブ」では，女児230名中，141名であるから，過半数61%の高い率で読まれていることがわかる。ついで「少女」の55%，「少女ブック」の53%などの率がみられる。これも一つの大きな特長であろう。

少くとも児童雑誌9月号では，これはと安心して児童に与えることのできるものは，ほとんどないといっても過言ではない。この前提において，本表の雑誌別の児童数をみてみると，看過できない問題が多い。その一例が別稿本誌，付録の評点の低い雑誌にみられる児童数が比較的多いことである。歴史的にみて，伝統ある「K社」「S社」の雑誌も，本誌はともかくとして，付録には問題がとくに多い。これが家庭ではその内容の充分な検討もなく，誌名によって安心して与えている結果，本表の児童を多くしているのであろう。児童の読書生活の中に非常に大きな時間的比率を占める児童雑誌としてみれば，家庭および学校における雑誌の選択に相当の課題が与えられるべきは当然といえよう。

本表についてさらに問題としてとりあげたい点はまだまだ多い。限られた紙面のため，別に機会を譲らなければならないのは残念に思う。（赤堀）　　（以下次号）

# 児 童 雑 誌 の 性 格*

## ―― 最近の編集傾向について

日本読書学会第5研究部会

阪 本 一 郎**

この研究は，岩田文江，井上和子，音成匡子，勝山明美，野口 隆，福本恵吉，守屋多美子の諸氏の協力によるものである。

### 1 目 的

よい児童雑誌がほしい――というのは，現在の子どもの読書生活に関心をよせているものの共通の念願であろう。だがその〝よい〟というのは何か。ここに深刻な問題があるようである。子どもがよいというものと，指導者がよいというものと，そして出版社がよいというものとの間には，かなりの開きがある。この3者の基準を一致させないかぎり，この問題はいつまでもから回りをつづけるであろう。

この研究の究極の目的は，その基準を発見するにあるのであるが，とりあえずわれわれは児童雑誌の編集の現状を分析してみた。これは出版社の基準に探針を入れる試みの一つである。しかしわれわれは，どんな出版社をも非難したり，その営業を妨害したりする意図は毛頭ない。ただ実態を客観的に分析して，現在の児童雑誌の性格を明らかにし，子どもの読書生活の改善に少しでも貢献することができればと念願するのみである。

### 2 方 法

研究の対象としては，本年一月号の児童雑誌36冊(別に3冊は入手がおくれたために，結論のとき追加) と，比較に用いるため青年向娯楽雑誌2冊，計38冊の本誌を用いた。

(A) 少年雑誌―(1)少年クラブ，(2)幼年クラブ，(3)ぼくら (4)幼年ブック，(5)おもしろブック，(6)少年，(7)痛快ブック，(8)野球少年，(9)冒険王，(10)漫画王，(11)少年画報，(12)中学生の友

(B) 少女雑誌―(1)少女クラブ，(2)なかよし，(3)少女ブック，(4)りぼん，(5)少女，(6)女学生の友

(C) 男女総合雑誌―(1)小学4年生，(2)小学5年生，(3)小学6年生，(4)4年生の学習，(5)5年生の学習 (6)6年の学習，(7)日本の子ども，(8)朝の笛

(CC) 同じく低年向―(1)小学1年生，(2)小学2年生，(3)小学3年生，(4)1年の学習，(5)2年の学習，(6)3年の学習，(7)たのしい1年生，(8)たのしい2年生，(9)たのしい3年生

(CCC) 同じく幼児向―(1)よい子，(2)幼稚園，(3)幼稚園ブック，(4)たのしい幼稚園

(D) 青年向娯楽雑誌―(1)明星，(2)平凡

分析の方法は，各誌の記事の種別を分類して，量的に比率を統計する手つづきを用いた。

### 3 全体的なページの比率

まず1冊ごとに，

a. 絵画・グラビヤ

b. 漫画・絵物語

c. 読みもの

d. 投書・遊戯

---

* Some Characteristics of Juvenile Magazines.
—Recent Tendency of their Compilation.

* Ichiro Sakamoto (JSSR, 5th Study Group)

e．広告・その他

に，それぞれ何ページを割り当てているかを分類し計上した。それを各冊の総ページ数（表紙を含む）に対する%に換算したのが第1表である。この表の右下には，雑誌種別ごとの平均が示してある。これでわかるように，

(1) 少年雑誌類（A）は，全誌の半分以上のページを漫画・絵物語にさいており，読みものは4分の1以下である。

(2) 少女雑誌類（B）も，いちばん多いのはやはり漫画・絵物語りだが，Aに比べると少く35%であって，その代りに絵画・グラビヤと読みものが多少多くなっている。

(3) 男女総合誌類（C）は，これらに反して，読みものが過半数75%で，漫画・絵物語は約2割にへっている。

(4) 男女総合誌低学年類（CC）は，漫画・絵物語と読みものとが各3分の1ずつになり，絵画・グラビヤがふえている。

(5) 同じく幼児向（CCC）は，絵画・グラビヤが6割を占め，反対に読みものが無くなっている。つまり男女総合誌類は，学年が低くなるにつれて見るページがふえ，読むページがへるのであるが，これは自然であろう。

(6) このように，児童雑誌では目下，漫画・絵物語が全盛である。むしろこれを売り物にして大部分のページを当てているものがある。最高は76%の冒険王，74%の幼年クラブ，70%の漫画王，以下10位まであげると，痛快ブック，幼年ブック，おもしろブック，たのしい1年生，ぼくら，たのしい3年生，たのしい2年生，少女などの各誌となる。ここに講談社の学習雑誌が，漫画・絵物語を比較的多く載せていることが注目される。

(7) これに反して，漫画・絵物語の量が少いものから順にあげると，3年の学習を筆頭に，日本の子ども，1年の学習，幼稚園ブック，小学5年生，小学6年生，女学生の友，2年の学習，幼稚園，4年の学習，小学4年生などで，小学館と学習研究社の学習雑誌と，児童文学雑誌とがこれに属していることが知られる。

(8) 一般に読みもののページの割り当てが少いが，多いものから拾ってみると，日本の子どもの65%を筆頭に，4年の学習，3年の学習，小学6年生，1年の学習，小学5年生，小学4年生など，やはり児童文学雑誌と学習雑誌とである。

(9) 逆に，読みものの少い方から拾ってみる。幼児雑誌は当然であるが，冒険王もゼロである。これについで，幼年クラブ，痛快ブック，たのしい一年生，幼年ブック，漫画王，少女，ぼくら，りぼん，小学一年生などとなる。低学年雑誌は当然であるが，少年・少女雑誌にも，読むページが4分の1以下のものがかなりあるのである。

次にこんどは，1ページごとに，見るスペースと，読むスペースと，どちらの方が広いかによって，機械的に，見るページと読むページとの比率を出してみた。第1表にはその見るページの方だけの%を掲げてある。100に満たない残余は，読むページであるわけである。これによると，少年雑誌類は平均して全誌の4分の3が見るページであって，低学年雑誌類をしのいでいること，少女雑誌もこれにせまっていること，学習雑誌と児童文学雑誌類がようやく3分1の程度に抑えていることが知られる。そこでAとBとの平均をもって，見る雑誌の水準とし，これとCとの平均をもって，現在の児童雑誌の視覚化水準とみなすとすれば，50.0±20.4（M.V）となる。つまり見るページと読むページとが，ちょうど半々というところが，およそ程あいの線と考えられる。すると，50.0±10,2 およびそれ以下に属するものは三社の学習雑誌，児童文学雑誌，および中学生の友・女学生の友であって，これ以外はすべて〝見る雑誌〟と評してよいであろう。

また同様にして，娯楽のページと教養のページとの比率を出してみた。第1表にはその娯楽のページの%を掲げてある。幼児雑誌は判別が困難なので問題外とする。他も主観的な判断によらざるを得なかったが，それにしても，一般に，娯楽性が強く，学習雑誌でさえ，そうと

| 雑誌種別 | | 絵画・グラビヤ | 漫画・絵物語 | 読みもの | 投書・遊戯 | 広告・その他 | 見るページ | 娯楽ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 1 | 7 | 45 | 36 | 12 | 10 | 73 | 90 |
| | 2 | 3 | 74 | 8 | 14 | 1 | 79 | 98 |
| | 3 | 11 | 50 | 21 | 12 | 6 | 79 | 94 |
| | 4 | 5 | 64 | 13 | 11 | 7 | 79 | 93 |
| | 5 | 1 | 57 | 25 | 11 | 6 | 79 | 96 |
| | 6 | 3 | 46 | 25 | 9 | 16 | 71 | 88 |
| | 7 | 3 | 69 | 10 | 11 | 6 | 86 | 99 |
| | 8 | 15 | 30 | 29 | 15 | 10 | 71 | 94 |
| | 9 | 5 | 76 | 0 | 13 | 5 | 74 | 100 |
| | 10 | 1 | 70 | 15 | 10 | 4 | 85 | 95 |
| | 11 | 3 | 47 | 26 | 20 | 6 | 75 | 93 |
| | 12 | 7 | 31 | 51 | 7 | 5 | 36 | 73 |
| B | 1 | 14 | 33 | 33 | 11 | 9 | 63 | 82 |
| | 2 | 10 | 29 | 39 | 13 | 8 | 61 | 95 |
| | 3 | 15 | 34 | 31 | 15 | 6 | 63 | 95 |
| | 4 | 12 | 47 | 23 | 15 | 3 | 76 | 95 |
| | 5 | 15 | 49 | 19 | 8 | 9 | 64 | 92 |
| | 6 | 16 | 18 | 36 | 23 | 7 | 39 | 81 |
| C | 1 | 14 | 27 | 47 | 9 | 3 | 58 | 82 |
| | 2 | 7 | 17 | 50 | 21 | 5 | 45 | 55 |
| | 3 | 7 | 18 | 59 | 10 | 6 | 40 | 58 |
| | 4 | 2 | 25 | 64 | 8 | 2 | 16 | 53 |
| | 5 | 0 | 10 | 65 | 17 | 8 | 14 | 59 |
| CC | 1 | 14 | 32 | 24 | 19 | 12 | 71 | 76 |
| | 2 | 25 | 31 | 26 | 13 | 6 | 73 | 65 |
| | 3 | 17 | 34 | 34 | 10 | 3 | 68 | 80 |
| | 4 | 16 | 11 | 56 | 16 | 1 | 71 | 81 |
| | 5 | 12 | 20 | 36 | 28 | 10 | 53 | 46 |
| | 6 | 12 | 6 | 64 | 12 | 6 | 44 | 52 |
| | 7 | 18 | 57 | 12 | 4 | 9 | 80 | 80 |
| | 8 | 11 | 49 | 25 | 8 | 5 | 53 | 81 |
| | 9 | 9 | 50 | 28 | 8 | 5 | 56 | 80 |
| CCC | 1 | 67 | 30 | 0 | 0 | 3 | 100 | — |
| | 2 | 55 | 23 | 0 | 9 | 14 | 88 | — |
| | 3 | 88 | 12 | 0 | 0 | 0 | 92 | — |
| | 4 | 54 | 35 | 0 | 4 | 8 | 93 | — |
| D | 1 | 23 | 15 | 34 | 3 | 16 | 52 | 92 |
| | 2 | 21 | 19 | 35 | 5 | 19 | 57 | 93 |

| 雑誌種別 | 絵画・グラビヤ | 漫画・絵物語 | 読みもの | 投書・遊戯 | 広告・その他 | 見るページ | 娯楽ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 5 | 53 | 23 | 12 | 7 | 74 | 93 |
| B | 14 | 35 | 30 | 14 | 7 | 58 | 89 |
| C | 6 | 19 | 57 | 13 | 5 | 34 | 61 |
| CC | 14 | 36 | 31 | 13 | 6 | 65 | 74 |
| CCC | 61 | 25 | 0 | 3 | 4 | 93 | — |
| D | 23 | 17 | 39 | 4 | 18 | 55 | 93 |

第1表　児童雑誌の内容種別の占めるページの割合(%)

うなものであることが知られる。児童雑誌が子どもの興味を重くみるのは当然であろうが，少年少女雑誌類のごときは平均9割が娯楽のページである。上にならって児童雑誌の娯楽化水準を求めると，76.2±16.9(M. V) となる。したがって，76.2±8.5 の範囲およびそれ以下に属するものは，前記の視覚化の度の低い雑誌と一致するのであって，それ以外はすべて〝娯楽雑誌〟とみなしてよかろう。

このように現在の児童雑誌は，視覚化と娯楽化が，いちじるしく少年・少女雑誌に現れており，その編集傾向は，青年娯楽雑誌(D)にきわめてよく似ていることが知られる。

## 4　絵画・グラビヤの内容

次に，絵画・グラビヤの内容をしらべてみた。主として扱われる度の多い主題は，

a．生活・娯楽——季節の生活の郷土色，子どもの遊びなどで，幼児・低学年の雑誌にとくに多い。

b．スター・スタイル——芸能界のスター，舞踊，衣装などで，少女雑誌にいちじるしく多い。

c．学習・教養——学習雑誌・幼年雑誌に多い。

d．風物・詩——自然や都会の風景，あるいは詩・童謡を主題とするもの。学習雑誌に多く，幼年ものにも比較的多い。

e．物語——物語の一場面を表わしたもの。少年雑誌

では講談から，幼年雑誌では童話から取材したものが多い。

f．スポーツ——すもう，野球，レスリングなどの場面と，そのスターと。少年雑誌に多い。

g．ニュース——ニュース・トピックス。

h．その他

となる。これらを雑誌種別ごとに，比率を出したのが第2表である。これはページ数ではなく，主題件数を数えた%である。

| 雑誌種別 | スター・スタイル | スポーツ | ニュース | 物語 | 風物詩 | 生活娯楽 | 学習数養 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 27 | 27 | 12 | 17 | 3 | 9 | 6 | 12 |
| B | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 23 | 6 | 8 |
| C | 5 | 5 | 5 | 9 | 25 | 23 | 26 | 7 |
| CC | 6 | 6 | 11 | 3 | 12 | 33 | 33 | 0 |
| CCC | 0 | 0 | 0 | 15 | 13 | 48 | 22 | 3 |
| 全 | 19 | 7 | 6 | 8 | 9 | 27 | 18 | 6 |
| D | 68 | 2 | 3 | 2 | 0 | 10 | 2 | 14 |

第2表　児童雑誌の絵画・グラビヤの内容(%)

(1) 幼児雑誌(CCC)は，生活・娯楽を中心として，学習教養を加え，物語・風物・詩を添えている。4誌とも同じ傾向である。

(2) 低学年雑誌(CC)は，ほぼ同じ傾向だが，物語がへり，その代りに，ニュース，スポーツなどがふえている。ここで目だつのは，学習研究社の学習雑誌が物語を扱わなくなること，講談社の学習雑誌が風景を扱わないこと，そしてスターを扱うのは講談社であることであること。(細目表省略)

(3) 高学年男女雑誌(C)は，学習・教養と風物・詩とを重んじている。児童文学雑誌に絵画・グラビヤのないのは，さみしい。

(4) 少女雑誌(B)は，スター・スタイルに過半数の主題を与えている。この傾向のもっともいちじるしいのはなかよし(66%)であって，少女(55%)少女クラブ(54%)の順となり，女学生の友も46%を数えている。生活娯楽はCにひとしいが，学習教養が激減し，女児に親しまれるであろうと思われる風物・詩も意外に少い。

(5) 少年雑誌(A)は，スポーツが中心で，野球少年がその筆頭なのは名からも推測されようが，これをかえりみないのは面白ブック，痛快ブック，冒険王，漫画王だけで，他はみなスポーツを扱っている。物語の場面が次に多く，芸能スターも，少女雑誌ほどではないが，痛快ブック，少年画報などが引っぱりだしている。ニュースも多く，その代り生活・娯楽が減っている。

以上によってみても，見る娯楽雑誌とみられる少年，少女雑誌は，絵画・グラビヤにおいても，学習教養がきわ立って少く，風物・詩もまたごく少い。この二つの代りに重んじられるのは，少年雑誌のスポーツ，少女雑誌のスター・スタイルであって，この種のねらう娯楽性とは，まことに人間くさいものである。ちょうど花形崇拝のさかんな時期であって，男児はスポーツを通してスターに接近する夢を，女児はスタイルを通してスターに接近する夢を楽しむ。かくて児童雑誌にも，スター・スタイル・スポーツの3Sが流行しているのである。この傾向はまた青年娯楽雑誌(D)に似てきている。

## 5　漫画・絵物語の内容

次に，漫画・絵物語の内容を分類して，種別ごとの頻数を計上し，比率を出してみた。この新年号だけで，漫画・絵物語の総数は393編で，まさに漫画ブームのうわさのとおりである。(このほかに付録の漫画がある。)

さて第3表の示すように，漫画・絵物語を5つの部門に大別すると，

a．生活漫画——すなわち子どもの生活の場に取材したものが，もっとも多い。これは幼児雑誌においてもっとも多く，年長向になるにしたがってへるが，女児向雑誌では依然多い。

b．時代漫画——すなわち封建的な思想を背景とするものが，第2位に多い。これは年長向になるほど多いが，女児向ではそれほどでもない。講談社，集英社，芳文社，秋田書店などの娯楽雑誌に多く，小学館の学習雑誌も多いほうである。

c．神秘漫画——いわゆるミステリーものが第3位

で，傾向は時代漫画に似ている。

d．冒険漫画――すなわち力の争闘をテーマにしたものが第4位で，集英社，光文社，秋田書店，少年画報社などの少年雑誌に多いのが目だつ。

e．教養漫画――は，幼児向と少女向とを除いて，わずかではあるが，見られる。

f．さらに細分すると，子供もの（子供の生活に取材したものが筆頭で，次が剣豪もの，動物もの，文学もの（名作の漫画化），探偵もの，決闘もの，殿様もの（お家騒動を含む）などが多い。

雑誌の種別によると，

(1) 幼児雑誌(CCC)は，子供もの，動物もの，文学ものなど生活漫画が大部分である。

(2) 低学年雑誌(CC)は，生活漫画が少しへって，剣豪ものなどの時代漫画がふえてくる。これは講談社及び小学館の学習雑誌も1編は載せている。学習研究社は全然のせていない。怪奇もの，決闘ものが出てくるが，やはり上記の雑誌においてである。

(3) 高学年男女総合誌(C)は，前項の傾向がいっそういちじるしくなるが，小学4年生に時代漫画が多いのが目だつ。児童文学雑誌は子供ものだけである。

(4) 少女雑誌(B)は，時代漫画が少く，生活漫画が多い，ことに少女，少女クラブに，文学ものが多いのが目だつ° 時代漫画はおおかた殿様もので，どの雑誌も1編はのせている 。次に探偵ものが多いが，これは少女ブックに集まっている。

| 雑誌種別 | 冒険 | | | | 時代 | | | | 神秘 | | | | 生活 | | | | 教養 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 西部もの | ジャングル | 探険もの | 決闘もの | 親子もの | 剣豪もの | 殿様もの | 頓知もの | 怪奇もの | 探偵もの | 未来戦もの | 宇宙旅行 | 子供もの | 動物もの | 文学もの | ナンセンス | 理科もの | 社会科もの |
| A | 0 | 2 | 3 | 11 | 2 | 28 | 6 | 2 | 5 | 11 | 3 | 0 | 18 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 |
| B | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 13 | 0 | 2 | 6 | 0 | 0 | 48 | 5 | 18 | 3 | 2 | 0 |
| C | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 19 | 10 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 39 | 3 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| CC | 0 | 1 | 2 | 3 | 1 | 8 | 1 | 6 | 6 | 1 | 0 | 1 | 30 | 19 | 13 | 2 | 3 | 4 |
| CCC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 41 | 41 | 12 | 0 | 0 | 0 |
| 全 | 0 | 1 | 2 | 6 | 2 | 16 | 6 | 3 | 4 | 6 | 2 | 1 | 29 | 8 | 7 | 2 | 2 | 3 |
| A | 16 | | | | 37 | | | | 19 | | | | 22 | | | | 6 | |
| B | 2 | | | | 16 | | | | 8 | | | | 73 | | | | 2 | |
| C | 3 | | | | 36 | | | | 13 | | | | 42 | | | | 7 | |
| CC | 6 | | | | 15 | | | | 8 | | | | 65 | | | | 7 | |
| CCC | 0 | | | | 6 | | | | 0 | | | | 94 | | | | 0 | |
| 全 | 9 | | | | 27 | | | | 13 | | | | 46 | | | | 5 | |

第3表 児童雑誌の漫画・絵物語の種類(%)

(5) 少年雑誌(A)では，生活漫画がぐっと少くなって，時代漫画がふえている。そのトップは剣豪もので，痛快ブック，冒険王は各8編，幼年クラブ・漫画王は各7編，幼年ブック，面白ブック，少年画報は各5編を1冊の中に盛っている。これについで決闘ものが多く，漫画王，面白ブック，冒険王，少年画報はそれぞれ3編以上をのせている。探偵ものをのせていない雑誌はないが，とくに多いのは，少年画報，少年などである。怪奇ものは，ぼくら，幼年クラブ・少年クラブに多い。

絵画グラビヤの項でみた花形崇拝は，ここでは剣豪もの，決闘ものなどの中に安易な英雄主義となって現れているのである。一般に刺激のどぎついものが多くて，生活の中に軽いユーモアを見いだすといった傾向のものが

娯楽雑誌には少い。その点少女雑誌は，ややましな方である。

## 6　読みものの種類

児童雑誌の読みものを，主題別に分類して%で表わしたのが第4表である。

a．文学的な読みもの――全体では約4分の1を占めているが，学年が上になるほどへる。ただし少女雑誌にはふえ，少年雑誌にはへるのである。前者にふえるのは，少女小説が多くなるからであり，後者にへるのは，活劇物語に移行するからである。

童話・民話及び童謡・詩は低学年に多いが，女児にもっと詩があってもよいのではあるまいか。なおわが国に動物物語が育たないのは残念である。

b．教養学習読みもの――全体としては約4分の1を占めていることになるが，学習雑誌に多いからであって，娯楽雑誌には少い。

上の文学的な読みものと，教養学習読みもので約半分を占め，残りの半分を，次の活劇・伝記・実話で3分している形である。

c．活劇物語――一般に怪奇探偵もの，時代剣劇もの，冒険探険ものが，ほぼ等しい出現率を示している。総じて少年雑誌の3分の1は活劇物語である。少女雑誌には，怪奇探偵が顔を出している。

d．伝記物語――偉人伝は，子どもの読みものとして好適であるが，実際は芸能・スポーツ界のスターの身の上話が，娯楽雑誌に幅をきかせているのである。

e．実話記事――週刊雑誌的な記事で，娯楽雑誌の方にやや多い。

f．全体的に，青年娯楽雑誌の編集傾向に近づいていることが，ここでも明らかである。児童雑誌の文学的読みものと，教養学習読みものの半分ほどとを，花形物語に注ぎこめば，それで青年娯楽雑誌になるのである。

さて以上を雑誌種別の方からながめてみよう。

(1) 低学年雑誌(CC)は，文学的読みものが約半分，教養学習ものが4分の1，残りの4分の1に他の記事が配してある。文学的読みものの雄は，童話・民話である。

(2) 高学年男女雑誌(C)は，学習雑誌の傾向をつよく表わし，教養学習記事が約半分，文学的読みものが約4分の1，残りの4分の1に他の記事を配しているが，活劇物語がやや強く出ている。

学習雑誌には少年少女小説が，児童文学雑誌には童話・民話が多い。

(3) 少女雑誌(B)は，少女小説を中心とする文学的読みものが4割を占め，あとは教養記事をはじめ各種の記事を配している。中でも目だつのはスター物語で，活劇ものは少いけれども怪奇探偵が顔を出している。

この一般的傾向に照らして異色のある雑誌は，文学的読みものが少い点で少女ブック・りぼん・少女，スターをもてはやす点で少女クラブ・少女ブック・女学生の友，実話ものが少い点でなかよし・少女ブック・りぼんなどである。

(4) 少年雑誌(A)は，活劇物語が約3割，これに実話も

| 雑誌種別 | 文学 | | | | 活劇 | | | 伝記 | | 実話 | | 教養学習 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 童謡・詩 | 童話・民話 | 動物物語 | 少年少女小説 | 冒険・探険 | 時代・剣劇 | 怪奇・探偵 | 花形物語 | 偉人伝 | 事実物語 | ニュース話題 | | |
| A | 2 | 0 | 3 | 8 | 7 | 11 | 13 | 11 | 8 | 12 | 8 | 16 | 1 |
| B | 4 | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 6 | 12 | 6 | 7 | 10 | 16 | 4 |
| C | 6 | 10 | 1 | 9 | 5 | 6 | 0 | 1 | 5 | 5 | 3 | 47 | 2 |
| CC | 8 | 25 | 3 | 11 | 2 | 1 | 2 | 3 | 1 | 8 | 5 | 28 | 3 |
| 全 | 4 | 8 | 2 | 14 | 4 | 5 | 6 | 7 | 5 | 8 | 7 | 28 | 2 |
| D | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 8 | 4 | 34 | 4 | 1 | 16 | 15 | 13 |
| A | 13 | | | | 31 | | | 19 | | 20 | | 16 | 1 |
| B | 38 | | | | 7 | | | 18 | | 17 | | 16 | 4 |
| C | 26 | | | | 11 | | | 6 | | 8 | | 47 | 2 |
| CC | 47 | | | | 5 | | | 4 | | 13 | | 28 | 3 |
| 全 | 28 | | | | 15 | | | 12 | | 15 | | 28 | 2 |
| D | 0 | | | | 17 | | | 38 | | 17 | | 15 | 13 |

第4表　児童雑誌の読み物の種類(%)

の・伝記ものを各2割，残りを教養と文学ものとしている。異色のある雑誌を拾ってみると，文学的読みものが全然ないのは幼年ブック・痛快ブック・野球少年で，少くてもある方なのはぼくら・少年クラブ・幼年クラブである。教養記事がないのは野球少年・冒険王・幼年クラブ・痛快ブックなどである。スターをかつぐことの多いのは野球少年・ぼくら・面白ブック・少年画報・中学生の友などである。

## 7 全体的な編集傾向

以上を要約すると，

(1) 幼児雑誌は，すべてが見るページで（保護者向の記事は別とする），教養的な内容と，娯楽的な内容がおよそ半々であり，漫画をのせているものも，生活漫画である。

(2) 低学年雑誌は，学習雑誌の系列にはいるものが，ほとんどであるが，直接に学習記事をおし出さず，娯楽的な内容と触合させているから，むしろ学年別雑誌と称すべきであろう。童話・民話を多く掲げ，漫画も生活漫画を中心としていて，どぎつい刺激は少い。

(3) 中学年雑誌がある。男児向に幼年クラブ，ぼくら，幼年ブック，女児向になかよし，りぼんなどであるが，おそらくこれらは高学年生にも読まれるであろう。この調査ではその意味で類別しなかった。

(4) 高学年男女雑誌は，学習雑誌の色彩をはっきり出していない。学年別で，教養記事を多く盛り，文学的読みものも多くのせているが，娯楽的要素も充分にとり入れている。中には刺激の度のつよいものもないではない。

そのほかに児童文学雑誌がある。童話・民話を主とし，子ども漫画を配したりしているが，刺激の度が弱すぎる感がないではない。

(5) 少年雑誌は，半分以上を漫画・絵物語において，まったく見る娯楽雑誌となっている。絵も文も，活劇・決闘・チャンバラとスポーツ・スターで充溢している

(6) 少女雑誌も見る娯楽雑誌で，少女小説，生活漫画，スター・スタイルなどに少女的興味を集め，探偵物語が絵にも文にも出ている。

(7) 中学生雑誌は，男女別になっている（4月号から学年別になり，学習雑誌の系列にはいるものも創刊されるはず）。これらは娯楽的内容をもっているが，娯楽雑誌の類にははいらない。

## 8 児童雑誌の編集類型

最後に，各誌を，見る雑誌か読む雑誌か，娯楽雑誌か教養雑誌かの2つの観点から，類型に分けてみよう。見る・読むの別では，前述の視覚化水準50%を目やすとして，$\pm\frac{1}{2}$MV で段階を区切れば

見る雑誌 ←93.1— v —84.7— M —67.7— r —59.2→ 読む雑誌
V R

となる。次に娯楽・教養の別でも，現在の娯楽化水準76.2%を承認するとすれば，同様にして，

娯楽雑誌 ←93.1— p —84.7— M —67.7— i —59.2→ 教養雑誌
P I

となる。いま，この二つの尺度にあてはめてみると，各誌は第5表のようになる。これを対照表にまとめたのが第7表である。またこれを，雑誌種別で表わすと第8表のようである。これらから次のことが言えよう。

| 発行所 | 種別 | 誌名 | 類型 |
|---|---|---|---|
| 小学館 | CCC | よい子 | VM |
| | CCC | 幼稚園 | VM |
| | CC | 小学一年生 | VM |
| | CC | 小学二年生 | VI |
| | CC | 小学三年生 | vM |
| | C | 小学四年生 | MM |
| | C | 小学五年生 | MI |
| | C | 小学六年生 | MI |
| | A | 中学生の友 | rM |
| | B | 女学生の友 | rM |
| 学習 | CCC | 幼稚園ブック | VM |
| | CC | 一年の学習 | VM |
| | CC | 二年の学習 | MI |

| 発行所 | 種別 | 誌名 | 類型 |
|---|---|---|---|
| 研究社 | CC | 三年の学習 | MI |
| | C | 四年の学習 | RI |
| | C | 五年の学習 | RI |
| | C | 六年の学習 | RI |
| 講談社 | CCC | たのしい幼稚園 | VM |
| | CC | たのしい一年生 | VM |
| | CC | たのしい二年生 | MM |
| | CC | たのしい三年生 | MM |
| | a | 幼年クラブ | VP |
| | A | 少年クラブ | VP |
| | B | 少女クラブ | vM |
| | a | ぼくら | VP |
| | b | なかよし | vP |
| 集英社 | a | 幼年ブック | VP |
| | B | 少女ブック | vP |
| | A | 面白ブック | VP |
| | b | りぼん | VP |
| 光文社 | A | 少年 | VP |
| | B | 少女 | vP |
| 芳文社 | A | 痛快ブック | VP |
| | A | 野球少年 | VP |
| 秋田 | A | 冒険王 | VP |
| | A | 漫画王 | VP |
| | A | 少年画報 | VP |
| | C | 日本の子ども | Ri |
| | C | 朝の笛 | Ri |
| | D | 明星 | MP |
| | D | 平凡 | MP |

第5表　児童雑誌の類型判定

| | P　p | M | i　I | 計 |
|---|---|---|---|---|
| V | 10　2 | 7 | 1 | 20 |
| v | 2　1 | 2 | | 5 } 25 |
| M | | 3 | 4 | 7 |
| r | | 2 | | 2 |
| R | | | 2　3 | 5 } 7 |
| 計 | 12　3 | 4 | 2　8 | 39 |
| | 15 | | 10 | |

第6表　児童雑誌の類型(冊数)

見る娯楽雑誌（VP）が15冊を数えるが，いずれも少年雑誌，少女雑誌である。しかし少女雑誌には，極端に視覚化していないものもある。

a．少年少女雑誌中の異色は中学生の友と女学生の友で，やや読むページが多く，娯楽と教養とが相半している。もう一つは少女クラブで，娯楽と教養との比率が普通である。

b．視覚化はしているが，娯楽と教養の調和しているもの(VM)は，ほかに8冊ある。児童雑誌と低学年雑誌とである。

| | VP | VM | VI | MM | MI | RM | RI | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 11 | | | | | 1 | | 12 |
| B | 4 | 1 | | | | 1 | | 6 |
| C | | | | 1 | 2 | | 5 | 8 |
| CC | | 4 | 1 | 2 | 2 | | | 9 |
| CCC | | 4 | | | | | | 4 |
| 計 | 5 | 9 | 1 | 3 | 4 | 2 | 5 | 39 |

第7表　　児童雑誌の種別と類型(冊数)

c．低学年雑誌の異色は，小学二年生が見る教養雑誌（VI）の性格をもっているのと，二年の学習，三年の学習が，視覚化が普通程度の教養雑誌(MI)であること，およびたのしい二年生・たのしい三年生が，視覚化も娯楽化もともに普通(MM)であることである。ここに学年別雑誌3社の傾向の差がうかがわれる。

d．読む教養雑誌(RI)は5冊を数えるが，すべて高学年男女雑誌類に属する。その中の3冊は学習研究社の学習雑誌で，他は児童文学雑誌である。

e．高学年学習雑誌のうち小学館のものは，視覚化が学習研究社のものよりも普通程度にまで多く，小学四年生は普通程度に娯楽化しているが，小学五年生・六年生は，教養雑誌となっている。

f．読む娯楽雑誌(RP)が1冊もない(第7表)のは，児童雑誌における娯楽雑誌のあり方に問題を残しているように思われる。娯楽雑誌だから視覚化すると

いうのは，企画性が安易すぎはしないか。明星・平凡ですら普通程度の視覚化（MP）である。高学年の子どもは，もう読めるはずであるから，楽しい読書の中で読書能力の発達が練習される娯楽雑誌がほしいものである。

g．見る教養雑誌（VI）も1誌あるだけで，これは低学年だけでなく，高学年向の雑誌にもあってよい。視覚化ということは，教養雑誌にこそ重要なのである。そうなると現在の略画家の仕事ではなくなる。骨が折れるが，その骨は折ってもらいたいものである。学習雑誌はMIの程度まできているが，一般教養についてもっと視覚化することを研究すべきである。

h．読む教養雑誌（RI）は，学習雑誌のほかに，少年雑誌，少女雑誌としても成りたつはずである。それが一つもない。中学生の友，女学生の友の程度でもよいから，すっきりした教養雑誌を生んでほしいものである。児童文学雑誌も，童話・民話などに閉じこもっていないで，もっと間口を広げなければいけないのではないか。

i．総じて，種別の同じものは，ほとんど同じ類型になっており，表紙をかくせばどの雑誌かわからないほどである。そんな同じ雑誌をいくつも作るより，それぞれ個性を出すことを研究すべきである。

（昭和32年3月15日受付）

# 児童の読書生活と Accessibility の問題について*

東京都港区立高輪台小学校
飯　田　公　一**

児童は読もうと計画した本を実際には，どれだけ読んでいるだろうか。読書は計画的であればある程，能率的ではあるし，より効果的であるのに，読書はよく「読者と著者のめぐりあいである」といわれるように，偶然の機会が左右する事が大きく，計画も何か偶然の機会が，作るとさえいわれている。事実，私達成人でも，自分がなぜその本を読んだのか，はっきりと，その動機については，意識しない事が多い。まして子供達は，その日常生活に自分が読んだ本について，なぜ読んだのか，きっかけを認識している事は，成人以上に少ないと思われる。

然し「読書はつねにめぐりあいである」といわれるのは，今日まで読書の成立過程というものを，個人的主観的な面から考える事が多く，個人の読書に対する興味や必要性から，その動機も位置づけ，そしてその個人の興味や欲求を，或は刺戟し，誘発し，逆に阻害し，抵抗となっていた客観的な要因を，小さく評価していたためではなかろうか。即ち児童の読書を採上げた場合「おもしろいから」「ためになるから」又は「本を読むのが好きだから」という様に，主観的な心理の立場からのみ考察し，それも読書の後，いいかえるならば，行為が終った結果からさかのぼって，動機を抽出する為に，図書の内容から受けた感じが，精神的な動機として表面に現われてくるのである。そして最初から，個人の主観や心理とは別に存在し，しかも欲求や興味に全く無関係でなく，その心理的な動機の裏付けとして，或は寧ろそれに先行する客観的要因である，読書動機，常識的には読書環境を比較的に軽視してきた。このような傾向が，客観的には必然性をもった読書行為を，偶然即ち「めぐりあい」と呼ぶ現象を生んできたように思われる。

そして私自身としては，児童の日常生活の中で，読書指導の計画を建てる時，いいかえるならば，読ませたいと思った本が，結果からみると読まれていないで，読ませたくない本が実際には読まれているという，現実を少しでも改めて，正しく望ましい読書生活に導くには，児童の発達課題や興味の他に，どのような条件を整える必要があるのか，を考える一つの資料になればと考えて，次の調査を行った。

（方法）　前後三回に分けて実施し，第一回は夏休み前の7月18日，19日に，「夏休み中にどんな本を読みたいと思いますか」という質問紙で読みたいと思う本の名をあげさせ，第二回は夏休み直後，9月4日に「夏休みに読んだ本の名を書きなさい」という質問によって，実際に読んだ本の名を調査した，更に第3回の調査では，第一回二回の結果から

Ⅰ　夏休み前の予定通り読めた本
Ⅱ　予定したが読めなかった本
Ⅲ　予定しなかったが読んだ本

の三つに分け，それぞれ次の項目によって引続き，調査を行った。

Ⅰ　夏休み前の予定通り読めた本
　A．1　おもしろそうだったから
　　2　ためになると思ったから

---

*　Problems of Accessibility on reading of children

**　By Kōichi Iida
(Takanawadai Primary School, Tokyo)

3 本を読むのが好きだから
4 たいくつだったから
5 読みなさいといわれた
6 そのほか

B. 1 家にあった
2 買った
3 借りた
4 そのほか

II 予定したが読めなかった本

C. 1 家になかった
2 友達がかしてくれない
3 貸本屋にない
4 本屋にない
5 高くて買えない
6 図書館にない
7 そのほか

D. 1 字や文がむずかしい
2 遊ぶ方がおもしろい
3 めんどうくさかった
4 勉強がいそがしい
5 お手伝いがいそがしい
6 本を読んでいると家でいやがる

III 予定しなかったが読んだ本

(理由はIに同じ)

なお調査した人員は，第一回，二回は3年生103名，4年生148名，5年生144名，6年生180名であり，第3回は，5，6年生のみに行った。

(備考) 第1回の調査については，書名のわかっているものは，それを記入させ，わからないものは，大体どんな内容の本を読みたいか，例えば「悲しい本」とか「本当にいた人の話」というように記入させた。(その結果高学年にいくに従って，男子は女子に較べ，書名を直接記入するか，或は具体的にどんな内容の本を読みたいか，説明する者が多かったが，女子の指摘は，少女小説・怪談等漠然としたものが多かった。)

第3回目の調査に当っては，一応第1回，2回の調査用紙を児童の手に返し，回答し易いようにはからい，大項目I，II，IIIに該当する本について，それぞれ理由を選択させた。A，B或はC，Dと別にしたのは，設定の理由としては，質の違うものと考えたからであり，両方に該当する場合があれば，それぞれから選択させた。I IIIの場合はA，Bから一つづつ選択している。Aからは二つとる事も許した。

第1回，2回ともあげられた書物を次の9分類にわけてみた。(分類の仕方にはずい分異論があると思われる)

1 学習参考書 (年鑑事典・学習読物)
2 伝記 (リンカーン・野口英世など)
3 講談 (時代小説宮本武蔵など)
4 少女小説
5 名作物語 (有名な物語や童話，誰でもが題名だけは知っている様ないわゆる社会的評価のきまった読物 小公女 アンデルセン・次郎物語)
6 漫画
7 冒険探偵小説
8 娯楽雑誌
9 学習雑誌

(学習参考書の理科方面で，男子は実験の解説の本，社会科では東物の歴史などに関するものが多く，女子では事典のような概説書や世界めぐりの類が多かった。両者に共通して，夏休み前の特徴か，読書希望に昆虫・植物・天文の図鑑が多かったが，女子の天文は総て星であるなど，数々のおもしろい現象があるが，今は読書主体の興味からの観察が目的でないので省略する。)

(集計) 第一回児童の読みたいと思った本，第二回，実際に読んだ本の分類別にした冊数が，各々全体の何%になるか，次の表にまとめ，更に円グラフに表してみた。

(第1表) A 分類別読物の全体に対する割合 三年生

| 分類 | 男 | | 女 | | 全 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1回目 | 2回目 | 1回目 | 2回目 | 1回目 | 2回目 |
| 1 学習参考書 | 16 | 3 | 8 | 1 | 12 | 2 |
| 2 伝記 | 3 | 6 | 3 | 2 | 3 | 4 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3講　談 | 8 | 16 | 3 | 2 | 6 | 8 |
| 4少女小説 | 0 | 0 | 1 | 5 | 0.5 | 3 |
| 5名作 〃 | 20 | 21 | 37 | 40 | 28 | 32 |
| 6漫　画 | 24 | 27 | 20 | 17 | 22 | 21 |
| 7冒険探偵 | 9 | 6 | 3 | 2 | 6 | 3 |
| 8娯楽雑誌 | 16 | 18 | 20 | 24 | 18 | 22 |
| 9学習 〃 | 5 | 3 | 5 | 6 | 5 | 5 |
| 計 | 100% | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

注　1回目は読もうと予定した本。

2回目は実際に読んだ本。

B．四年生

| | 男 | | 女 | | 全 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1回 | 2回 | 1回 | 2回 | 1回 | 2回 |
| 1 | 30 | 5 | 19 | 7 | 24 | 6 |
| 2 | 7 | 3 | 9 | 0.3 | 8 | 2 |
| 3 | 8 | 11 | 2 | 4 | 5 | 7 |
| 4 | 0 | 0 | 6 | 7 | 3 | 4 |
| 5 | 16 | 12 | 28 | 29 | 23 | 21 |
| 6 | 10 | 27 | 9 | 15 | 9 | 20 |
| 7 | 19 | 13 | 7 | 2 | 12 | 7 |
| 8 | 9 | 24 | 18 | 30 | 14 | 27 |
| 9 | 1 | 5 | 2 | 5 | 2 | 5 |
| 10 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

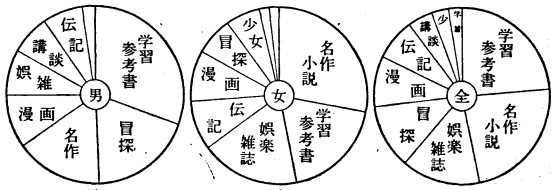
C．五年生

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 31 | 8 | 36 | 8 | 33 | 8 |
| 2 | 8 | 7 | 13 | 2 | 10 | 5 |
| 3 | 15 | 15 | 3 | 5 | 10 | 11 |
| 4 | 0 | 0 | 8 | 10 | 3 | 5 |
| 5 | 12 | 11 | 21 | 28 | 16 | 19 |
| 6 | 10 | 17 | 4 | 10 | 7 | 14 |
| 7 | 19 | 11 | 9 | 5 | 15 | 8 |
| 8 | 6 | 24 | 5 | 23 | 5 | 24 |
| 9 | 1 | 6 | 2 | 9 | 1 | 8 |
| 10 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

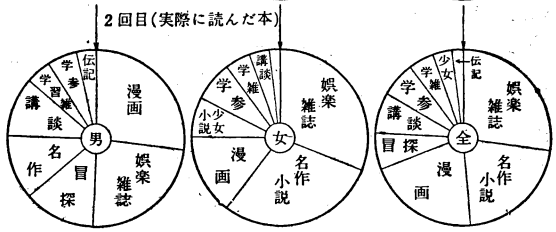
D．六年生

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 42 | 15 | 33 | 9 | 37 | 11 |
| 2 | 3 | 0.3 | 4 | 2 | 3 | 1 |
| 3 | 7 | 7 | 1 | 5 | 4 | 6 |
| 4 | 0 | 0 | 18 | 11 | 9 | 6 |
| 5 | 10 | 18 | 14 | 34 | 12 | 27 |
| 6 | 5 | 8 | 2 | 3 | 3 | 6 |
| 7 | 32 | 21 | 27 | 6 | 30 | 13 |
| 8 | 1 | 25 | 2 | 25 | 1 | 25 |
| 9 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 | 5 |
| 10 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

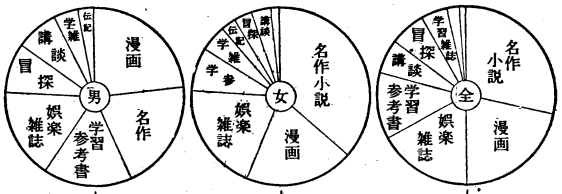
1回目（予定した本）



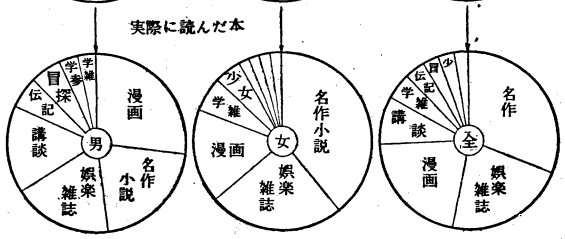

2回目（実際に読んだ本）

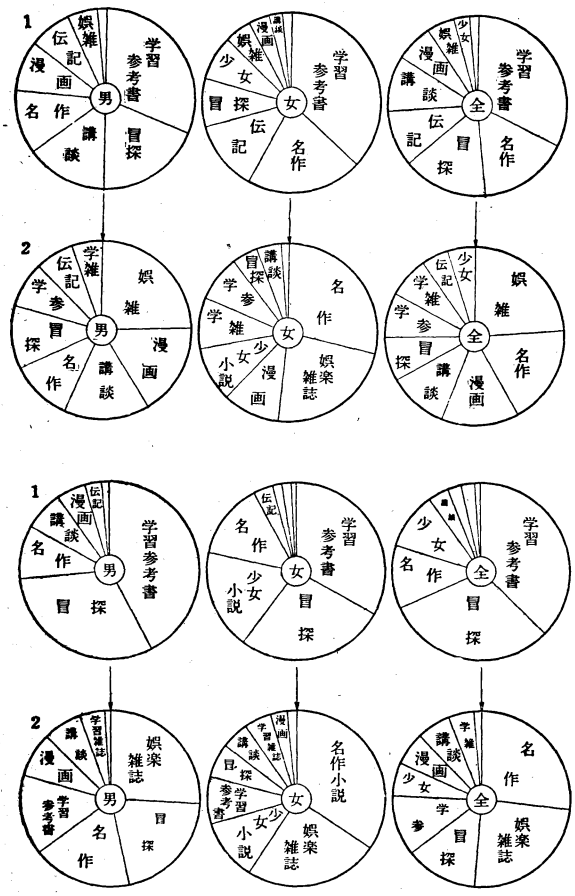



読もうと予定した本




実際に読んだ本






小説) 娯楽雑誌は一回より二回，読もうと思った希望より，実際に読まれた割合が増加しており，特に娯楽雑誌はそれが甚だしい。少女小説は六年生，名作物語は4年生，漫画は3年生を除いては，それぞれ予定より実際の方が増えている。名作物語は6年生女子に増加が著しく，次に5年女子，6年男子が目立っている。逆に予定より実際が少くなっているのは，その現象の極めて激しい学習参考書と冒険探偵小説である。伝記も3年生を例外にして，非常に減少が顕著である事は，時代小説の流行や剣豪ブームの影響で読書内容の稍似ている，伝記から講談へ読者が移ったと見る事もできる。少女小説は3年女子にいくらか目立って多く，漫画は3年，4年で最も読まれ，6年になると，大分落着いている。漫画に対する興味は3年生で強く順次弱くなっているが，増加の割合が4年，5年で大きい事は，関心をひく問題である。然しこのグラフは，①読もうと予定した本，②実際に読んだ本を別にして，各々全体に対する割合を出して比較したのであるから百分率の増減が実際の増減に一致するとは限らない。

今それを考えて①の時の冊数を100として，②の指数を出してみたのが第二表である。第一表と比較しながら，更に考察を続けたい。

グラフを読むと，全般的に見て全学年共に，講談（時代

(第2表) ①を100とした時の②の指数

| 学年 / 性別 | 3年 男 | 3年 女 | 3年 全 | 4年 男 | 4年 女 | 4年 全 | 5年 男 | 5年 女 | 5年 全 | 6年 男 | 6年 女 | 6年 全 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習参考書 | 20 | 29 | 23 | 18 | 38 | 26 | 19 | 19 | 19 | 40 | 28 | 34 |
| 伝記 | 250 | 140 | 182 | 43 | 3 | 20 | 74 | 12 | 40 | 11 | 67 | 43 |
| 講談 | 220 | 140 | 200 | 139 | 260 | 161 | 79 | 170 | 89 | 120 | 533 | 174 |
| 少女小説 | | 650 | 650 | | 125 | 125 | | 117 | 117 | | 71 | 71 |
| 名作物語 | 119 | 183 | 159 | 73 | 107 | 96 | 75 | 115 | 99 | 222 | 275 | 255 |
| 漫画 | 127 | 145 | 135 | 268 | 173 | 219 | 145 | 220 | 163 | 193 | 183 | 190 |
| 冒険 | 71 | 100 | 77 | 72 | 32 | 60 | 47 | 46 | 47 | 75 | 25 | 51 |
| 娯楽雑誌 | 128 | 200 | 167 | 254 | 167 | 193 | 332 | 400 | 359 | 2767 | 1760 | 2138 |
| 学習雑誌 | 78 | 213 | 141 | 467 | 300 | 356 | 625 | 363 | 450 | | | |
| 計 | 111 | 168 | 134 | 99 | 103 | 101 | 79 | 86 | 82 | 115 | 111 | 113 |

注 ①読もうと予定した本
②実際によんだ本

これによってみると，5年生と4年の男子を除き，全部の読書量は予定より，実際の方が僅かであるが増えている。

然しこの読書の実態を考えてみると，第一表でもわかる通り，学習の為の読書は極めて少くなって，娯楽的な読書が多くなっている。

即ち予定した以上に読めた本は，講談・有名物語童話・漫画・雑誌である。反対に読めなかった本は学習参考書・冒険探偵小説・それに伝記を加えてよいだろう。特に雑誌について考えると，3，4年生はともかく，5 6年になると，雑誌を読む事を予定して居らず，極端にいうなら，雑誌を手にする事は読書と考えていない位なのに，なお結果からみると，圧倒的に多く読まれている。漫画についても，ほぼそういう傾向が見られる。これは低級な雑誌や，俗悪な漫画を児童が，好んで読むようにいわれている現在，頗る興味のある事実である。児童は発達課程からみて，健全な読書興味を示しているのに，5，6年になっても雑誌や漫画を手にする事の多いのは，結局それらが身のまわりに，氾濫しているからである。出版されるから読む，眼に触れる所にあるから手にするのである。児童が好み喜ぶから出版するという，雑誌編集者の意見は一方的であるように思われる。これは冒険探偵小説が，3，4年から5，6年と次第に読書興味が増しているのに，実際は予期に違って少くなっている事や，有名な物語や童話がおおよそ増えている事実と考えあわせると，次のような説が成立つ。名作といわれるものは，社会的の評価の確かなものであるから，数が多くでている。従って児童の身のまわりの手に入れ易い，眼に触れ易い，いわゆる接し易い所に大量にあるために，読まれる機会が多くなるのであろう。冒険ものは相当数あるように見えても，児童の読書意欲を満たす線までは供給が達していないのではないだろうか。だからこの種のものは，今後出版されれば，読まれる可能性は充分あると考えられる。つまり良書にしても悪書にしても，そうは自分の興味や必要から読めるものではなく，結局手近にある本を手にすることになるのである。逆に考えるならば，読書の予定を建てさせる時に，児童が手に入れる可能性がある本を選ばせるべきであり，これを助長する意味で，教育的には常に良書を児童の身辺において，いつでも，或は，いつかは，手にする事ができるようにさせておかなければならない。

(第3表)

I　予定より読めた本について (%)

A

| 調査項目 | 5年 男 | 5年 女 | 5年 計 | 6年 男 | 6年 女 | 6年 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 おもしろそうだったから | 27 | 25 | 27 | 42 | 32 | 37 | 33 |
| 2 ためになると思ったから | 28 | 37 | 32 | 42 | 23 | 22 | 26 |
| 3 本を読むのが好きだから | 10 | 12 | 11 | 15 | 17 | 17 | 14 |
| 4 たいくつでなにもする事がない | 16 | 19 | 17 | 14 | 19 | 17 | 17 |
| 5 読みなさいといわれた | 10 | 3 | 7 | 2 | 4 | 3 | 5 |
| 6 そのほか | 9 | 3 | 7 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

B

| 調査項目 | 5年 男 | 5年 女 | 5年 計 | 6年 男 | 6年 女 | 6年 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 家にあった | 17 | 21 | 19 | 12 | 36 | 26 | 23 |
| 2 買った | 46 | 38 | 43 | 33 | 21 | 26 | 33 |
| 3 借りた | 34 | 41 | 37 | 52 | 41 | 46 | 42 |
| 4 そのほか | 3 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 100 | | | | | | 2 |

全体については「おもしろそうだから」が大体3分の1を占め「ためになるから」が約4分の1になっている。「ためになる読書」が6年より5年に多く，男より女に多いのは，少し不思議である。「本を読むものが好きだから」と「読みなさいといわれた」が5年と6年では逆になっているのは，高学年になるに従って，読書も自立的になってくるからであろうか。3，4年から引続き調査しなければ，正しい結論はだせない。「たいくつで何もする事がなかったから」が女子に多いのは，女子の読書が消極的であるとうかがわれる。「読みなさいとい わ

れた」は，数も少く，内容を精しく分析する事もないと思うが，母が一番多く，父・友人・兄姉の順になっている。「その他」の動機としては，ラジオの影響が大きく，次にテレビ・映画など他の mass media との関連が採上げられてくる。

Aを精神的・必理的な動機とするならば，物質的な誘因，普通には入手方法とされている，Bと関係して考えると，読書の動機として「おもしろそうだから借りた」と対象的に，「家にあって，ためになりそうだったから」という場合が，当然あり得る。互に因果関係を持ちながら，A，Bの間でどれとどれが関連する頻数が多いか。これもこれから先，追求して行く必要がある問題と思われる。

Bの表の「買った」というのを更に「誰が買ったか」で表にすると，

| | 五年 | | 六年 | |
|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 父 | 13 | 28 | 26 | 7 |
| 母 | 41 | 48 | 34 | 55 |
| 兄姉 | 11 | 4 | 3 | 21 |
| 自分 | 45 | 20 | 37 | 17 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

男子は，自分で買う事が，母親に買って貰うより僅かに多く，女子は母親に依存する事が遙かに多い。そして母親が選ぶ場合は「ためになる本」が基準になるが，自分で自由に選択する時は，極めて不安である。然しこのグラフの中には表われてこないが，筆者が調査中に気付いた事は，少女小説のような図書も又，母親が与える事が多い。少女小説を読む時期というものが，精神形成の発達的課題の上からいって，避けられないものであるならば，その内的傾向に刺戟を与え，読書興味や傾向として表面におしだすものは，児童の対社会的関係，いいかえるならば，環境であり，具体的には，母親や姉そして年長の友達であろう。

「借りる」を調べてみると，全く友達からが大部分で，次にずっと減って図書館がある。貸本屋の利用は，6年生の男子の他は殆んでないが，それは本校の通学地域が住宅街で，商店街が少いためと思われる。友達関係と読書という事は極めて密接なものであるが，第5表でまとめて考察したいと思う。

(第4表) 予定したが読めなかった本。

(%)

| | 五年 | | | 六年 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 1 家になかった | 31 | 52 | 41 | 52 | 58 | 55 | 50 |
| 2 友達がかしてくれない | 4 | 3 | 4 | 7 | 5 | 6 | 6 |
| 3 貸本屋にない | 13 | 7 | 10 | 10 | 5 | 7 | 7 |
| 4 本屋にない | 18 | 16 | 17 | 10 | 9 | 10 | 10 |
| 5 高くて買えない | 13 | 6 | 9 | 7 | 3 | 5 | 5 |
| 6 図館にない | 7 | 6 | 7 | 4 | 7 | 6 | 6 |
| 7 そのほか | 14 | 10 | 12 | 10 | 13 | 12 | 12 |
| | | | 100 | | | | |

D (%)

| 調査項目 | 五年 | | | 六年 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 1 字や文がむずかしい | 42 | 44 | 43 | 8 | 23 | 16 | 27 |
| 2 遊ぶ方がおもしろい | 3 | 4 | 3 | 31 | 10 | 19 | 13 |
| 3 めんどうくさかった | 23 | 30 | 26 | 15 | 16 | 16 | 20 |
| 4 勉強がいそがしい | 26 | 15 | 21 | 18 | 25 | 22 | 21 |
| 5 お手伝いがいそがしい | 6 | 7 | 7 | 18 | 18 | 18 | 14 |
| 6 本を読んでいると家でいながる | | | | 10 | 8 | 9 | 5 |
| | | | 100 | | | | |

このグラフをみると，いかに読書が接し易さ (Accessibility) に左右されているかが，判然とする。どんなに読みたいと思っても，最も身近な所にその本がなければ，読書行為は成立しない。次に範囲が拡がって本屋にまで出かける児童は極めて稀である。図書館や貸本屋に行くのは，他の種々の条件例えば距離とか費用とかという阻害や抵抗を伴っているので，そうまでして本を読み

たがらない。

又高くて買えなさい本としてあげているのは，実験解説や地図・図版・写真つきの本である。そのほかの理由として挙げているものの中で，比較的数の多いものは，図書館に行く予定がいけなかった，他のを読んだ病気で読めなかった，なんとなく読みたくなった，後からくだらないと思った，などである。

Accessibility の条件が整うと，問題になるのは readability（読み易さ）という事であろう。「字や文が難かしい」のいわゆる読書力の抵抗が，5年生から6年生になると急激に減っている事は興味の深い現象である。なお難解な本とされているのは，事典・歴史の本であるが，この種の本が，専門的な知識を提供する本である為に，字句のむずかしいのは推察できるが，一つの障壁としてあげられるのは，子供達自身が，その様な参考書の利用の仕方を知らない事，裏からいえば，児童の求めている問題解決の方法や知識を載せている学習資料の少い事である。前者には図書館教育の充実を期したいし，後者には出版界に，児童の使い易い，読み易い参考書の刊行を望みたい。

（第5表）　これは第3表「予定通りに読めた本」と比較しながら，集計にあらわれた，数字を考察したい。「たいくつで何もする事がなかったから」が，急激に増えて「ためにする読書」が大幅に減っている。

第5表　予定しないで読んだ本。

A

| | 五年 | | | 六年 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 1 おもしろそうにうだったから | 11 | 32 | 21 | 40 | 35 | 37 | 32 |
| 2 ためになると思ったから | 18 | 29.5 | 23 | 15 | 17 | 16 | 18 |
| 3 本を読むのが好きだから | 21 | 6 | 14 | 11 | 8 | 10 | 11 |
| 4 たいくつで何もする事がなかったから | 34 | 29.5 | 32 | 30 | 31 | 36 | 31 |
| 5 読みなさいといわれた | 7 | | 4 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| 6 そのほか | 9 | 3 | 6 | 2 | 6 | 4 | 5 |

そして次の表のように友達に借りる事が，第3表同様に大変多く，約半数になっている。

B

| | 五年 | | | 六年 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 1 家にあった | 31 | 33 | 32 | 16 | 21.5 | 19 | 23 |
| 2 買った | 14 | 22 | 18 | 36 | 24 | 29 | 26 |
| 3 借りた | 55 | 37 | 45 | 46 | 48 | 47 | 46 |
| 4 そのほか | | 9 | 5 | 2 | 7.5 | 5 | 5 |

友達と読書との連関は，学校図書館の図書の貸出しを一学級について，Book-card によって調べてみると，一冊の本が大体仲の良い友達同志次から次へと読まれている現象によってもその密接な関係がわかり，学校図書館本については望ましい現象と考えられる。然し時間を持て余した児童が，ひまつぶしに友達に借り，或は「友人が借してくれるといったし，ちょうど自分もたいくつだったので」という状態で本を借りる。このように教育的配慮から放任されてしまっている時間や場所で貸し借りされる本の内容が歓迎されるものでないことは，いうまでもない。夏休みが，学校側からは教育計画の中で正しい意義づけがされず，家庭でも学校に全面的に依存してしまって，児童の指導の為に必要な校外生活とは考えていない。従って夏休みにふさわしい生活教育が行われず，生活の不規則・学習の中止・社会悪への感染という現象が，読書にもはっきりと浮びあがってくる。

読もうと予定した中で，非常に多かった学習参考書は結果から見ると最も読まれていない図書に入るが，第3表と第5表と比較して推察できる通り，読もうと予定しないで，学習参考書に接する事は，計画し予定した読書よりずっと少くなっている。だから夏休みの家庭学習に，図書の利用を必要とするような課題を与え，その上彼等が利用し易い環境を整える，即ち夏休み中の学校図書館の開放，公共図書館の児童への接近等の必要性が生まれてくるのである。読書興味や意欲の少いものは，読書量も少い。然し読書意欲は強くても，結果は手近に入り易いものしか読んでいない。意欲の高い児童が，一度でも眼に触れ，題名だけでも知っていた本が身近にあったら，事前の読書計画は目的に結ぶ。「本でも読んでみよ

うか」と思った児童が手にする本が，彼に読書の喜びをもたらす結果につながる。

学校図書館と学級分館を平行して経営する豊島区の椎名町小学校に於て，学習用の図書が学級分館に多く，一般読物の殆んどが本館においてあるのに，なお学級分館の図書の利用が多いという発表も，いわゆる〝接し易さ〟が児童の読書活動を進める重要な要素になっていることを，実証するものである。

(結論) 今迄第1から5表のグラフの考察の中で，繰返し結論らしきものは述べてきたから，今更いうまでもないが，今後の問題とあわせてまとめてみたい。

児童はそれほど読書に対し目的意識を持っていないし，読書興味も固定したものではない。友達が良い本を持っている。家庭の書棚に良書が多い。学校図書館が児童の生活の中に融合している。こういう事が児童の読書生活や読書興味を形成してくるのである。環境が児童の読書に対する意識を決定している事実を忘れてはならない。だから読書指導の計画の中に，接し易さの原理，具体的には読書環境を整えるという条件が，児童の発達課題や読書興味を考える事と共に重要になってくるのである。

(今後の問題)

本調査では，精しくどの種の本がどんな条件で読まれるかは，まだ集計されていない。

即ちI　予定通り読めた本

II　予定したが読めなかった本

III　予定しなかったが読んだ本

の三つに分けたが，それぞれの条件で読まれる本にはどういう種類のものが多いか。具体的には予定した通り読めた本の中で，友達に借りた本は，どんな本かという事があきらかでない。この問題を更に追求して行く事は，友達関係と読書という相互に関連を持ち，循還しあっている機能を考察していくことであるから読書が社会環境によって，規制されてくるという事実を証明する，一つの立場にもなろうと考える。

(昭和31年12月15日受付)

# 時 の 話 題

## 第5回菊池 寛賞

第5回(昭和31年度)菊池 寛賞を2月19日，日本文学振興会が発表した。そのうち出版関係はつぎのとおり，

正宗白鳥――〝懐疑と信仰〟(中央公論連載)

毎日新聞社会部――〝官僚にっぽん〟その他一連の連載記事

大修館書店(社長鈴木一平氏)――諸橋轍次氏の〝大漢和辞典〟の出版

## 小学館児童漫画賞

第2回小学館児童漫画賞は，昨年1月から12月までに発表された児童向けの漫画の中から選考され，石田英助氏の〝おやまのかぼちゃん〟(幼稚園掲載)，〝こぞうのぼんちゃん〟(小学一年生掲載)に授賞と決定した。同氏の作品には。〝青空豆之助〟(太平洋文庫)〝こぶたのとんちゃん〟(小学館) などがある。

## ブルーリボン賞

先に設定されたブルーリボン賞は，次の8小説に決定た。

A．ベルダン；野の娘アンジェリナ

m．ブトル；時の用法

G．E．クランシエ；黒パン

P．コソン；武器をすてる人

m．デオン；偽りの希望

Y．ジボオ；直線

L．ラブレ；天使のトランペット

F．マレジョリ；嘘偽

## チャタレイ裁判・有罪

イギリスの作家D．H．ロレンスの〝チャタレイ夫人の恋人〟日本語版に対して昭和25年刑法175条のワイセツ文書販売罪に触れるとて起訴された出版社の小山久二郎氏，訳者の伊藤整氏は，法廷で争うこと7年，ついに3月13日，最高裁において上告棄却の判決が下された。これによって東京高裁の2審判決の小山氏罰金25万円（1審同)，伊藤氏罰金10万円（1審無罪）が確定した。

この判決では，問題の作品を〝芸術的に相当高く評価されている作品であり……いわゆる春本とは異る〟と認めながら，〝芸術的作品にもワイセツ性はある〟と断定したことが注目される。

## 芸術院賞及び恩賜賞

昭和31年度日本芸術院賞の第2部文芸部門は，

幸田 文 小説〝流れる〟に対して

和田芳恵 評論〝一葉の日記〟に対して

恩賜賞は

故 折口信夫 〝折口信夫全集〟に対して

それぞれ贈られた。

## 第8回女流文学賞

昭和31年度第8回女流文学賞は，つぎの2氏の作品に贈られた。

大原富枝 ストマイツンボ

原田康子 挽歌

## 探偵作家クラブ賞

昭和31年度第10回探偵作家クラブ賞は，つぎにおくられた。

松本清張 短編小説集〝顔〟(講談社)

## 日本書籍出版協会の発足

3月29日，日本書籍出版協会の創立総会が開かれ，同日発足した。会長は下中弥三郎氏（平凡社)。これで日本雑誌協会，教科書協会と並んで出版界の3領域が体制化された。

## 第3回文芸春秋漫画賞

第3回文芸春秋漫画賞は，加藤芳郎氏の最近の漫画作品と決定した。

## 日本児童文芸家協会昭和31年度推せん書

▼「児童名作全集」(全16巻・偕成社) ▼「世界少年少女文学全集」(全50巻・東京創元社) ▼「新編日本少国民文庫」(全12巻・新潮社) ▼「少年少女世界科学冒険全集」(全15巻・講談社) ▼「少女少女科学小説全集」(全20巻・石泉社) ▼「小学生クオレ文庫」(全9巻・秋田書店」▼「少年少女発明発見文庫」(全15巻・岩崎書店) ▼浜田広介童話選集」(全6巻・講談社) ▼「少年少女日本文学選集」(全20巻・あかね書房) ▼「灯をかかげて」(全10巻・ポプラ社) ▼「少年少女のための国民文学」(全14巻・福村書店)

# 時 の 話 題

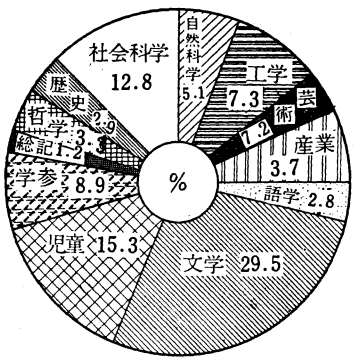
## 昭和31年度の出版発行統計

昨年の1月から12月までの出版発行統計が，このほど日本出版協会調査課でまとめられた。ここにその一部を紹介する。

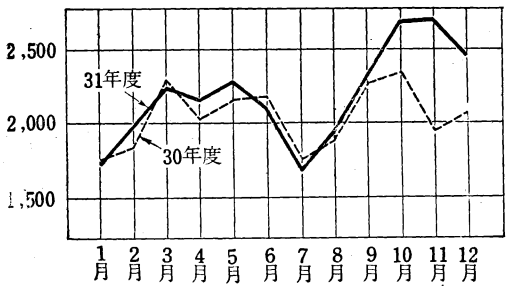
### 部門別発行点数と平均定価

| 分類 | 30年 発行点数 | 30年 平均定価 | 31年 発行点数 | 31年 平均定価 |
|---|---|---|---|---|
| 総記 | 308 | 399 | 230 | 256 |
| 哲学 | 851 | 245 | 942 | 201 |
| 歴史 | 751 | 350 | 765 | 340 |
| 社会科学 | 3351 | 312 | 3168 | 309 |
| 自然科学 | 1342 | 508 | 1090 | 341 |
| 工学 | 1914 | 384 | 1816 | 362 |
| 産業 | 964 | 367 | 988 | 351 |
| 芸術 | 1897 | 307 | 1461 | 282 |
| 語学 | 721 | 297 | 814 | 278 |
| 文学 | 7706 | 186 | 7032 | 170 |
| 児童 | 4013 | 186 | 3289 | 172 |
| 学参 | 2337 | 177 | 2709 | 195 |
| 計 | 26155 | 総平均 260 | 24304 | 総平均 242 |

### 部門別発行点数百分比




### 月別発行点数




### 雑誌部門別発行点数

| | 30年 | 31年 | | 30年 | 31年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 児童 | 31 | 31 | 受験学習 | 18 | 19 |
| 婦人 | 17 | 17 | 語学 | 21 | 23 |
| 大衆 | 44 | 50 | 教育 | 60 | 56 |
| 総合文芸 | 44 | 39 | 歴史地誌 | 5 | 5 |
| 詩歌俳句 | 12 | 16 | 法律 | 20 | 25 |
| 芸能 | 34 | 28 | 外国事情 | 29 | 33 |
| 美術 | 17 | 21 | 科学 | 20 | 21 |
| 音楽 | 9 | 10 | 理学 | 13 | 12 |
| 生活 | 24 | 25 | 工学工業 | 63 | 79 |
| 趣味 | 35 | 45 | 医学 | 66 | 65 |
| スポーツ | 25 | 25 | 農林水産 | 25 | 29 |
| 経済 | 63 | 72 | 学術 | 4 | 7 |
| 社会時局 | 37 | 39 | その他 | 14 | 17 |
| 宗教哲学 | 10 | 10 | 計 | 760 | 819 |

### 継続出版物及び文庫新書の月別発行点数

【30年】

| | 全集 | 叢書 | 新書 | 文庫 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | 81 | 104 | 149 | 252 |
| 2月 | 88 | 96 | 177 | 246 |
| 3月 | 88 | 143 | 200 | 315 |
| 4月 | 84 | 80 | 187 | 306 |
| 5月 | 97 | 102 | 220 | 364 |
| 6月 | 94 | 118 | 261 | 323 |
| 7月 | 97 | 99 | 295 | 344 |
| 8月 | 57 | 121 | 349 | 359 |
| 9月 | 83 | 109 | 357 | 387 |
| 10月 | 113 | 126 | 439 | 334 |
| 11月 | 80 | 133 | 343 | 266 |
| 12月 | 97 | 125 | 404 | 222 |

【31年】

| | 全集 | 叢書 | 新書 | 文庫 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | 67 | 114 | 303 | 233 |
| 2月 | 76 | 154 | 352 | 284 |
| 3月 | 92 | 115 | 380 | 234 |
| 4月 | 99 | 142 | 314 | 178 |
| 5月 | 95 | 153 | 282 | 203 |
| 6月 | 84 | 187 | 319 | 194 |
| 7月 | 89 | 129 | 261 | 155 |
| 8月 | 130 | 113 | 253 | 306 |
| 9月 | 107 | 215 | 248 | 226 |
| 10月 | 266 | 226 | 269 | 317 |
| 11月 | 213 | 289 | 295 | 268 |
| 12月 | 163 | 229 | 242 | 255 |

# 基準読書研究資料 (三)*

目　次

一．問題の展望
二．基準図書リストの例
　A．一般教養をめざしたもの
　　Aの1　一般教養向(以上本誌第1号)
　　Aの2　文学領域
　B．大学程度
　　1．日本の例(以上本誌第2号)
　　2．外国の例(本号掲載)
　C．高等学校程度(以下次号)
　D．中学校程度
　E．小学校程度
三．基準読書の問題点
四．参考文献目録

前号に紹介した「教養書百選」の外に，特色あるものとしては，「学生と読書」(瀬沼茂樹編；の中に，約500余点を選んだ書目がかかげられているが，これはいわゆるminimum essentialsをうちだそうといういきかたとは方向を異にしたものである。また文学に限定したものでは，熊谷孝氏の編になる「小学校から大学教養課程まで—文学教材500選」(「文学教育」同氏著，昭31年，国土社，B6，333P）の中に，「高校2，3年・大学教養課程」としてあげられたものなどは，小学校から一貫してしかも文学教材に限定したところにひとつの特色があって参考となるものであろう。この類のものは，なお他にも例があるが，本稿では，書目の紹介を割愛したい。

さて，外国の例であるが，これも，多くを紹介しえないので，ここでは前号の「教養書百選」と好対照と目される代表的な一例を紹介しておくこととしたい。

2．外国の例

おなじねらいで，大学生を対象に選ばれたリストのうち，代表的なものと思われる一例をつぎに掲げよう。これは，アメリカの大学生を対象にして選ばれた，"100 Significant Books" で Mentor Book の一つである "Good Reading" の1934年版の刊行のために，大学読書委員 (Committee on College Reading) によって選ばれ，その後修訂されてきたものである。1955年版の "Good Reading" に収められている "100 Significant Books" の改訂書目 (1952年改訂) は Carl Carmer 氏を Chairman にした10人の専門家によって選ばれたものである。なお，この書目は，必ずしも最高，最大の作品とか，またもっとも影響力があったものということでなく，熟知する価値のある重要な図書の代表的な選書として提供されたものである。

**"100 Significant Books"**

**Ancient Times**

Aeschylus—Plays
Aristophanes—Plays
Aristotle—Ethics and Politics
The Bible
Confucius—The Analects
Euripides—Plays
Herodotus—History
Homer—The Iliad and The Odssey
Lucretius—On the Nature of Things
Marcus Aurelius—Meditations
Plato—The Republic and The Symposium
Plutarch—Lives
Sophocles—Plays
Thucydides—The Peloponnesian Wars
Vergill—The Aeneid

**Middle Ages and Reanissance**

The Arabian Nights
Becon—Essays and Advancement of Learning
Boccaccio—The Decameron
Cellini—Autobiography
Cevantes—Don Quixote
Chaucer—The Canterbury Tales
Dante—The Divine Comedy
Erasmus—In Praise of Folly
Machiavelli—The Prince
Malory—Le Morte d'Arth
Mohammed—The Koran
Montaaigne—Essays
More—Utopia
Omar Khayyám—The Rubaiyat
Rabelais—Gargantua and Pantagruel

---

* On the Study of Standard Reading (3)
By Tsunenobu Fukagawa
(Ministry of Education)

Shakespeare—Plays and Poetry

**17th and 18th Centuries**

Boswell—Life of Samuel Johnson
Bungan—Pilgrim's Progress
Burns—Poems
Defoe—Robinson Crusoe
Descartes—A Discourse on Method
Donne—Poems
Fielding—Tom Jones
Franklin—Autobiography
Gibbon—The Decline and Fall of the Roman Empire
Hamilton et al—The Federalist
Malthus—Principles of Population
Milton—Poems
Molière—Plays
Paine—The Rights of Man
Pepys—Diary
Rousseau—Emile and The Social Contract
Smith—The Wealth of Nations
Spinoza—Philosophy
Sterne—Tristram Shandy
Swift—Gulliver's Travels
Voltaire—Candide

**19th Century**

Austen—Pride and Prejudice
Balzac—Eugénie Grandet
E. Bronte—Wuthering Heights
Browning—Poems
Butler—The Way of All Flesh
Byron—Poems
Chekhow—Short Stories
Darwin—The Origin of Species
Dickens—David Copperfield
Dostoevski—Crime and Punishment
Emerson—Essays
Flaubert—Madame Bovary
Goethe—Faust
Hardy—Tess of the D'urbervilles
Hawthorne—The Scarlet Letter
Hugo—Les Misérables
Ibsen—Plays
Keats—Poems
Marx—Capital
Maupassant—Short Stories
Melville—Moby Dick
Poe—Tales
Reade—The Cloister and the Hearth
Shelley—Poems
Stendhal—The Red and the Black
Thackeray—Vanity Fair
Thoreau—Walden
Tolstoi—War and Peace
Twain—Huckleberry Finn
Whitman—Leaves of Grass
Wordsworth—Poems

**20th Century**

Adams—The Education of Henry Adams
Bennett—The Old Wives' Tale
Dreiser—An American Tragedy
Frager—The Golden Bough
Freud—Introduction to Psychoanalysis
Lewis—Babbitt
Mann—The Magic Mountain
Maugham—Of Human Bondage
Merejkowski—The Romance of Leonardo da Vinci
O'Neill—Plays
Sandburg—Lincoln
Shaw—Plays and Prefaces
Steinbeck—The Grapes of Wrath
Steffens—Autobiography
Veblen—The Theory of the Leisure Class
Wells—Outline of History
Yeats—Poems

これを，日本の大学生程度の教養をめやすとして選ばれた前号掲載の「教養書百選」の書目と比較して両者の書にある特質をとりあげてみよう。

(1) 両書目に共通した図書をみるとつぎのようなものがある。

| | |
|---|---|
| ユーゴー | レ・ミゼラブル |
| スタンダール | 赤 と 黒 |
| フロオベール | ボヴァリー夫人 |
| モンテーニュ | 随 想 録 |
| デカルト | 方法論叙説 |
| ドストエフスキー | 罪 と 罰 |

(2) 同一著者について，ことなった作品をあげているもの，または同一著者について，作品のあげかたのはばを異にしているもの。(Kは教養書100選を，Gは，100 Significant Books の略号)

| | |
|---|---|
| シェクスピア | K—マクベス |
| | G—Playsand Poetry |

| | |
|---|---|
| モーパッサン | K—女の一生 |
| | G—Short Stories |
| ゲーテ | K—若きヴェルテルの悩み |
| | G—ファウスト |
| トルストイ | K—イワン・イリッヂの死，アンナカレーニナ |
| | G—戦争と平和 |
| ルソー | K—懺悔録 |
| | G—エミール |
| プラトン | K—ソクラテスの弁明 |
| | G—The Republic and the Symposium |
| チェーホフ | K—三人姉妹 |
| | G—Short Stories |
| ドストエフスキー | 罪と罰 |

(3) 全体としての特色は，両書目の選定の趣旨が当然のことながら，書目の上にあらわれていて，日本の場合は日本の文化についての書目が多く，アメリカの場合は西欧文化についての材料が多くなっているが，ここで特徴的なことのひとつ(a)は，教養についての考えかたである。というのは，日本の場合は，解説的なものが多いに対して，アメリカの場合は，原典が多いことである。たとえば，後者では，バイブル，コーラン，論語，資本論などがあげられているのに対して，日本の場合は，これらの原典があげられないで，聖書入門(山谷省吾著)，孔子(貝塚茂樹著)，資本論入門(リンゼー原著，木村・吉田訳)などがあげられていることである。日本の場合は何らかの解説者を通して原典をみようとしているが，この風は，この書目の上にある傾向というだけでなく，わが国で，むしろ一般的な傾向というべきであろうか。「解説か原典か」については，他の条件も考えあわせて考えるべきで，簡単にはそのいずれかに決着をつけてしまうことのできない問題であるが，こうした基本的論議は後に譲るとして，原典を読むことと原典を読むすすめをすることがわが国でもっと強い傾向となってゆくことが必要と思われるのである。

もうひとつ(b)の特色は，日本の場合のリストにないもので，アラビアンナイト，ロビンソンクルーソー，ガリバー旅行記がアメリカの場合にあげられていることである。日本ではこれらはほとんど児童向の図書とされている。これらのものの中には，もともと，児童向に書かれたものでないが後年に児童向に抜粋されたり，書き改められたりしたものがあるが，こうした書目を含んでいるところにアメリカの場合に，少年期の豊かな夢を温存していることに特徴があるといってよいのでなかろうか。

なお両リストを比較すると，(c)アメリカの場合は，思想文学に重点があり，日本の場合は，社会科学や自然科学にまで領域を広げていることが特徴的であることもみのがしえない。

(文部省　深川恒喜)

# The great Books Foundation の歴史と活動*

千葉県立中央図書館長

廿日出逸暁**

① **歴史** G. B. F. は Illinois 州法に定められた公益法人の団体で，各時代の偉大なる精神の労作を，読書し討論することによって，成人の自由教育を促進させるものである。

同会は1947年以来存在している。現在は400以上のコミュニテイーにわたって，1200以上の討論団体をもつに到った。これは合衆国全土及びカナダの Montreal, Toronto, Vancouver 地方に及んでいる。

② **役員及び理事**

同会の役員は，理事会議長 R. M. Hachins 会長 W. C. Munncclse 副会長及び企劃部長 C. F. Ttrubbe. Tr. 書記長 B. Hitz. Ta. 会計 W. H. Givens. 理事の氏名は省略するが，各人は現は同会の事業に活発な関心を持っているが，定例討論会の指導者である。

③ **財　源**

同会は1947年7月1日に発足したが，2年後1949年6月30日には，運営資金として以下の如く受領した。

| | | |
|---|---|---|
| Ⓐ | 図書販売の総売上 | $ 169.052 |
| Ⓑ | Chicago 大学—貸付 | 119.250 |
| Ⓒ | 大英百科事典商会 | 94.363 |
| Ⓓ | Old Dominion Foundation | 50.000 |
| Ⓔ | 個人寄付 | 42.468 |
| Ⓕ | 他の寄付（地方団体特別教室，図書館及大学等） | 28.498 |
| | | $ 503.611 |

G. B. F. 会員には月謝と云うものはない。組強制する

* On the Great Books Foundation—Its history and action

** By Itsuaki Hatsukade (Chief of the Chiba Public Library)

わけではないが，一組の図書を購入することが期待されている。

④ **読書リスト**

理事会委員会では，関係者と相談して，毎年会合のための読書リストを選定する。同会でリストを選定するのはその手段を持っていると自負するからである。

同会は経験により，どのような読書資料が討論のよいテーマになるかを知っており，またそれなしでは読書団体がまとまらないことを知っているからである。

もしも同会のリストから一度逸脱したとしたら，も早止るところを知らないだろう。個々人，個々団体の判断に絶対的信頼をおくなら別であるが。

上記のほかに，読書リストの選定には以下の実際的理由がある。

Ⓐ 資料は容易に，かつ安価にて，会員に入手できなければならない。
同会の複製によらない限り，多くの資料は絶版，ないし高価な本である。

Ⓑ ホン訳は，著者の思想を同様に理解するために，劃一なものでなければならない。

Ⓒ 劃一な読書資料，セツトによらない限り，すぐれて有益な〝手びき〟が得られない。

毎年読書資料は，Henry Regnery Company を通じて，セツトまたは各冊毎に販売される。（1セツト $ 9.60）各冊は頁数で異った価格を持つ，資料は会を通じ，地方書店を通じて売出されるが，いずれにしても会は印税をとる。

⑤ **方　法**

これは成人に自由教育の機会を与えるもので，その目的のために，読書の割当をきめ，月二回討論会を開き，毎年古代から始まり，近代に及ぶ。講座料もいらないし，参加資格もなく，基礎教育の別もなく，試験も免状授与もない。

然し真の意味における最大の学部があると云える。聖書に始まり，ギリシヤの哲学者，シェークスピア，ダンテ，トルストイ，ジュファーソンをん含でいる。

各グループに2人の指導者がいるが，これは教師ではない。本が教師である。

討論会指導者は素人である。彼等の役目は2時間の討論を導くだけである。そのためには，質問を発して，図書の問題点をとりあげて討論を促進する。

討論の方法は比較的正式なルールに従うことによってのみ，十分な時間，会員をまとめることができる。会ではルールに従いなさいとは云はないが，それによらなければ Great Books が身につかないことを説く。G. B, F. では独特の哲学，政治，宗教的主張を以て個人にのぞむと云うことはない。理事会のものを含んで，本会の会員は，重要な問題点について考え，隣人と討論することが望ましいのである。重要な質問に対する解答は各自がそれを発展させるべきであり，またそのような解答は既製の文章とか，考えをそのまま各人に与えるべきでない。

⑥ **指導者教育**

会の重要な役目は指導者を教育することである。それにはグループ指導者になる関心を持つ者の集りに何度も出なければならない。これには通常40～50名の男女性が集る。この指導者の人選は多く公共図書館利用者の一般人で，各種の職種の人々であり，公共図書館側より2名位の推挙によることが多い。会の代表はこれをG. B. 討論クラスとして，1回2時間づつの夜間会合を最低9回開く，この中4回は通常のG. B. クラスで事務局員により指導され，"Demonstration Meeting" と云われる。

後の5回は事務局員のかんとくの下に行われるが，これは実演で小グループに分れて質問をする経験をつむ。

客観性，ユーモア，知的好奇心は指導者の重要な資格である，指導者は本を読んだり，質問に答えることで教育されるのでなく，会員をして各人が自分の信念(考え)に理由づけを持つようにするのである。だから〝何故〟と云うように質問するのは指導者とし良い質問である。

次いで〝指導者の協力〟がある。これは読書中に起る種々な質問を書いたパンフットである。

指導者の協力は，暗示の形になっており，過去の討論会の経験を生かしたものである。それは断定的でなく，独善的でなく，全体のアウトラインを示すと云うものでもない。

次に補習授業がある。これは人に考えを呼び起すような質問の仕方を身につけ，過去に起きた問題に答え，他との成績を比較させ，おちいり易い誤りを避けさせる技術を身につける。

補習授業が終り，討論グループが出来れば会は News letters（会のニュースを送る），一般通信，面談，その他の連絡方法で接触を保つ。その会に属する者が問題点をよく考え，それに精通するようになった時，始めて指導者の訓練が出来たものと会では考えるのである。会では有能な指導者に質問の仕方，会の運営法を教えて励ますが，無能な指導者には手を引くようにすすめる。

⑦ **追加案内資料**

Ⓐ 考えることへのすすめ
G. B. 計画の概要を語り，グループが会合し，各人はいかにすれば会の主旨を理解するかを説き，模範討論の抜すい，質問要領，最初4年間の読書リスト，その他会の一般的情報。

Ⓑ 指導者の手引

指導者が団体討論を指導する技術を養成するように協力するパンフレット，又はリーフレットを予め製作して置く。

Ⓒ 指導者がいかに質問するかの範例集。

**⑧ 一般周知**

G. B. F. は Great Books を周知させることに関心を持つものである。

また St. Louis の市民が Milwouliee の市民が何をしているかを知らしめ，Louisville の市民には San Francisco の市民が何をしているかを知らしめたい，もし彼らの Community に G. B, 会があれば，いかに運営されているか？もしなければ，いかにして出発するかを人々に知らしめたい，，会では資料を準備し，配布し，G. B. の会，その方法につき一般的情報を提供し，全国的周知活動における Clearing house の役目を果す。

**⑨ Community と協力**

会は凡ての適切な方法によって，個々の Community と協力する。公共図書館はその場である。

Community の中の個人，団体が Great Books に関心を持った場合，その関心を延す方法を考える。

G. B. F. コミュニテイ計画，覚書が別冊で刊行されている。

この覚書はG. B. 計画による成人自由教育の，コミュニテイ及び G. B. F. の活動を書いたものである。

**⑩ 組織と管理**

Ⓐ G. B. F. は小さな中心組織を持ちつづけたい，しかし通常の活動は "Homerule" の原則に則り，コミュニテイ自体がイニシアテイブをとり，その事業計画の一部として定例行事として行われるべきだと思う。

Ⓑ G. B. F. では独特の哲学，政治，宗教的主張を以て個人個人にのぞむと云うことはない。

**⑪ 資　　料**

Purchase of 1 —— 8 sets. ＃ 11.00 each.
9 ——11 10.00
Purchase of 12 or more sets 9.25 each

今年は11年紀に当り，価格も極めて安価に入手出来る準備が整って居る。

**⑫ リスト表を例示すれば，次の如くである。**

Revised Summer, 1956
First Year Reading List
Autumn Quarter
1 —Sophocles (496—406 B. C.) Antigone (Chicago)
2 —Plato (427—346 B. C.) Apology (Philosophy of Plato, Modern Library)
3 —Plato, Crito (Philosophy of Plato, Modern Library)
4 —Thucydides (471—400 B. C.) Peloponnesian War, I (Modern Library)
5 —Thucydides, Peloponnesian War, II
6 —Plato, Meno (Library of Liberal Arts)
7 —Plato, Meno
8 —Plato, Republic, I (Everyman, American Edition)
9 —Plato, Republic, II
10—Plato, Republic, III
11—Plato, Republic, IV
Science: Logio (Mimeographed)
Humanities: Plato, Ion (mimeographed)
Winter Quarter
1 —Sophocles, Oedipus Rex (Chicago)
2 —Genesis and St. John
3 —Aristtle (384—322 B. C.) Ethics, I (Introduction to Aristotle, Modern Library)
4 —Aristotle, Ethics, II
5 —Aristotle, Ethics, III
6 —Aristotle, Ethics, IV
7 —Aristotle, Ethics, V Oresteia (Chicago)
8 —Aeschylus (525—456 B. C.)
9 —Aeschylus, Oresteia
10—Machiavelli (1499—1527) The Prince (New American Library, Mentor)
11—Machiavelli, The Prince
Science: Euclid (ca. 323—283 B. C.) Elements of Geometry (Dover, Volume 10
Humanities: Aristotle, Poetics
Spring Quarter
1 —Shakespeare (1564—1616) The Tempest (Ginn)
2 —Hobbes (1588—1679) Leviathan, I (Everyman, American Edition)
3 —Hobbes, Leviathan, II
4 —Hobbes, Leviathan, II
5 —Hobbes, Leviathan, II
6 —Shakespeare, Hamlet (Ginn)
7 —Shakespeare, Hamlet
8 —Mill (1806—1873) Utilitarianism (Library of Liberal Arts)
9 —Mill, Utilitarianism
10—Dostoyevsky (1821—1881) Grime and Punishment (Avon)
11—Dostoyevsky, Crime and Punishment
Science: Lobachevski (1742—1856) Theory of Parallels (Open Court)
Humanities: Lyric Poems and Short Stories

Revised Summer, 1956
Second Year Reading List
Autumn Quarter
1—Cervantes (1547—1616) Don Quixote (Penguin)
2—Cervantes, Don Quixote
3—Plato, Republic, I—II (Everyman)
4—Plato, Republic, III—IV
5—Plato, Republic, V
6—Plato, Republic, VI
7—Plato, Republic, VII
8—Plato, Republic, VIII—IX
9—Plato, Republic, X
10—Aeschylus, Prometheus Bound (Chicago)
11—Homer (ca. 850 B. C.) The Iliad, I—VIII (Chicago)
Science: Aristotle, Physics II (Introduction to Aristotle, Modern Library)
Humanities; Painting, Sculpture, Architecture
Winter Quarter
1—Homer, The Iliad, IX—XVI
2—Homer, The Lliad, XVII—XXIV
3—Aristotle, Ethics, I—V
4—Aristotle, Ethics, VI
5—Aristotle, Ethics, VII
6—Aristotle, Ethics, VIII
7—Aristotle, Ethics, X
8—Aristotle, Ethics, X
9—Augustine (396—430) Confessions, I—V (Sheed and Ward)
10—Augustine, Confessions, VI—X
11—Voltaire (1694—1778) Candide (Ponguin)
Science : Aristotle, Physics II
Humanities : Music
Spring Quarter
1—Shakespeare, King Lear (Ginn)
2—Shakespeare, King Lear
3—Locce (1632—1704) Second Treatise on Goverment, I—XI (Liberal Arts)
4—Locke, Second Treatise on Goverment, XII—XIX
5—Milton (1632—1674) Paradise Kost, I—VI (Rinehart)
6—Milton, Paradise Lost, VII—XIX
7—Rousseau (1712—1778) Social Contract, I—II (Liberal Arts)
8—Rousseau, Social Contract, III—IV
9—The Federalist, 1—10, 14—18, 23 (Moders Library)
10—The Federalist, 30—31, 37—41, 47—51, 85
11—Conrad (1857—1924) Heart of Darkness (Mentor)
Science : Galileo (1864—1642) Dialogue on Two New Sciences
Humanities : Lessing (1729—1781) Lackoon, sections 1—4, 12—16 (Everyman)
Revised Summer 1956
Third Year Reading List
Autumn Quarter
1—Dostoyevsky, The Brothers Kєramazov (Moder Library)
2—Dostoyevsky, The Brothers Karamazov
3—Plato, Symposium (Philosophy of Plato, Modern Library)
4—Plato, Symposium
5—Plato, Symposium
6—Homer, Odyssey (Oxford)
7—Homer, Odyssey
8—Plato, Laws, I (Loed, Volume I)
9—Plato, Laws, II
10—Plato, Laws, III
11—Plato, Laws, IV
Science : Newton (1642—1727) Principia (Great Books)
Humanities : Aristotle, Rhetoric (Modern Library)
Winter Quarter
1—Plutarch (ca. 46—120 A. D.) Lycurgus, Numa (Lives, Regnery)
2—Plutarch, Caesar, Alexander
3—Gibbon (1737—1794) The Decline and Fall of th Roman Empire, I—VII
4—Gibbon, The Decline and Fall of the Romane Empire (Modern Library)
5—Gibbon, The Decline and Fall of the Roman Empire
6—Dante, (1265—1321) Inferno (Penguin)
7—Dante, Inferno
8—St. Thomas Aquinas, Treatise on Law (Regnery)
9—St. Thomas Aquinas, Treatise on Law
10—Chaucer (d. ca. 1400) Canterbury Tales (Penguin)
11—Chaucer, Canterbury Tales
Science : Einstein (1879—1955) Relativity (Grown)
Humanities : Thucydides, Peloponnesion War (selections)
Spring Quarter
1—Melville (1819—1891) Moby-Dick (Modern Library)
2—Melville, Moby-Dick
3—Lucretius (94—55 B. C.) On the Nature of Things

4—Lucretius, On the Nature of Things
5—Lucretius, On the Nature of Things
6—Spinozs (1632—1677) Political Tractate (Dover, Volumell)
7—Spinoza, Political Tractate
8—Kant (1724—1804) Fundamental Principles of the Metaphysic of Morals
9—Kant, Fundamental Principles of the Metaphysic of Morals
10—Kant, Fundamental Principles of the Mataphysic of Morals
11—Joyce (1882—1941) Portrait of the Artist (New American Librarf)
Science : Einstein, Relativity
Humanities : Nietzeche (1844—1900) Uses and Abuses of History (Liberal Arts)

Revised Summer 1956
Fourth Year Reading List
Autumn Quarter
1—Tolstoy (1823—1910) War and Peace (Modern Library)
2—Tolstoy, War and Peace
3—Herodotus (fl. ca. 450 B. C.) History (Modern Library)
4—Herodotus, History
5—Plato, Gorgias
6—Platn, Gorgias
7—Plato, Gorgias
8—Aristotle, Politics, I (Modern Library)
9—Aristotle, Politics, II, III
10—Aristotle, Politics, IV
11—Aristotle, Politics, V
Science : Descartes (1596—1650) Discourse on Method (Everyman, American Ed)
Humanities : Plato, Meno (Liberal Arts)

Winter Quarter
1—Aristotle, Politics, VI
2—Aristotle, Politics, VII, VIII
3—Hume (1711—1776) Principles of Morals (Open Court)
4—Hume, Principles of Morals
5—Hume, Principles of Morals
6—Swift (1667—1745) Gulliver's Travels (Everyman)
7—Swift, Gulliver's Travels
8—Adam Smith (1723—1790) The Wealth of Nations, 1, 1—9 (Modern Library)
9—Adam Smith, The Wealth of Nation, IV, I, pp. 397—418; 3, pp. 440—446; 8, pp. 607—627
10—Marx (1818—1883) Capital, 1, 1—3, IV, VI, VII (Modern Library)
11—Marx, Capital, XIV, XXIV, I, XXV, 3
Science : Aristotle, Physics, 11, 1—2; Metaphysics 11, 6, i; XI, 7; XII, I (mimeographed)
Humanities: Descartes, Meditations, I and II (Everyman, American Edition)

Spring Quarter
1—Shakespeare, Coriolanus (Cambridge)
2—Leibniz (1640—1716) Monadology (Scribner, s)
3—J. W. Goethe (1749—1832) Faust, I (Modern Library)
4—J. W. Goethe, Faust, II
5—Dewey (1859—1952) Experience and Education (Mac Millan)
6—Freud, (1856—1939) Introductory Lectures on Fsychoanalysis, I (Perma a Giant)
7—Freud, Introductory Lectures on Psychoanalysis, II
8—Freud, Introductory Lectures on Psychoanalysis, III
9—Plato, Phaedo
10—Plato, Phaedo
11—Plato, Phaedo
Science: Bergson (1859—1941) Greative Evolution (selections)
Humanities: Kant, Critique of Pure Reason, Introduction to the Second Edition (mimeographed)

Directors;
President, The Great Books Foundation
Gordon G. Dupee
Chairman of the Board
Wilbur C. Munnecke: Vice President & Business Manager Chicago Sun-Times
Chairman of the Executive Committee
Lynn A. Williams, Jr. Attorney
Mortimer J. Adler Director, Institure for Philosophical Reserarch
Mrs. Cecil Barnes
Thomas H. Beacom Vice President, The First National Bank of Chicago
Garret L. Bergen Vice President, Marshall Field and Company
Warren M. Cannon McKinsey & Company
Rev. John J. Cavanauch University of Notre Dame

Norman Cousins Editor, The Saturdey Review
Richard E. Crouch Director, London Public Library and Art Museum, London, Ontario
Clifton Fadiman
Matthew P. Gaffney
Pierre F. Goodrich Attorney, Goodrich, Campbell and Warren
Daggett Harvey Vice President, Fred Harvey
Cyril O. Houle Professor of Education, The University of Chicage
John Hall Jacobs Librarian, New Orleans Public Library
Meyer Kestnbaum President, Hart Schaffner & Marx
Roger J. Kiley Judge, Appellate Court of Illinois
Harold F. Linder President, General American Investors Co., Inc.
Harold R. McKinnon Attorney, Bronson, Bronson & McKinnon
L. Quincy Mumford Librarian, Library of Congress
Elizabeth H. Pyepcke
John S. Richards Librarian, Seattle Public Library
George Seaton Assistant Vice President, Illinois Bell Telephone Company
Renslow P. Sherer Chairman, Board of Directors, Sherer-Gillett Company
Helen Huguenor Smith Director, Survey of Adult Education, American Library Association
Hermon Dunlap Smith President, Marsh & MoLennan
Charles F. Strubbe, Jr. Joswick, Ormsby, & Strubbe
Mrs. Lillian C. Van Mater Director, The Hempatead Public Library. Hempstead, New York
George H. Watking Vice President in Charge of Development, The University of Chicago
Harriett W. Welling
Raymond H. Wittcoff Vice President, Caradine Hat Company

# 本校生徒の読書興味傾向の調査について *

栃木県立烏山高等学校
荒　井　積 **

## 一. 読書指導と文化性

人間形成と青年期における文化性

人間が生活するということは絶えず何らかの価値を追求する動機が内面に形成されて，その実現が追求されることであると言われているが，青年とくに高等学校生徒においては，生活のあらゆる面の価値意識が急激に発達して「高い価値—さらに高度の価値へ！」と邁進し続けている。そしてかれらの向上心は強い批判的精神の持ち主となって，遂に「主観的生活態度より客観的生活態度へ」「自己中心の人生観から社会中心の人生観へ」の意識し成長していくものである。

言葉をかえて言えば，未熟な生活経験を基盤として理論的に人生を考えようとしているが，絶えず現実の波に押し寄せられて，動揺している葦のようである。そのゆらぐ葦を支えているものは，各自の浅い思想と体験であろう。つまり経験が貧弱であれば，それだけ「問題」を感ずることも少ないのである。

私たちが教育の営みの中において，生徒の積極的な探究心は決して教師の課題で発見されるのでなくて，自分自身の問題について思考するときにあるということを，よく経験するものである。

自己自身を知るということは自己の人生観確立の基盤を形成するものであってみれば，自分の人生観確立のためにも，生徒が書を読むことそれ自身を重くみなければならない。

したがって，自己の活発なる学習の活動の展開のためにも，人生観の確立のためにも，読書指導の意義はじゅうぶんに認められるであろう。

私はその点に留意しつつ生徒の読書傾向の類型的なものを心理的な面から述べてみたいと思う。

## 二. 読書指導のための実態調査

1. 本校生徒の読書傾向を把握して，読書の適切な指導を実施する意図から，過去三カ年における「帯出カード」に現われた読書傾向の調査を試みたのである。

* A survey on reading interest in a high school
** By Tsumoru Arai
(Karasuyama H. S., Tochigi-ken)

もちろん調査の方法は使用済の帯出カードを集めて統計観察する記録法にもとづくものである。

それを分類別にあげると左記の通りである。

念の為に付け加えたいことは，本校は男子生徒数約600人，12学級（普通科，商業科）である。調査対象は昭和28，29，30年の3カ年を基準としたものである。

過去3カ年における帯出カードの読書傾向

| 分　類 | 100 | 200 | 300 | 400 | 700 | 800 | 900 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 帯出者 | 43 | 481 | 179 | 1,885 | 65 | 449 | 2,565 | 5,667 |
| % | 0.75 | 8.4 | 3.2 | 3.3 | 1.1 | 7.8 | 46 | 100 |

2．　分類別読書傾向

分類ごとの読書量は各学年を通じて文学が46%で最高位を占めているということである。

これは全国的な共通な現象であって，何らの新奇的なものは求め得べくもない。つぎに自然科学が文学について多く読まれている。

なぜ文学についてそのように関心と興味を呼びおこしているのだろうかということを，読後感や発表等を中心にして分析してみたい。

小説は文学の中で最も一般的なものであり，人々に最も親しまれているのである。それだけ多読もされ，濫読もされてきたのである。

文学に心を向けるわけは自然と正しい生き方を，また真実を追求するものにとっては，よき伴侶として教えてくれる。また空想の世界に逍遙したり，同情愛情等も満足させてくれるものであると一致した意見を述べている。

小説をじっくりと考え，読みながら考えることによって人間は「人生はいかに生くべきか」の問題解決をしっかりつかみ，狭い経験を豊かにしていき，積極的な自己形成をしようとしている姿である。

## 三．読書調査にあらわれた問題意識

私は高校生徒，もちろん青年の範疇に入るべきものであるが，青年として生徒の道徳意識を中心として，それがどう文学に発展しているかということについて考えてみたい。

高校生徒の精神的発達を見ると，かれらには単純な論理は通用しない。もちろん人生観は確立されず，思想的に煩悶懐疑しつつも，自己反省的な分化した意識の姿に進みつつあるということである。

人生観の形成は自分の経験だけによって，作られるものではない。自分を反省することにより，批判し分析し総合することによって，現実の自己を過去の延長として，また将来への希望を可能性として考えることに，発展的な意味を持ってくるものである。

かれらが好む文学の世界では，ハッピーエンドに終るものは浅薄なように感ずるのである。

高い文学とは人生の矛盾に生きぬくもの，自己犠牲をして他を幸福に導くもの，不倫の恋の成就の悲劇こそ高い文学であると考えたりするものであるが，生徒は文学にあらわれた人間の心理的諸想を知って正しい生き方を知ろうとしている恋を見逃すことができない。

### (一)　文学作品への志向について

生徒の文学作品に対する志向について，私は項目的にあげて説明したい。そしてその類型的なものをあげる前に生徒は高学年に進むにつれて除々に「アメリカ」文学よりも寧ろ「フランス」文学，さらに「ロシヤ」「ドイツ」文学に，——ドイツ文学のロマン・ロランの「ジャン・クリストフ」「魅せられた魂」などが多く読まれていることなど注意すべきものがある。その背後にはそれらは多く教材に含まれていることも争われない事実である。

1．心理描写に関心を持つ

生徒は青年期の傾向として権威的な存在を否定して，人間性に理解し共鳴するようになる。

したがって教師に対する信頼も教師の教育的情熱如何にかかっている。それなくしては，当然批判の矢を向けられるであろう。そしてたちまちに教師の権威存在は否定されるであろう。

青年の読書は青年の心理要求によって行われることが多い。それは青年たちに，現実にない空想に答えてくれるものであるからである。

われわれ日本人は流行歌にしても寂寥を覚えるものに共感を覚えるのであるが，——それに通じるように，小説でも悲劇的なものに何となく魅惑されがちであるが，青年たちにその情緒がめばえているということを感想文や批評を通して感ぜられるものである。かれらにとっては人物の心理描写が中心となって興味を覚えているということができる。人の心理の動きによって人生の生き方を学ぼうとしている姿である。たとえば，

(1)　時代風俗の中に人間性を追求し，知識人の立場から明かるいユーモアは彼等の心身の発達機能に即応し，かれらを一定のわくづけしようとする生活の秩序からの解放という点からも，また逃避的な一面も見られるのである。——いわば軽い意味の「気分転換」である。

緊張の中に新しい喜びを発見し，あすの学習への発展が期待されるのである。それらの志向はむしろ積極的な意欲として容認すべきものであろう。愛読書の「ベスト・テン」全集物等に発見できる，漱石の「坊っちゃ

ん」「我輩は猫である」漱石全集（全集で第2位）の愛読率を考えてみるとわかる。一時問題とされた「太陽の季節」もかれらの心理に一脈通ずるものが存在していることが大なる影響を与えている。

4月～8月までの学年別愛読書ベストテン

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2年生 | 1 太陽の季節 18人 | 2 若い人 15 | 3 坊っちゃん 15 | 4 三四郎 9 | 5 赤と黒 9 | 6 破戒 9 | 7 芥川全集 9 | 7 野菊の墓 9 | 7 漱石全集 9 | 10 郷愁 8 | 調査人員 132人 |
| 3年生 | 1 三四郎 18人 | 2 風立ちぬ 15 | 3 草枕 12 | 3 太宰全集 12 | 3 太陽の季節 12 | 3 破戒 12 | 3 芥川竜之介 12 | 3 風と共にりぬ去 12 | 9 坊っちゃん 8 | 10 暗夜行路 7 | 調査人員 156人 |

(2) 生きるためにこえなくてはならぬ問題に真正面から，ぶっつかって行き解決する作品，または主人公の異常な不幸の運命をつきぬけて人間完成へ努力するもの。

青年の行為そのものが道徳的矛盾に悩まされている。強固な決心を立てて学習計画にむかっても，決心はたちまち瓦解することが多い。これも青年の心理の特徴でもある。また青年期そのものは，主観的生活態度であってみれば，現実を懐疑したり，否定したりして悩みぬくものであるが，かれらをしてより正しく現実の問題の処理ができるように導えてくれるもの――困苦にめげず頑張りぬく意志の力を作るのも，この種の読物を読むことによって与えられるのである。「路傍の石」，「次郎物語」は好んで読まれている。藤村の「破戒」――人生の諸々の苦悩に粘り強くたえつつ生きることの意義を真剣に求めていった真摯な態度に共鳴したと述べているものもある。

「路傍の石」が文学中第3位の読書傾向を示している事実がそれを物語っている。

(3) 自由主義に基づく正義観に立脚していて，適度の上に「エロテイシズム」がある作品。

生徒の青年時代を一名「疾風怒濤の時期」と呼ぶものもある。その時代は情熱も強烈である反面調和を欠く嫌いがある。それにさらにくわえて「性意識への覚醒」がある。

それゆえ人間的な愛の心が浮かんでくる。そこで自分の情感を幾分なりとも満たしてくれる作品をあさる傾向を持っている。

「石中先生行状記」「若い人」等，石川達三，石坂洋次郎の著書が好感を持って迎えられていることもそれを物語るひとつの例である。

(4) 現実批評の作品と併行して，一連のロマンチシズムを持った作品。

たとえば「坊っちゃん」「草枕」「我輩は猫である」

(5) 歴史的なおもしろい作品。

たとえば「新平家物語」「宮本武蔵」などあげられる。平易にして変化に富んだ叙述も感銘を与えているようである。

(6) 幸福感が自然ににじみ出した作品

2．自我意識の深化を加えつつある。

自我意識の昂揚と知的発達とは人生の問題，運命の問題など考えさせられるものである。自然の美に心をうたれて創作意識を旺盛にしたり，精神的不安は虚無などを感じさせられたり，人間関係による感化の強さはいまさら言うべくもないが，自我意識の深化を加える作品を読み始めていることは着目すべきものがある。

たとえばつぎのような作品をみることができる。

(1) 自己の理想を小説とした思索の文学作品

「竹沢先生という人」――その根底に人間としての最善をつくして後，終局的に天命にまかせるといった儒教的精神が強く印象づけている点。他を責める前に自分を責める心（態度）――

「死以外に解決はなかった」かと自問自答するような態度に成長しつづけている生徒が多くなってきているのも確かに精神の成長を認めることができる。

(2) 人生に対する悲哀と無常の意識

「愛と認識との出発」「三太郎日記」「親鸞」等は数が多くないが上学年に読まれてきている。哲学のような思索的なもの，生活を深化するものに目を向けてきている。

著者（倉田百三）の言葉のごとく「今日なおこの一冊の書物は青春の伴侶として数え切れない多くの若い人々の感じ易い精神に深い示唆を与えるだろう」と言われる通り，注意を引いている精神的な糧の書物である。

(3) 苦悩の中にもヒュウマニズムのにじみ出ている作品。

林芙美子の「泣虫小僧」などはこの中に属すべきものである。

3．表現形式が心をとらえる

(1) 漢語制限と用語法と表記法を実践している小説，たとえば山本有三などは読書になんらの抵抗を感じないが，明治文学においては高校生徒にも相当の抵抗を感じさせている。

泉鏡花の「高野聖」，蘆花の「自然と人生」においても消化に苦労しているのが現状である。文芸作品に対して用語表記について，ここに問題を提起したいと考える。

(2) 短篇または新奇な内容のものを求めている。

もちろん小説の特質にもよるが短篇は内容も優れ，消化力も容易であり時間的にも生徒の好みが発見される。それと併行して新奇なもの――一風斬新的な小説は生徒の心をとらえている。本校の生徒は統計的にみても芥川竜之介の作品を読む傾向にある。

全集もののトップはもちろん芥川全集である。

4 人生の案内となるものを求めている。

興味本位の読書から教養中心の読書移行をつづけていること。

5 純文学を読み始めている。

### (二) 読書量に連なる問題意識

本校生徒の読書量は全国平均にくらべてまだ低い結果を示している。その指導をどうすべきかという問題がある。その所在の究明も容易に解決出来ない問題がある。このためにはつぎのようなことが考えられる。

1．読書計画の立案と実施
2．読書能力の確認
3．教科指導と読書指導（偏向読書の是正も含む）
4．司書教諭を中心とした読書指導

### (三) 教科学習と読書指導

(1) 私は生徒に読書記録によって指導をすすめてみた。「私の読書歴」――「読書個票」を持たして読書の継続的な習慣化を念願しつつ生活の一部分とするよう努力をつづけた。

読書量の増加は個票を持たせて意識的に読書させることが最初の段階では重要であると考えられる。

(2) 課題読書をさせる

「サークル」を作って課題読書をさせることに研究をすすめているが，現在は発表段階までに到達していないことを断って置く。

### (四) 結　び

とにかく生徒は自分の人生観，世界観は確立されず，煩悶懐疑に悩み，他律と自律的な現象を呈しているといえるだろう。

一体人間が自分で思考し，自分で推理することによって行動するということは，人間のもつ大きな特権である。この特権を使わせることは教育の目標のひとつでなければならない。「行為する前に思考する人間」の育成にも読書指導の重要性が存在する。

読書指導の基礎となるものは読書調査である。私は最後にこの時代は人間としての覚醒の期であると言われている――それは読書によって導かれることが至大なものがあるとつけ加えたいものである。読書指導のための読書調査がつねにくり返えされねばならないということを再確認するものである。

## 付　表　読書興味傾向の調査

一．本校読書環境

1．父兄の産業別概要

| 産業 | 農業 | 公務 | 小売業 | サービス | 製造 | 運輸 | 建設 | 林業 | 漁業 | 不動産 | 無業 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人員 | 300 | 101 | 75 | 31 | 21 | 11 | 6 | 5 | 1 | 1 | 9 | 47 |
| % | 49 | 16.7 | 12.3 | 5.1 | 2.4 | 1.8 | 1 | 0.8 | 0.2 | 0.2 | 1.5 | 7.3 |

2．蔵　書　数

| 分類 | 000 | 100 | 200 | 300 | 400 | 500 | 600 | 700 | 800 | 900 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数 | 266 | 396 | 579 | 639 | 761 | 60 | 119 | 241 | 439 | 1536 | 5030 |
| % | 5.3 | 7.9 | 11.5 | 12.7 | 15.1 | 1.2 | 2.3 | 4.8 | 8.7 | 30.5 | 100 |

（昭31・4・1・現在）

現在蔵書冊数　5620冊

二．本校における生徒の読書傾向の実態誰査

1．過去3カ年における帯出カード（使用済）の読書傾向　（昭28～30）

A

| 分類 | 書名 | 著者名 | 借用人数 | 合計冊数(%) |
|---|---|---|---|---|
| 100 | 三太郎日記 | 阿部次郎 | 43 | 43人(0.75%) |
| 200 | 世界史研究 | 吉岡力 | 112 | 481人(8.4%) |
| | 世界史 | 秀村欣二 | 91 | |
| | 世界史 | 木村正雄 | 86 | |
| | その他 | —— | —— | |
| | 日本史研究 | 芳賀幸四郎 | 46 | |
| | 日本史の研究 | 森末義彰 | 46 | |
| | その他 | —— | —— | |
| 800 | 社会科概説 | 戸田貞三 | 46 | 179人(3.2%) |
| | 一般社会新研究 | 木村茂雄 | 45 | |
| | 一般社会の研究 | 川又昇 | 44 | |
| | その他 | —— | —— | |
| | 解析Iの徹底的研究 | 豊田浩七 | 173 | |

| 分類 | 書名 | 著者名 | 借用人数 | 合計冊数(%) |
|---|---|---|---|---|
| 400 | 解析Iの研究 | 森繁雄 | 91 | 1885人(33%) |
| | 解析粋I | 下田虎美 | 91 | |
| | 新制の解析I | 尾崎繁雄 | 89 | |
| | 解析精義 | 岩切晴二 | 46 | |
| | 解析読本I | 稲垣武 | 47 | |
| | 重要解析II問題集 | 遠山啓 | 47 | |
| | 解析II根底500 | 笹部貞市郎 | 42 | |
| | 解析粋II | 下田虎美 | 41 | |
| | 化学の研究 | 林太郎 | 155 | |
| | 化学精義 | 竹村保次 | 53 | |
| | 化学通論 | 飯島俊一郎 | 45 | |
| | 化学精義 | 白井俊明 | 45 | |
| | 有機化学通論 | 石川淳一 | 45 | |
| | 物理の研究 | 金原寿郎 | 46 | |
| | 生物学 | 入来重盛 | 119 | |
| | 生物講義 | 高岡実 | 46 | |
| | 新学生の生物 | 尾畑孝次 | 46 | |
| 700 | 柔道 | 会田彦一 | 65 | 65人(1.1%) |
| 800 | 国文解釈法 | 塚本哲三 | 46 | 449人(7.8%) |
| | 現代文の研究 | 吉田精一 | 44 | |
| | 国文の研究 | 〃 | 40 | |
| | 現代文解釈法 | 塚本哲三 | 41 | |
| | 英文解釈 | 小野圭次郎 | 50 | |
| | 初歩の英文法 | 〃 | 43 | |
| | 英作文の基本文型 | 岩田一男 | 42 | |
| | 新英作文 | 石橋幸太郎 | 38 | |
| | 英語の総合研究 | 赤尾好夫 | 23 | |
| | その他 | —— | —— | |
| | 宮本武蔵 | 吉川英治 | 303 | |
| | 鞍馬天狗 | 大仏次郎 | 175 | |
| | 路傍の石 | 山本有三 | 46 | |

| 分類 | 書名 | 著者名 | 借用人数 | 合計冊数(%) |
|---|---|---|---|---|
| 900 | 女の一生 | モーパッサン | 45 | 2,565人(46%) |
| | 赤と黒 | スタンダール | 45 | |
| | 馬鹿一 | 武者小路実篤 | 46 | |
| | 本日休診 | 井伏鱒二 | 45 | |
| | 復活 | トルストイ | 44 | |
| | 暗夜行路 | 志賀直哉 | 43 | |
| | 出家とその弟子 | 倉田百三 | 43 | |
| | 若い人 | 石坂洋次郎 | 44 | |
| | 泣虫小僧 | 林芙美子 | 44 | |
| | 石中先生行状記 | 石坂洋次郎 | 43 | |
| | 帰郷 | 大仏次郎 | 43 | |
| | 梅里先生行状記 | 吉川英治 | 40 | |
| | 生きるため | 阿部次郎 | 41 | |
| | 芥川竜之介全集 | 芥川竜之介 | 252 | |
| | 漱石全集 | 夏目漱石 | 177 | |
| | 現代日本文学全集(菊池寛) | 菊池寛 | 50 | |
| | 島崎藤村全集 | 島崎藤村 | 46 | |
| | 現代日本文学全集(大仏次郎) | 大仏次郎 | 46 | |
| | 現代日本文学全集(坪内逍遙) | 坪内逍遙 | 45 | |
| | 現代日本文学全集(武者小路) | 武者小路実篤 | 44 | |
| | 現代日本文学全集(豊島与志雄) | 豊島与志雄 | 44 | |
| | 現代日本文学全集(志賀直哉) | 志賀直哉 | 43 | |
| | 現代日本文学全集(谷崎潤一郎) | 谷崎潤一郎 | 42 | |
| | 現代日本文学全集(田山花袋) | 田山花袋 | 42 | |
| | 現代日本小説大系(川端康成) | 川端康成 | 41 | |
| | 風と共に去りぬ | 大久保康雄訳 | 41 | |
| | 大地 | パールバック | 46 | |
| | 郷愁 | ヘルマン・ヘッセ | 43 | |

B．過去3カ年帯出カード借用者調

| 分類(%) | 学年 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 100 (4.75) | 3人 | 23人 | 17人 | 43人 |
| 200 (8.4) | 43 | 329 | 109 | 481 |
| 300 (3.2) | 105 | 29 | 45 | 179 |
| 400 (3.3) | 502 | 816 | 567 | 1,885 |
| 700 (1.1) | 15 | 43 | 7 | 65 |
| 800 (7.8) | 131 | 127 | 191 | 449 |
| 900 (46) | 770 | 1,127 | 671 | 2,565 |
| 計 | | | | 5,667 |

(昭28～30)

C．本校生徒の読書傾向の一端について

(1) 文学書は46%で第1位である。高校1年から3年に進むにつれて恋愛小説から純文学に進んでいっている。つぎに自然科学33%で第2位。社会科学がついで多く読まれている。

(2) 自我の内面的なものを読んできている。

全集物をみると芥川全集252人で第1位，漱石全集第2位，菊池寛，藤村の順であるが，この作品は国語教材に出ていることで，その影響を見逃すことができない。

閲覧率は%僅少であるが宗教，哲学のような思索的なもの，生活を深化するものに目を向けてきている。

(3) 読書率は2年生が第1位，3年これについでいるが，それは3年生は受験準備に忙殺されている結果から生じたものである。

(4) 映画の影響によって題材とされた小説を読むものが多い。

2．図書館利用（閲覧統計）

| 学年 | 年度 | 館外貸出統計 | 学年 | 年度 | 館外貸出統計 | 学年 | 年度 | 館外貸出統計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一年 | 昭28 | 1695(21.8%) | 二年 | 昭28 | 3283(42.3%) | 三年 | 昭28 | 2712(35.9%) |
| | 29 | 1573(20.2%) | | 29 | 2622(36.7%) | | 29 | 2955(41.3%) |
| | 30 | 1813(33.2%) | | 30 | 2002(36.6%) | | 30 | 1652(30.2%) |

(昭28～30)

# 読書実態の推移 (読書世論調査の九年間)

## II

≪昭和二十四年≫

**この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの**

＜男＞ (年齢別)

| 順位 | 書籍名 | 計 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 細雪 | 66 | 34 | 15 | 17 |
| 2 | この子を残して | 65 | 27 | 25 | 13 |
| 3 | 宮本武蔵 | 48 | 25 | 14 | 9 |
| 4 | 長崎の鐘 | 45 | 15 | 15 | 15 |
| 5 | 風と共に去りぬ | 41 | 24 | 10 | 7 |
| 6 | 親鸞 | 31 | 11 | 10 | 10 |
| 7 | 平和の発見 | 26 | 5 | 4 | 17 |
| 8 | 太閤記 | 21 | 7 | 7 | 7 |
| 9 | 共産主義批判の常識 | 20 | 7 | 8 | 5 |
| 10 | 愛情はふる星のごとく | 18 | 9 | 6 | 3 |

＜女＞ (年齢別)

| 順位 | 書籍名 | 計 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | この子を残して | 118 | 67 | 26 | 25 |
| 2 | 細雪 | 63 | 41 | 5 | 17 |
| 3 | 風と共に去りぬ | 45 | 33 | 4 | 8 |
| 4 | 流れる星は生きている | 40 | 22 | 13 | 5 |
| 5 | 長崎の鐘 | 29 | 11 | 7 | 11 |
| 6 | 女の一生 (モーパッサン) | 23 | 19 | 1 | 3 |
| 7 | 宮本武蔵 | 21 | 13 | 5 | 3 |
| 8 | 親鸞 | 19 | 8 | 4 | 7 |
| 9 | 愛情はふる星のごとく | 15 | 11 | 2 | 2 |
| 10 | キュリー夫人伝 | 14 | 10 | 3 | 1 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 斜　陽 | 17 | 12 | 4 | 1 |
| 12 | 石中先生行状記 | 15 | 7 | 4 | 4 |
| 13 | 三 国 志 | 14 | 4 | 4 | 6 |
| 14 | 滞日十年 | 13 | 1 | 6 | 6 |
| 15 | イムパール | 12 | 5 | 4 | 3 |
| 16 | 第二次大戦回顧録 | 11 | 3 | 4 | 4 |
| 〃 | 青い山脈 | 11 | 9 | 1 | 1 |
| 〃 | 人間失格 | 11 | 9 | 1 | 1 |
| 17 | 流れる星は生きている | 10 | 5 | 2 | 2 |
| 18 | 哲学入門 (田辺) | 9 | 3 | 2 | 4 |
| 18 | 自 叙 伝 (河上) | 9 | 5 | 3 | 1 |
| 19 | 小説天皇 | 8 | 3 | 4 | 1 |
| 〃 | 罪 と 罰 | 8 | 5 | 2 | 1 |
| 〃 | ヒロシマ | 8 | 4 | 3 | 1 |
| 〃 | 破　戒 | 8 | 2 | 4 | 2 |
| 20 | 軍艦大和 | 7 | — | 2 | 5 |
| 〃 | 高山右近 | 7 | 2 | 2 | 3 |
| 〃 | 戦争と平和 | 7 | 7 | — | — |
| 〃 | 播州平野 | 7 | 2 | 2 | 3 |
| 〃 | 生きゆく道 | 7 | 3 | 2 | 2 |
| 〃 | 女の一生 (モーパッサン) | 7 | 6 | 1 | — |
| 〃 | イヤリング | 7 | 5 | 1 | 1 |
| 〃 | 赤 と 黒 | 7 | 3 | 3 | 1 |
| 21 | 大　地 | 6 | 3 | 1 | 2 |
| 〃 | キュリー夫人伝 | 6 | 2 | 4 | — |
| 21 | 復　活 | 6 | 2 | 2 | 2 |
| 22 | 望みなきにあらず | 5 | 2 | 2 | 1 |
| 11 | 大　地 | 13 | 9 | 2 | 2 |
| 〃 | 平和の発見 | 13 | 4 | 3 | 6 |
| 〃 | ロザリオの鎖 | 13 | 6 | 4 | 3 |
| 〃 | 斜　陽 | 13 | 10 | 3 | 0 |
| 12 | 母 | 11 | 8 | 2 | 1 |
| 〃 | 青い山脈 | 11 | 8 | 2 | 1 |
| 〃 | 幸福の限界 | 11 | 7 | 1 | 3 |
| 13 | 凱 旋 門 | 10 | 6 | 2 | 2 |
| 〃 | 太 閤 記 | 10 | 5 | 0 | 5 |
| 〃 | 小説天皇 | 10 | 3 | 1 | 6 |
| 14 | イヤリング | 9 | 4 | 3 | 2 |
| 〃 | 石中先生行状記 | 9 | 6 | 3 | 0 |
| 15 | 真実一路 | 8 | 6 | 2 | 0 |
| 16 | 花咲く丘 | 7 | 4 | 3 | 0 |
| 〃 | 愛と認識との出発 | 7 | 6 | 1 | 0 |
| 〃 | 狭き門 | 7 | 4 | 2 | 1 |
| 17 | アンナ・カレニナ | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 〃 | 復　活 | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 〃 | 破　戒 | 6 | 1 | 1 | 4 |
| 〃 | 伸　子 | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 〃 | 波 | 6 | 5 | 1 | 0 |
| 〃 | 出家とその弟子 | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 〃 | 三 国 志 | 6 | 4 | 1 | 1 |
| 〃 | 漱石全集 | 6 | 4 | 1 | 1 |
| 〃 | 罪 と 罰 | 6 | 5 | 1 | 1 |
| 17 | 若きウェルテルの悩み | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 18 | はるかなる山河に | 5 | 4 | 1 | 0 |
| 〃 | ヒロシマ | 5 | 0 | 4 | 1 |
| 〃 | こ こ ろ | 5 | 4 | 1 | 0 |
| 〃 | 戦争と平和 | 5 | 4 | 1 | 0 |

≪昭和二十五年≫

**この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの**

＜ 男 ＞ (年齢別)

| 順位 | 書 籍 名 | 計 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | きけわだつみのこえ | 64 | 35 | 20 | 9 |
| 2 | 宮本武蔵 | 55 | 25 | 14 | 16 |
| 3 | 細　雪 | 53 | 26 | 11 | 16 |
| 4 | 太 閤 記 | 46 | 11 | 11 | 24 |
| 5 | 潜行三千里 | 43 | 13 | 14 | 16 |
| 6 | 風と共に去りぬ | 34 | 22 | 10 | 2 |
| 7 | 親　鸞 | 29 | 11 | 9 | 9 |
| 8 | この子を残して | 25 | 10 | 6 | 9 |
| 9 | 帰　郷 | 20 | 14 | 3 | 3 |
| 〃 | 裸者と死者 | 20 | 13 | 4 | 3 |
| 10 | 大　地 | 19 | 11 | 4 | 4 |

＜ 女 ＞ (年齢別)

| 順位 | 書 籍 名 | 計 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 細　雪 | 79 | 46 | 16 | 17 |
| 2 | この子を残して | 36 | 16 | 6 | 14 |
| 3 | 風と共に去りぬ | 34 | 20 | 7 | 7 |
| 4 | きけわだつみのこえ | 31 | 22 | 3 | 6 |
| 5 | 女の一生 (モウパッサン) | 22 | 18 | 1 | 3 |
| 6 | 長崎の鐘 | 19 | 8 | 2 | 9 |
| 〃 | キューリー夫人伝 | 19 | 11 | 6 | 2 |
| 7 | 大　地 | 17 | 9 | 4 | 4 |
| 〃 | 流れる星は生きている | 17 | 11 | 6 | 0 |
| 8 | 親　鸞 | 14 | 5 | 5 | 4 |
| 〃 | 平和の発見 | 14 | 7 | 2 | 5 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〃 | 十五対一 | 19 | 9 | 6 | 4 | 9 | 泥にまみれて | 13 | 9 | 4 | 0 |
| 11 | 長崎の鐘 | 18 | 9 | 7 | 2 | 〃 | 帰郷 | 13 | 10 | 1 | 2 |
| 〃 | 三国志 | 18 | 3 | 9 | 6 | 10 | 宮本武蔵 | 12 | 6 | 3 | 3 |
| 12 | 共産主義批判の常識 | 16 | 4 | 6 | 6 | 〃 | 狭き門 | 12 | 11 | 1 | 0 |
| 13 | 流れる星は生きている | 14 | 5 | 4 | 5 | 11 | 復活 | 11 | 7 | 3 | 1 |
| 〃 | ガダルカナル | 14 | 5 | 5 | 4 | 〃 | 若きウェルテルの悩み | 11 | 9 | 0 | 2 |
| 14 | 漱石全集 | 13 | 4 | 5 | 4 | 12 | 真実一路 | 10 | 7 | 1 | 2 |
| 15 | 平和の発見 | 12 | 5 | 0 | 7 | 13 | 愛情はふる星のごとく | 9 | 6 | 1 | 2 |
| 〃 | 明治大正文学全集 | 12 | 6 | 5 | 1 | 〃 | 女の一生（有三） | 9 | 6 | 3 | 0 |
| 〃 | チャタレイ夫人の恋人 | 12 | 6 | 1 | 5 | 14 | 出家とその弟子 | 8 | 5 | 1 | 2 |
| 16 | 戦争と平和 | 10 | 8 | 2 | 0 | 〃 | ロザリオの鎖 | 8 | 5 | 1 | 2 |
| 〃 | 風にそよぐ葦 | 10 | 4 | 3 | 3 | 〃 | 若草物語 | 8 | 5 | 3 | 0 |
| 〃 | 三太郎の日記 | 10 | 6 | 0 | 4 | 〃 | 若き女性のために | 8 | 8 | 0 | 0 |
| 17 | 出家とその弟子 | 9 | 7 | 1 | 1 | 15 | 漱石全集 | 7 | 3 | 1 | 3 |
| 〃 | 善の研究 | 9 | 8 | 0 | 4 | 〃 | 戦争と平和 | 7 | 6 | 0 | 1 |
| 18 | 泥にまみれて | 8 | 7 | 0 | 1 | 〃 | 罪と罰 | 7 | 4 | 0 | 2 |
| 〃 | 人生論（トルストイ） | 8 | 4 | 3 | 1 | 〃 | チボー家の人々 | 7 | 5 | 0 | 2 |
| 〃 | 改良稲作法 | 8 | 0 | 5 | 3 | 〃 | 母（鶴見） | 7 | 7 | 0 | 0 |
| 〃 | 貧乏物語 | 8 | 5 | 3 | 0 | | | | | | |

≪昭和二十六年≫

## この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの

＜男＞（年齢別）

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～24歳 | 25歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 宮本武蔵 | 78 | 20 | 38 | 20 |
| 2 | 少年期 | 59 | 24 | 23 | 12 |
| 3 | 風と共に去りぬ | 56 | 29 | 25 | 2 |
| 4 | 細雪 | 49 | 14 | 26 | 9 |
| 5 | 大地 | 41 | 28 | 11 | 2 |
| 6 | ものの見方について | 39 | 14 | 18 | 7 |
| 7 | 佐々木小次郎 | 36 | 14 | 15 | 7 |
| 8 | 帰郷 | 28 | 6 | 18 | 4 |
| 9 | 太閤記 | 27 | 10 | 8 | 9 |
| 10 | 武蔵野夫人 | 26 | 11 | 12 | 3 |
| 11 | 潜行三千里 | 24 | 8 | 14 | 2 |
| 12 | 親鸞 | 21 | 7 | 9 | 5 |
| 〃 | 二十五時 | 21 | 13 | 5 | 3 |
| 13 | 女の一生(モーパッサン) | 20 | 11 | 8 | 1 |
| 〃 | アンナ・カレニナ | 20 | 13 | 4 | 3 |
| 14 | 風にそよぐ葦 | 17 | 5 | 11 | 1 |
| 〃 | 新・平家物語 | 17 | 6 | 9 | 2 |
| 〃 | 嵐ケ丘 | 17 | 12 | 5 | 0 |
| 15 | 石中先生行状記 | 16 | 6 | 8 | 2 |
| 〃 | チャタレイ夫人の恋人 | 16 | 4 | 11 | 1 |
| 〃 | 山びこ学校 | 16 | 6 | 7 | 3 |
| 16 | 漱石全集 | 15 | 4 | 7 | 4 |

＜女＞（年齢別）

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～24歳 | 25歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 少年期 | 119 | 46 | 42 | 31 |
| 2 | 風と共に去りぬ | 105 | 78 | 22 | 5 |
| 3 | 細雪 | 86 | 33 | 36 | 17 |
| 4 | 武蔵野夫人 | 52 | 20 | 24 | 8 |
| 5 | 女の一生(モーパッサン) | 41 | 34 | 7 | 0 |
| 6 | 源氏物語(谷崎) | 40 | 18 | 13 | 9 |
| 7 | 嵐ケ丘 | 38 | 30 | 8 | 0 |
| 8 | レベッカ | 37 | 31 | 5 | 1 |
| 9 | 大地 | 36 | 17 | 13 | 0 |
| 10 | 帰郷 | 31 | 15 | 14 | 2 |
| 11 | 狭き門 | 29 | 21 | 7 | 1 |
| 12 | この子を残して | 25 | 9 | 8 | 8 |
| 13 | 宮本武蔵 | 24 | 3 | 14 | 7 |
| 14 | 自由学校 | 20 | 7 | 10 | 3 |
| 〃 | アンナ・カレニナ | 20 | 16 | 3 | 1 |
| 〃 | 二十五時 | 20 | 13 | 4 | 3 |
| 15 | 若草物語 | 19 | 14 | 4 | 1 |
| 16 | こころ | 18 | 18 | 0 | 0 |
| 〃 | 復活 | 18 | 16 | 2 | 0 |
| 〃 | 若きウェルテルの悩み | 18 | 16 | 2 | 0 |
| 17 | 放浪記 | 17 | 7 | 9 | 1 |
| 18 | 谷間の百合 | 16 | 13 | 3 | 0 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 〃 | 源氏物語(谷崎) | 15 | 2 | 10 | 3 |
| 17 | 坊っちゃん | 14 | 9 | 2 | 3 |
| 〃 | 自由学校 | 14 | 10 | 1 | 3 |
| 〃 | こころ | 14 | 12 | 2 | 0 |
| 〃 | 若い人 | 14 | 9 | 5 | 0 |
| 18 | 戦争と平和 | 13 | 7 | 2 | 4 |
| 〃 | 三国志 | 13 | 4 | 8 | 1 |
| 19 | 異邦人 | 12 | 4 | 7 | 1 |
| 〃 | 浮雲 | 16 | 10 | 3 | 3 |
| 〃 | 親鸞 | 16 | 5 | 5 | 6 |
| 19 | 赤と黒 | 15 | 9 | 5 | 1 |
| 〃 | 風にそよぐ葦 | 15 | 8 | 3 | 4 |
| 〃 | ノンちゃん雲に乗る | 15 | 4 | 6 | 5 |
| 〃 | 啄木詩集 | 15 | 8 | 6 | 1 |
| 20 | 山びこ学校 | 14 | 4 | 6 | 4 |

≪昭和二十七年≫

## この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの

＜男＞（年齢別）

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 宮本武蔵 | 62 | 41 | 8 | 20 | 20 |
| 2 | 風と共に去りぬ | 61 | 14 | 35 | 9 | 3 |
| 3 | 三等重役 | 56 | 9 | 21 | 16 | 10 |
| 4 | ニッポン日記 | 55 | 1 | 11 | 14 | 9 |
| 5 | ぶらりひょうたん | 31 | 2 | 20 | 5 | 4 |
| 6 | 人間の歴史 | 28 | 2 | 16 | 5 | 5 |
| 7 | 新・平家物語 | 25 | 2 | 10 | 6 | 7 |
| 8 | 泣虫記者 | 23 | 3 | 11 | 5 | 4 |
| 9 | 千羽鶴 | 17 | 4 | 8 | 2 | 3 |
| 〃 | 坊っちゃん | 17 | 5 | 10 | 1 | 1 |
| 10 | 親鸞 | 16 | 0 | 6 | 4 | 6 |
| 〃 | 潜行三千里 | 16 | 2 | 4 | 4 | 6 |
| 11 | 大地 | 14 | 4 | 7 | 2 | 1 |
| 〃 | 細雪 | 14 | 0 | 7 | 3 | 4 |
| 〃 | 波 | 14 | 5 | 7 | 0 | 2 |
| 〃 | ものの見方について | 14 | 3 | 8 | 1 | 2 |
| 〃 | 三国志 | 14 | 2 | 5 | 3 | 4 |
| 12 | 僕らはごめんだ | 13 | 5 | 6 | 2 | 0 |
| 13 | 天皇 | 12 | 0 | 4 | 3 | 5 |
| 〃 | 野火 | 12 | 2 | 7 | 3 | 0 |
| 〃 | 少年期 | 12 | 1 | 3 | 4 | 4 |
| 〃 | 異邦人 | 12 | 2 | 8 | 2 | 0 |
| 14 | 太閤記 | 11 | 0 | 1 | 6 | 4 |
| 〃 | チボー家の人々 | 11 | 3 | 4 | 2 | 2 |
| 〃 | 二十五時 | 11 | 1 | 6 | 1 | 3 |
| 〃 | 原爆の子 | 11 | 3 | 4 | 3 | 1 |
| 15 | 源氏物語（谷崎） | 9 | 1 | 1 | 0 | 7 |

＜女＞（年齢別）

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 風と共に去りぬ | 106 | 24 | 56 | 15 | 11 |
| 2 | 三等重役 | 36 | 4 | 12 | 12 | 8 |
| 3 | 女の一生(モーパッサン) | 32 | 14 | 14 | 2 | 2 |
| 4 | 大地 | 24 | 6 | 16 | 2 | 0 |
| 〃 | 放浪記 | 24 | 5 | 11 | 4 | 4 |
| 5 | 細雪 | 22 | 4 | 12 | 3 | 2 |
| 〃 | 嵐ケ丘 | 22 | 10 | 11 | 0 | 1 |
| 6 | レベッカ | 19 | 5 | 10 | 3 | 1 |
| 7 | 千羽鶴 | 18 | 2 | 9 | 3 | 4 |
| 8 | 少年期 | 17 | 0 | 7 | 7 | 3 |
| 9 | こころ | 16 | 10 | 5 | 1 | 0 |
| 〃 | 狭き門 | 16 | 7 | 7 | 2 | 0 |
| 10 | 波 | 15 | 6 | 7 | 0 | 2 |
| 〃 | アンナ・カレニナ | 15 | 3 | 9 | 3 | 0 |
| 11 | 新・平家物語 | 14 | 4 | 2 | 4 | 4 |
| 〃 | 若い人 | 14 | 7 | 6 | 0 | 1 |
| 12 | 源氏物語（谷崎） | 13 | 1 | 7 | 1 | 4 |
| 〃 | 赤と黒 | 13 | 6 | 7 | 0 | 0 |
| 13 | チボー家の人々 | 11 | 2 | 7 | 0 | 2 |
| 14 | めし | 10 | 0 | 4 | 5 | 1 |
| 〃 | 母 | 10 | 4 | 1 | 2 | 3 |
| 〃 | 春の嵐 | 10 | 6 | 4 | 0 | 0 |
| 15 | 宮本武蔵 | 9 | 2 | 5 | 1 | 1 |
| 〃 | ニッポン日記 | 9 | 3 | 3 | 1 | 2 |
| 〃 | 泣虫記者 | 9 | 1 | 6 | 2 | 0 |
| 〃 | 郷愁 | 9 | 1 | 7 | 0 | 1 |
| 16 | ノンちゃん雲に乗る | 8 | 3 | 1 | 3 | 1 |
| 〃 | 源氏物語（与謝野） | 8 | 4 | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 出家とその弟子 | 8 | 0 | 8 | 0 | 0 |
| 〃 | 谷間の百合 | 8 | 3 | 4 | 1 | 0 |

≪昭和二十八年≫

## この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＜男＞ | | （年齢別） | | | |
| 1 | 宮本武蔵 | 62 | 5 | 17 | 15 | 25 |
| 2 | 新・平家物語 | 34 | 2 | 9 | 8 | 15 |
| 〃 | 三国志 | 34 | 6 | 13 | 7 | 8 |
| 3 | 風と共に去りぬ | 30 | 4 | 15 | 6 | 5 |
| 〃 | 坊っちゃん | 30 | 15 | 6 | 5 | 4 |
| 4 | 親鸞 | 27 | 1 | 6 | 7 | 13 |
| 5 | 漱石全集 | 23 | 7 | 10 | 3 | 3 |
| 〃 | 太閤記 | 23 | 1 | 4 | 8 | 10 |
| 6 | 人間の歴史 | 22 | 0 | 9 | 5 | 8 |
| 7 | 千羽鶴 | 18 | 4 | 7 | 1 | 6 |
| 8 | 島崎藤村集 | 17 | 3 | 9 | 1 | 4 |
| 9 | 君の名は | 16 | 3 | 10 | 2 | 1 |
| 10 | 芥川竜之介集 | 15 | 4 | 9 | 2 | 0 |
| 11 | 三等重役 | 13 | 0 | 8 | 1 | 4 |
| 12 | こころ | 12 | 3 | 7 | 0 | 2 |
| 〃 | ぶらりひょうたん | 12 | 0 | 6 | 2 | 4 |
| 〃 | 真空地帯 | 12 | 2 | 5 | 5 | 0 |
| 13 | 大地 | 11 | 2 | 7 | 1 | 1 |
| 〃 | 山本有三集 | 11 | 2 | 5 | 2 | 2 |
| 〃 | ニッポン日記 | 11 | 0 | 2 | 5 | 4 |
| 〃 | 戦争と平和 | 11 | 3 | 4 | 1 | 3 |
| 14 | 旅愁 | 10 | 0 | 7 | 2 | 1 |
| 15 | 女の一生 | 9 | 3 | 4 | 0 | 2 |
| 15 | 若い人 | 9 | 2 | 6 | 0 | 1 |
| 〃 | 啄木全集 | 9 | 1 | 5 | 3 | 0 |
| 〃 | 昭和文学全集 | 9 | 3 | 0 | 1 | 5 |
| 〃 | 人生劇場 | 9 | 2 | 5 | 1 | 1 |
| 〃 | 現代世界文学全集 | 9 | 1 | 3 | 1 | 4 |

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＜女＞ | | （年齢別） | | | |
| 1 | 風と共に去りぬ | 55 | 11 | 29 | 7 | 8 |
| 2 | 旅愁 | 30 | 5 | 20 | 1 | 4 |
| 3 | 坊っちゃん | 28 | 11 | 10 | 2 | 5 |
| 〃 | 君の名は | 28 | 6 | 15 | 4 | 3 |
| 4 | 女の一生 | 23 | 8 | 10 | 3 | 2 |
| 5 | 狭き門 | 22 | 10 | 11 | 0 | 1 |
| 6 | 漱石全集 | 20 | 7 | 10 | 2 | 1 |
| 7 | 波 | 19 | 8 | 6 | 3 | 2 |
| 8 | 新・平家物語 | 17 | 3 | 6 | 0 | 8 |
| 9 | 宮本武蔵 | 16 | 1 | 8 | 3 | 4 |
| 〃 | 細雪 | 16 | 5 | 5 | 2 | 4 |
| 〃 | 愛と死 | 16 | 6 | 8 | 2 | 0 |
| 10 | こころ | 15 | 7 | 7 | 0 | 1 |
| 11 | 大地 | 14 | 5 | 5 | 2 | 2 |
| 〃 | 罪と罰 | 14 | 6 | 5 | 1 | 2 |
| 12 | 光ほのかに | 13 | 3 | 9 | 1 | 0 |
| 13 | 若い人 | 12 | 5 | 3 | 3 | 1 |
| 〃 | 友情 | 12 | 5 | 9 | 1 | 0 |
| 〃 | ジャンクリストフ | 12 | 2 | 8 | 2 | 0 |
| 〃 | 嵐ケ丘 | 12 | 2 | 6 | 3 | 1 |
| 〃 | チボー家の人々 | 12 | 3 | 8 | 1 | 0 |
| 〃 | 谷間の百合 | 12 | 2 | 8 | 8 | 0 |
| 14 | 親鸞 | 11 | 2 | 3 | 1 | 5 |
| 14 | 島崎藤村集 | 11 | 4 | 7 | 0 | 0 |
| 〃 | 雁 | 11 | 4 | 3 | 2 | 2 |
| 〃 | 放浪記 | 11 | 4 | 7 | 0 | 0 |
| 15 | 人間の歴史 | 10 | 0 | 4 | 5 | 1 |

≪昭和二十九年≫

## この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＜男＞ | | （年齢別） | | | |
| 1 | 昭和文学全集 | 42 | 4 | 18 | 12 | 8 |
| 2 | 宮本武蔵 | 38 | 6 | 14 | 9 | 9 |
| 3 | 人間の歴史 | 30 | 5 | 12 | 4 | 9 |
| 4 | 風と共に去りぬ | 28 | 5 | 15 | 3 | 5 |
| 5 | 大東亜戦史 | 25 | 4 | 7 | 7 | 7 |
| 6 | 新・平家物語 | 24 | 3 | 11 | 2 | 8 |
| 7 | 源氏物語（谷崎） | 21 | 5 | 4 | 6 | 6 |
| 8 | 女性に関する十二章 | 18 | 0 | 12 | 5 | 1 |
| 〃 | 大地 | 18 | 6 | 5 | 6 | 1 |

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＜女＞ | | （年齢別） | | | |
| 1 | 風と共に去りぬ | 40 | 14 | 11 | 8 | 7 |
| 2 | 愛は死をこえて | 38 | 10 | 15 | 8 | 5 |
| 3 | 女性に関する十二章 | 34 | 3 | 20 | 3 | 8 |
| 4 | 女の一生 | 30 | 10 | 13 | 6 | 1 |
| 〃 | 君の名は | 30 | 9 | 17 | 2 | 2 |
| 5 | 友情 | 25 | 18 | 7 | 0 | 0 |
| 6 | 昭和文学全集 | 23 | 1 | 15 | 3 | 4 |
| 7 | 愛と死 | 18 | 13 | 2 | 0 | 3 |
| 〃 | 真実一路 | 18 | 8 | 6 | 3 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 潮騒 | 17 | 0 | 12 | 3 | 2 |
| 10 | 親鸞 | 15 | 0 | 3 | 5 | 7 |
| 〃 | 三国志 | 15 | 3 | 6 | 1 | 5 |
| 11 | 漱石全集 | 14 | 4 | 6 | 1 | 3 |
| 12 | 女の一生 | 13 | 2 | 9 | 1 | 1 |
| 〃 | 太閤記 | 13 | 2 | 2 | 4 | 5 |
| 13 | ジャンクリストフ | 12 | 6 | 4 | 1 | 1 |
| 14 | 三四郎 | 11 | 7 | 3 | 0 | 1 |
| 〃 | 火の鳥 | 11 | 0 | 5 | 0 | 6 |
| 15 | 次郎物語 | 10 | 5 | 2 | 0 | 3 |
| 〃 | 暗夜行路 | 10 | 5 | 3 | 1 | 1 |
| 〃 | 日本資本主義講座 | 10 | 1 | 6 | 1 | 2 |
| 〃 | 坊っちゃん | 10 | 7 | 1 | 1 | 1 |
| 〃 | 赤と黒 | 10 | 1 | 8 | 1 | 0 |
| 〃 | 世界文学全集 | 10 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 16 | 人生劇場 | 9 | 3 | 5 | 1 | 0 |
| 〃 | 現代日本文学全集 | 9 | 0 | 3 | 3 | 3 |
| 〃 | 源氏物語（谷崎） | 18 | 3 | 7 | 4 | 4 |
| 〃 | 潮騒 | 18 | 5 | 8 | 5 | 0 |
| 8 | 細雪 | 17 | 7 | 4 | 3 | 3 |
| 9 | 大雪 | 16 | 2 | 10 | 2 | 2 |
| 〃 | 風立ちぬ | 16 | 8 | 6 | 1 | 1 |
| 〃 | 坊っちゃん | 16 | 13 | 1 | 1 | 1 |
| 10 | 火の鳥 | 15 | 7 | 4 | 2 | 2 |
| 〃 | 赤と黒 | 15 | 4 | 6 | 1 | 4 |
| 〃 | 光ほのかに | 15 | 8 | 2 | 3 | 2 |
| 11 | 狭き門 | 14 | 8 | 6 | 0 | 0 |
| 〃 | 世界文学全集 | 14 | 3 | 4 | 5 | 2 |
| 〃 | 林芙美子集 | 14 | 2 | 6 | 1 | 5 |
| 〃 | 放浪記 | 14 | 6 | 5 | 1 | 2 |
| 12 | チボー家の人々 | 13 | 7 | 5 | 0 | 1 |
| 〃 | 親鸞 | 13 | 1 | 6 | 1 | 5 |
| 13 | 波 | 12 | 4 | 3 | 1 | 4 |
| 〃 | 新・平家物語 | 12 | 1 | 5 | 5 | 1 |
| 〃 | 漱石全集 | 12 | 3 | 4 | 3 | 2 |

≪昭和三十年≫

**この一年間に読んだ書籍のうち良書と思ったもの**

＜男＞（年齢別）

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | はだか随筆 | 71 | 15 | 26 | 18 | 12 |
| 2 | 宮本武蔵 | 53 | 12 | 11 | 14 | 16 |
| 3 | 人間の歴史 | 30 | 3 | 6 | 12 | 9 |
| 4 | 新・平家物語 | 28 | 2 | 7 | 9 | 10 |
| 5 | 風と共に去りぬ | 26 | 2 | 15 | 7 | 2 |
| 6 | 親鸞 | 25 | 4 | 7 | 6 | 8 |
| 7 | 細雪 | 22 | 4 | 4 | 10 | 4 |
| 8 | 源氏物語（谷崎） | 21 | 5 | 6 | 3 | 7 |
| 9 | 潮騒 | 20 | 5 | 10 | 5 | 0 |
| 10 | 次郎物語 | 19 | 11 | 4 | 1 | 3 |
| 11 | 君の名は | 16 | 1 | 8 | 3 | 4 |
| 12 | 三四郎 | 15 | 7 | 6 | 0 | 2 |
| 13 | 裁判官 | 14 | 2 | 4 | 7 | 1 |
| 〃 | 坊っちゃん | 14 | 10 | 3 | 1 | 0 |
| 〃 | こころ | 14 | 4 | 10 | 0 | 0 |
| 14 | うらなり抄 | 12 | 1 | 3 | 5 | 3 |
| 〃 | 少年期 | 12 | 3 | 5 | 2 | 2 |
| 15 | 太閤記 | 11 | 1 | 3 | 2 | 5 |
| 〃 | 欲望 | 11 | 2 | 6 | 3 | 0 |
| 〃 | 大地 | 11 | 5 | 5 | 1 | 0 |
| 〃 | 潜行三千里 | 11 | 1 | 2 | 5 | 3 |
| 〃 | 自分の穴の中で | 11 | 1 | 6 | 4 | 0 |
| 16 | ものの見方について | 10 | 0 | 8 | 1 | 1 |

＜女＞（年齢別）

| 順位 | 書籍名 | 計 | 16歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 君の名は | 41 | 10 | 15 | 11 | 5 |
| 2 | 女性に関する十二章 | 38 | 5 | 24 | 5 | 4 |
| 3 | 女の一生 | 31 | 17 | 10 | 1 | 3 |
| 4 | 愛は死をこえて | 28 | 7 | 13 | 7 | 1 |
| 5 | 風と共に去りぬ | 25 | 7 | 13 | 4 | 1 |
| 〃 | 細雪 | 25 | 1 | 15 | 7 | 2 |
| 6 | はだか随筆 | 24 | 6 | 11 | 5 | 2 |
| 〃 | 潮騒 | 24 | 6 | 12 | 5 | 1 |
| 7 | 源氏物語（谷崎） | 23 | 5 | 6 | 10 | 2 |
| 〃 | こころ | 23 | 8 | 8 | 4 | 3 |
| 〃 | 次郎物語 | 23 | 10 | 5 | 3 | 5 |
| 8 | 少年期 | 21 | 4 | 3 | 8 | 6 |
| 9 | 大地 | 19 | 11 | 4 | 2 | 2 |
| 10 | 光ほのかに | 16 | 2 | 11 | 3 | 0 |
| 〃 | 友情 | 16 | 10 | 7 | 0 | 0 |
| 11 | 愛と死 | 15 | 10 | 3 | 2 | 0 |
| 〃 | 新・平家物語 | 15 | 1 | 10 | 3 | 1 |
| 12 | 浮雲（林） | 13 | 4 | 7 | 2 | 0 |
| 13 | しいのみ学園 | 12 | 3 | 4 | 4 | 1 |
| 14 | 親鸞 | 11 | 2 | 6 | 2 | 1 |
| 〃 | 狭き門 | 11 | 6 | 5 | 0 | 0 |
| 〃 | 路傍の石 | 11 | 6 | 3 | 1 | 1 |
| 〃 | たけくらべ | 11 | 6 | 2 | 0 | 3 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〃 | 大東亜戦史 | 10 | 0 | 2 | 3 | 5 | 〃 | 放浪記 | 11 | 3 | 4 | 3 | 1 |
| 17 | 三等重役 | 9 | 0 | 3 | 3 | 3 | 〃 | 二十四の瞳 | 11 | 2 | 5 | 3 | 1 |
| 〃 | 財閥 | 9 | 1 | 2 | 3 | 3 | 15 | 風立ちぬ | 10 | 2 | 6 | 1 | 1 |
| 〃 | ジャンクリストフ | 9 | 2 | 6 | 1 | 0 | 16 | この子を残して | 9 | 2 | 4 | 2 | 1 |

(毎日新聞社世論調査部　佐々木碩哉)

# 読書に関する欧文参考文献(II)*

慶応義塾大学講師
室伏武*

Bibliography

1. Betts, E. A. and Betts, T. M. comps. *Index to professional literature on reading and related topics.* (to January 1, 1943) New York, American Book, 1945.

2. Gray, W. S. *Summary of investigations relating to reading.* Chicago, University of Chicago Press. 1925.
1924年7月1日までの間に出版された436の科学的研究の各成果について要約したもの。

3. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1924 to June 30, 1925. *Elementery School Journal,* 26 : 449—59, 507—18, 574—84, 662—73, 1926.

4. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1925 to June 30, 1926. *Elementary School Journal,* 27 : 456—66, 495—510, 1927.

5. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1926 to June 30, 1927. *Elementary School Journal,* 28 : 443—59, 496—510, 587—602, 1928.

6. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1927 to June 30, 1928. *Elementary School Journal,* 29 : 443—57, 496—509, 1929.

7. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1928 to June 30, 1929. *Elementary School Journal,* 30 : 450—66, 499—509, 1930.

8. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1929 to June 30, 1930. *Elementary School Journal,* 31 : 531—46, 592—606, 1931.

9. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1930 to June 30, 1931. *Elementary School Journal,* 32 : 447—63, 510—20, 587—94, 1932.

10. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1931 to June 30, 1932. *Journal of Educational Research,* 26 : 401—24, February 1933.

11. Grry, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1932 to June 30, 1933. *Journal of Educational Research,* 27 : 564—91, February 1934.

12. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1933 to June 30, 1934. *Journal of Educational Research,* 28 : 401—24, *February* 1935.

13. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1934 to June 30, 1935. *Journal of Educational Research,* 29 : 407—32, February 1936.

14. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1935 to June 30, 1936. *Journal of Educational Research,* 30 : 553—76, February 1937.

15. Gary, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1936 to June 30, 1937. *Journal of Educational Research,* 31 : 401—34, February 1938.

* Bibliographies on the Science of Reading
By Shōzō Muraishi
(National Language Research Institute)

16. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1937 to June 30, 1938. *Journal of Educational Research,* 32 : 481—517 February 1939.

17. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1938 to June 30, 1939. *Journal of Educational Research,* 33 : 481—523 February 1940.

18. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1939 to June 30, 1940. *Journal of Educational Research,* 34 : 401—43, February 1941.

19. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1940 to June 30, 1941. *Journal of Educational Research,* 35 : 401—42, February 1942.

20. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1941 to June 30, 1942. *Journal of Educational Research,* 36 : 401—44, February 1943.

21. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1942 to June 30, 1943. *Journal of Educational Research,* 37 : 401—40, February 1944.

22. Gray, W. S. Summary of investigationsrelating to reading, July 1, 1943 to June 30, 1944. *Journal of Educational Research,* 28 : 401—29, February 1945.

23. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1944 to June 30, 1945. *Journal of Educational Research,* 39 : 401—33, February 1946.

24. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1945 to June 30, 1946. *Journal of Educational Research,* 40 : 401—35, February 1947.

25. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1946 to June 30, 1947. *Journal of Educational Research,* 41 : 401—35, February 1948.

26. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1947 to June 30, 1948. *Journal of Educational Research,* 42 : 401—37, February 1949.

27. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1948 to June 30, 1949. *Journal of Educational Research,* 43 : 401—39, February 1950.

28. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1949 to June 30, 1950. *Journal of Educational Research,* 44 : 401—41, February 1951.

29. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1950 to June 30, 1951. *Journal of Educational Research,* 45 : 401—37, February 1952.

30. Gray, W. S. Summary of investgations relating to reading, July 1, 1951 to June 30, 1952. *Journal of Educational Research,* 46 : 401—37, February 1953.

31. Gary, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1952 to June 30, 1953. *Journal of Educational Research,* 47 : 401—39, February 1954.

32. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1953 to June 30, 1954, *Journal of Educational Research,* 48 : 401—42, February 1955.

33. Gray, W. S. Summary of investigations relating to reading, July 1, 1954 to June 30, 1955. *Journal of Educational Research,* 49 : 401—36, February 1956.

34. Huey, E. B. *The psychology and pedagogy of reading,* New York, Macmillan, 1912. p. 1—184. アメリカは勿論それ以外の国の読書についての50年の研究の優れた要約がある。

35. Traxler, A. E. *Ten years of research in reading* New York, Educational Records Bureau, 1941. 1930年から1939年までの10年間の 618 の研究が含まれている。

36. Traxler, A. E. and Townsend, A. *Another five years of research in reading.* New York, Education Records Bureau, 1946. 1940年より1945年の 5 年間の 527 の研究が含まれている。bibliography がある。

37. Traxler, A. E. and Townsend, A. *Eight more years of research in reading.* New York, Education Records Bureau, 1955. bibliography がある。

38. Triggs, F. O. Recent books on reading; review. *Educational and Psychological Measurement* vol. 14 No. 1, p. 232—41, 1954.

39. Toronto. University. College of Education. Department of educational research. *Bibliographies for teachers, reading.* 3d rev. ed. Toronto, The dept. 1945. 〔mimeographed〕

40. United States. Office of Education. Library Division. Reading. *In* Bibliography of research studies in education, 1939—1940. p. 64—71.

## 日本読書学会会報

前号報告以後の学会のおもな動きは，つぎのとおりである。

### A．理事会

○昭和31年2月5日：

(1) 出席者　石山，岡本，阪本，佐藤，島崎，平沢，深川，村石，室伏，望月，花田の各理事

(2) 議　事

イ．各部会の研究情況報告

ロ．「児童雑誌に関する研究発表会」についての反省と今後の研究

ハ．科学研究費の申請について（主題は，「読書の人間形成に及ぼす影響についての追跡的研究」）

○昭和32年3月8日

(1) 出席者　石山，阪本，望月，長島，岡本，村石，深川，平沢（8名）

(2) 議　事

イ．第二部会，第四部会及び第五部会の研究経過について。第四部会の精密な統計的データーを「読書科学」の別冊として出版すること。

ロ．基金募集について，各理事分担して活動すること。

ハ．外国大学での読書指導のための研究機関や事業を照会して手紙で逐次本誌に発表すること。

ニ．雑誌交換について。

### B．児童雑誌に関する研究発表会の開催

昭和31年2月5日，東京都学校図書館協議会との共催東京都教育委員会後援により，つぎの公開研究会を行った。その要項はつぎの通りである。

**児童雑誌に関する研究発表会要項**

1．趣　旨

わが国の児童文化における児童雑誌の役割にはきわめて大きいものがあります。数年来，不良文化財追放の世論が起りつつある中でも，児童雑誌についての批判はきびしいものがあり，児童雑誌もこうした世論の流れに応じて大きい変貌をなしつつある現状であります。

この際，児童雑誌の向上を期するには，これについての世論をさらに起すとともに，一方これについての学的研究をなすことが特に必要に思われます。

そこで，この研究の発展に資するため，最近行われた児童雑誌についての研究成果を発表し，さらに，学者・教育者等の協力のもとに，研究協議会を催すこととなりました。

2．場　所　東京都千代田区立芳林小学校

3．発表主題　児童雑誌についての分析的研究

4．発 表 者　イ．東京学芸大学内読書科学研究会（代表者　阪本一郎氏）（本年1月号児童雑誌についての分析的研究）

ロ．東京都立教育研究所内児童読物調査研究会　発表者　高野桂一氏

ハ．成蹊小学校児童雑誌研究グループ（代表者　滑川道夫氏）（同会では，昨夏全校教員の協力により主題の研究を行った。）

5．協　議　イ．司会者　東京教育大学教授　石山脩平氏

ロ．パネルデイスカッション

来会者は，東京都内及び近県の小中高等学校の関係者の外，PTA関係者，報道出版関係者等を主として，約300名であった。

当日の発表のうち，東京学芸大学阪本教授のものと，成蹊小学校の分とは，本号にそれぞれ収載されている。

パネルデイスカッションは，石山脩平氏の司会により，阪本一郎，滑川道夫，高野桂一，田辺繁子，野村純三（成蹊小学校教諭），松本　武（千代田区立芳林小学校教諭），森久保仙太郎（和光学園小学校教諭）の各氏をメンバーとして行われた。

おもな発言を摘録すると：

阪本——児童雑誌の娯楽化は認めてよいが，内容に問題がある。口絵に少女歌手の入浴場面を掲げたり，原子力兵器で戦争をする漫画を載せたりするのはどうか。また付録はやめて，本誌を充実すべきである。いなかの子どもに文化財を提供するという口実は，頂けない。

子どもには玩具の選択権があるはずである。

野村――ピストル，日本刀がはんらんしている。子どもが慣れきって，麻痺しているということは恐しいことだ。

松本――学習雑誌には教養記事とあくどい読みものとを抱き合せにしているものがある。付録に虎の巻式のものがあって，何々先生監修となっているが，無責任なものが少くない。

高野――漫画の内容が貧弱で，ただ表現の誇張だけで子どもを笑わせようとしている。もっと高いユーモアがほしい。また成人向の作品をただわかりやすくしただけではいけない。付録は，点数を少くして，質のよいものにした方がよい。おもちゃは読書とは別の世界である。もっと創作的な内容のものがほしい。

森久保――娯楽雑誌が批判のほこ先をかわそうとして，学習記事をはさみこんでいるが，そんなことをせず，娯楽雑誌に徹して，小説や童話の質を向上することを考えるべきである。付録は本でなければいけない。質のいい本を少しでもよいから付けてほしい。何大付録などと歌って子どもをペテンにかけてもらいたくはない。また雑誌は個人の所有になるところに喜びがあるのだから，100円以下がよい。

監修の先生は，実質的に監修してほしい。実は本人が知らないうちに名前が出ていたという例もある。実際に執筆した指導のことばでも〝社会科というのは社会を正しく理解し批判する学科ですから，お母さんもそのように指導してください〟というような投げやりでは困る。文学作品についても，あっさりと簡単なモラルに引きつけて片づけるような指導がある。こんなのは，ない方がましだ。

田辺――子どもの健全な興味をとらえていないように思う。おとなの世界のことを，ただ人物を若くしただけのものがある。美女がさらわれて美男が助けるといったような新聞の三面記事に近いものは，やめてほしい。付録の工作物には，切り込みがズレているものがあって，無責任である。付録やページ数をへらしても，もっと安価なものができないか。

滑川――付録については，私も今まで廃止論者であったが，いくら主張してもだめだ。これは日本が貧乏国だから，やむを得ない。現在のようなものでも，大へんに喜ばれている現実に立つべきだ。作ってすぐこわれてしまうような物でも，その組立ての過程が楽しいのだから，構わない。ただもっと質を高めることを研究してほしいと思う。

推薦者のえらい先生のことばに実際に値するような雑誌にしてほしい。

石山――子どもの漫画にも，太陽族が横行している。局所を誇張してあるので，歴史的な素材を扱っていても，理解をあやまらせる。事件の背景にある歴史の流れを黙殺している。教育的良識を深めてもらいたい。有識者が監修するのも結構であるが，出版社や編集者の態度が根本である。さらに監修の監修をするのは一般の父兄である。そのようにして国民全体が児童文化の関心を高めていくことが大切である。

## 日本読書学会機関誌編集規定

1．会則第4条第6号による機関誌は，当分の間1年1巻として4号に分けて発行する。

2．本誌は原則として本会会員又は会員が共同研究者である研究業績及びその他の情報を掲載する。

3．本誌を編集するため編集委員会を置く。
編集委員会は理事長及び理事長の指名による編集委員若干名によって構成する。

4．原稿は編集委員会の選考によって掲載する。掲載の場合，多少原稿に添削を加えることがある。
但し大きな変更を加える時は筆者と相談する。

5．原著執筆者に対しては，抜刷20部を贈呈する。

6．本誌掲載の論文を，無断で複製及び転載することを禁ずる。

## 読書指導講座

亀井勝一郎　滑川道夫
阪本一郎　波多野完治　編集

1 読書指導の原理　¥250
2 読書指導の心理と生理　¥250
3 読書指導の計画　¥300
4 幼年期の読書指導　¥280
5 児童期の読書指導　¥300
6 少年期の読書指導　¥300
7 青年期の読書指導　¥330
8 学校図書館と読書指導　¥330
9 児童読物と読書指導　¥380
10 教科学習と読書指導　¥330

阪本一郎編
読書指導ハンドブック　函入　¥850
付・図書館教育細案

阪本一郎著
読書指導 原理と方法　函入　¥650

ファーゴ著　阪本.藤川.若林訳
学校の図書館　函入　¥750

トリッグス著　阪本一郎訳
読書力の治療　¥200

阪本一郎著
読書指導の手引　¥200

ボンド・ハンドラン著　阪本一郎訳
個人差に応じた読書指導　¥180

滑川道夫編
読書指導の実践　¥380

滑川道夫編
読書指導の展開　¥380

ダグラス著　裏田武夫訳
司書教諭ハンドブック　¥280

ダグラス著　渡辺正亥訳
学校図書館ハンドブック　¥170

滑川道夫案
読書ノート　¥25

阪本一郎著
**阪本D式標準読書テスト**
A号 読書レディネス診断テスト
幼稚園～小学一年用(用紙¥10,手引¥60)
B号 基礎読書力診断テスト
小学一年～三年用 (用紙¥15, 手引¥60)
C号 標準読書力診断テスト
四年以上,中学高校用(用紙¥19,手引¥70)

平井昌夫編
国語教育ハンドブック　函入　¥1,400

阪本一郎著
読書の心理　¥380

長島貞夫著
児童社会心理学　¥500

講座　学級経営(学年別)
新しい学級づくり　全6冊
勝田守一　国分一太郎
滑川道夫　柳内達雄　編
「2年」¥430
「4年」¥430

牧書店

発行図書目録呈

Vol. II, No. 1 April, 1957

# THE SCIENCE OF READING

Edited by **The Japanese Society for the Science of Reading**
c/o The Faculty of Education,
Tokyo University of Education, Japan
**President** : Shūhei Ishiyama

## CONTENTS

**Original Articles**

Fundamental Objectives in Reading *Kunizō Nakata* ..... 1

Study on the Approach and Appreciation of the Literature by the Secondary Pupils *Keiroku Okamoto (the 2nd Study Group, JSSR)* ..... 6

A Report of the Social Survey of Reading *The 4th Study Group, JSSR* ..... 11

The Real Aspects of Juvenile Magazine and their Evaluation *The Educational Research Institute, Seikei Primary School* ..... 17

Some Characteristics of Juvenile Magazines—Recent Tendency of their Compilation *Ichirō Sakamoto (JSSR, 5th Study Group)* ..... 24

Problems of Accessibility on reading of children *Kōichi Iida* ..... 33

**Current Topics** ..... 41

**Materials**

On the Study of Standard Reading *Tsunenobu Fukagawa* ..... 43

On the Great Books Foundation—Its history and action *Itsuaki Hatsukade* ..... 45

A Survey on reading interest in a High School *Tsumoru Arai* ..... 50

Transition of Reading Life of Japanese People *Sekiya Sasaki* ..... 55

Bibliographies on the Science of Reading *Takeshi Murobushi* ..... 61

**Official Notes** ..... 63

第 2 巻 第 1 号
<通巻 第3号>
昭和32年4月20日印刷
昭和32年4月25日発行

定価 120円

東京都文京区大塚窪町24
東京教育大学教育学研究室内
振替東京3213番
編者 日本読書学会
代表 石山脩平

東京都新宿区揚場町1
発行者 牧義雄

発行所 株式会社 牧書店
東京都新宿区(牛込局区内)揚場町1

IBM 6655

印刷・文教印刷株式会社

昭和三十二年四月二十五日発行（年四回、一、四、七、十月各月二十五日発行）
昭和三十一年十二月二十七日国鉄特別扱雑誌 第三二七三号